

本 庄 中 北 原 遺 跡

—店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2018

本 庄 市 教 育 委 員 会

本 庄 中 北 原 遺 跡

—店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2018

本 庄 市 教 育 委 員 会



調査区遠景



第11号竪穴住居跡出土三脚鉢

序

埼玉県北部に位置する本庄市は国学者塙保己一誕生の地として広く知られており、近年リニューアルオープンした塙保己一記念館も市民から大変親しまれております。また本庄市は養蚕業における生産・流通の主要な中心地であったことから、多くの養蚕関連施設が残っております。埼玉県指定有形文化財（建造物）である競進社模範蚕室をはじめとして、国登録有形文化財である旧本庄商業銀行煉瓦倉庫や、市内に散見される高窓の家と呼ばれる養蚕住宅などは当時の賑わいに思いをはせる良い手がかりとなります。

そうした文化的な豊かさを持つ伝統は、古代からの多くの遺跡の存在からもうかがい知ることが出来ます。本書で報告する本庄中北原遺跡周辺には、複数の大規模な古墳群をはじめとして、発掘調査された分だけでも数百軒に達する竪穴住居跡、中近世における城館跡等の埋蔵文化財がひしめいています。

本庄中北原遺跡は、そうした遺跡群の中心地とも言え、その立地の良さによるためか、いくつもの時代の遺構が重なって検出されました。古墳時代から平安時代にいたるまでの竪穴住居の跡からは人々が何度もこの地での生活を繰り返したことが分かり、また、2基の古墳からは地域の有力者の存在も推定できます。中世から近世の堀の跡からは、戦国時代の合戦や城の様子が想像できます。

本書は、店舗建設に先立って実施した発掘調査の成果をまとめたものでありますが、本庄市の歴史を考えるうえで重要な資料の一つになるものと思われます。また、学術的な資料としてはもとより、郷土の歴史や遺跡を理解する一助として、多くの皆様に広くご活用いただければ幸甚に存じます。

最後になりましたが、現地の発掘調査から整理・報告書の刊行にあたって全面的にご協力いただきました合同会社本庄プロジェクトをはじめとして、様々なご協力やご教示を賜りました関係諸機関並びに関係者の皆様に対して、心からお礼を申し上げます。

平成 30 年 3 月

本庄市教育委員会
教育長 勝山 勉

例 言

1. 本書は、埼玉県本庄市中央二丁目に所在した本庄中北原遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は店舗建設に伴う事前の記録保存を目的として、平成28年度に調査を実施した。
3. 発掘調査は合同会社本庄プロジェクトの委託を受けて本庄市教育委員会が実施した野善行が担当した。現地調査は伊藤順一（有限会社毛野考古学研究所）が専任した。
4. 発掘調査から報告書作成・刊行に至る経費は、合同会社本庄プロジェクトが負担した。
5. 発掘調査面積は1,604㎡である。
6. 発掘調査期間および整理期間は以下のとおりである。
 発掘調査 自 平成29年2月27日 至 平成29年3月31日
 整理作業 自 平成29年8月4日 至 平成30年3月30日
7. 発掘調査にかかわる基準点測量は小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）、遺構測量は小出・石塚伸輝（有限会社毛野考古学研究所）、空中写真撮影は小出が行った。
8. 整理作業・報告書刊行に関わる業務は、有限会社毛野考古学研究所に委託した。
9. 出土した人骨については櫛崎修一郎氏（大妻女子大学博物館）に鑑定をしていただいた。
10. 本書の執筆は第Ⅰ章を本庄市教育委員会事務局、第Ⅱ章を南田法正（有限会社毛野考古学研究所）、第Ⅵ章を櫛崎、第Ⅱ～Ⅴ章を伊藤が担当した。遺物実測は石器を土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）、他を伊藤が担当した。遺物写真撮影については酒井萌（有限会社毛野考古学研究所）が行った。
11. 本書に掲載した出土遺物、遺構・遺物の実測図及び写真、その他本報告に関連する資料は本庄市教育委員会が保管している。
12. 発掘調査・整理作業及び報告書刊行にかかる本庄市教育委員会の組織は以下のとおりである。

発掘調査・整理調査・報告書刊行組織

平成28年度

教育長	勝 山 勉
事務局長	稲 田 幸也
次長	山 田 由幸
課長	杉 原 初
課長補佐兼埋蔵文化財係長	太 田 博之
主幹	恋河内 昭彦
主査	松 本 完
主査	徳 山 寿樹
主任	的 野 善行
臨時職員	中 嶋 淳子
調査員	伊 藤 順一 (毛野考古学研究所)

平成29年度

教育長	勝 山 勉
事務局長	稲 田 幸也
課長	杉 原 初
課長補佐兼埋蔵文化財係長	恋河内 昭彦
主査	松 本 完
主査	塩 原 浩
主査	徳 山 寿樹
主任	的 野 善行
臨時職員	中 嶋 淳子
調査員	伊 藤 順一 (毛野考古学研究所)

凡 例

1. 本書掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺は各種図中に付すスケールに準拠する。遺構図中の北方位は座標北を、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標は世界測地系を用いている。
2. 調査区には5 m四方のグリッドを設定した。北西隅を基準杭 (A 1) (X: 27205、Y: -57985) とし、南へA・・・P、東へO・・・10に区分けした。各グリッドは北西隅にあたる杭の名称で、例えば「A-1 グリッド」と呼称した。
3. 土層及び土器の色調観察は『新版 標準土色帳』(農林水産技術会事務局・財団法人日本色彩研究所監修 2014) を用いた。
4. 土層説明における含有物の量は、大量 (50%以上)・多量 (30～49%)・少量 (4～29%)・微量 (1～3%) とした。なお、文中及び土層説明中におけるAs-Bの表記は浅間B軽石 (1108年降下) のことを示す。
5. 遺物番号は実測図・観察表・写真図版ともに共通である。
6. 本文中及び遺物観察表における[]は復元値、< >は残存値を示す。
7. 全体図中における遺構名については以下のとおりである。

SI: 堅穴住居跡 SB: 掘立柱建物跡 SO: 古墳 SK: 土坑 SD: 溝 SP: ビット・柱穴

目 次

第1章 発掘調査に至る経緯	1	第5節 土坑	32
第II章 基本層序	2	第6節 溝	51
第III章 遺跡の立地と歴史的環境	2	第7節 ビット	55
第IV章 検出された遺構と遺物	7	第8節 遺構外出土遺物	71
第1節 遺跡の概要	7	第V章 まとめ	72
第2節 堅穴住居跡	7	第11号堅穴住居跡出土三脚鉢について	72
第3節 掘立柱建物跡	30	第VI章 本庄中北原遺跡出土中世人骨	74
第4節 古墳	30		

<挿 図 目 次>

第1図 調査区位置図	1	第12図 第3号堅穴住居跡遺構図2・第3号堅穴住居跡出土遺物1	12
第2図 基本層序	2	第13図 第3号堅穴住居跡出土遺物2	13
第3図 埼玉県の地形と遺跡の位置	3	第14図 第4・5号堅穴住居跡遺構図	15
第4図 周辺の主要遺跡分布図	5	第15図 第6号堅穴住居跡出土遺物	15
第5図 全体図	6	第16図 第6号堅穴住居跡遺構図	16
第6図 第1号堅穴住居跡遺構図・第1号堅穴住居跡出土遺物1	7	第17図 第7号堅穴住居跡遺構図	17
第7図 堅穴住居跡・掘立柱建物跡・古墳位置図	8	第18図 第7号堅穴住居跡出土遺物1	18
第8図 第1号堅穴住居跡出土遺物2	9	第19図 第7号堅穴住居跡出土遺物2	19
第9図 第2号堅穴住居跡出土遺物	9	第20図 第8・9号堅穴住居跡遺構図	21
第10図 第2号堅穴住居跡遺構図	10	第21図 第8号堅穴住居跡出土遺物	21
第11図 第3号堅穴住居跡遺構図1	11	第22図 第9号堅穴住居跡出土遺物	22

第23図	第10号竪穴住居跡遺構図……………	23	第45図	土坑遺構図9(第83・84・87～96号土坑) ……………	47
第24図	第10号竪穴住居跡出土遺物……………	24	第46図	土坑遺構図10(第98～108・112号土坑) ……………	48
第25図	第11号竪穴住居跡出土遺物……………	25	第47図	土坑遺構図11(第109～111・113～116・ 118～121・123～125号土坑)……………	49
第26図	第11号竪穴住居跡遺構図……………	26	第48図	土坑出土遺物1……………	49
第27図	第12号竪穴住居跡遺構図……………	27	第49図	土坑出土遺物2……………	50
第28図	第12号竪穴住居跡出土遺物1……………	28	第50図	第1号溝出土遺物1……………	51
第29図	第12号竪穴住居跡出土遺物2……………	29	第51図	第1号溝出土遺物2・第1・2・4号溝遺 構図……………	52
第30図	第1号掘立柱建物跡遺構図……………	30	第52図	第3号溝遺構図……………	53
第31図	第1号古墳出土遺物……………	30	第53図	第4号溝出土遺物……………	54
第32図	第1号古墳遺構図……………	31	第54図	第5号溝遺構図……………	54
第33図	第2号古墳遺構図……………	32	第55図	ビット出土遺物……………	62
第34図	土坑位置図1……………	36	第56図	ビット位置図1……………	63
第35図	土坑位置図2……………	37	第57図	ビット位置図2……………	64
第36図	土坑位置図3……………	38	第58図	ビット位置図3……………	65
第37図	土坑遺構図1(第1～5・7～10号土坑) ……………	39	第59図	ビット位置図4……………	66
第38図	土坑遺構図2(第11～18・30号土坑)……………	40	第60図	ビット位置図5……………	67
第39図	土坑遺構図3(第19～28号土坑)……………	41	第61図	ビット位置図6……………	68
第40図	土坑遺構図4(第29・31～35・37・38号土坑) ……………	42	第62図	ビット位置図7……………	69
第41図	土坑遺構図5(第39～49・122号土坑)……………	43	第63図	ビット位置図8……………	70
第42図	土坑遺構図6(第50～60・62号土坑)……………	44	第64図	遺構外出土遺物……………	71
第43図	土坑遺構図7(第61・63～68・69・72・73 号土坑)……………	45	第65図	本庄市域出土の三脚鉢……………	72
第44図	土坑遺構図8(第74～82・85・86号土坑) ……………	46	第66図	他地域における出土事例……………	73

＜挿 表 目 次＞

第1表	第1号竪穴住居跡出土遺物観察表……………	9	第17表	土坑出土遺物観察表1……………	50
第2表	第2号竪穴住居跡出土遺物観察表1……………	10	第18表	土坑出土遺物観察表2……………	51
第3表	第2号竪穴住居跡出土遺物観察表2……………	11	第19表	第1号溝出土遺物観察表……………	53
第4表	第3号竪穴住居跡出土遺物観察表……………	14	第20表	第4号溝出土遺物観察表……………	54
第5表	第6号竪穴住居跡出土遺物観察表……………	16	第21表	ビット計測値1……………	55
第6表	第7号竪穴住居跡出土遺物観察表1……………	19	第22表	ビット計測値2……………	56
第7表	第7号竪穴住居跡出土遺物観察表2……………	20	第23表	ビット計測値3……………	57
第8表	第8号竪穴住居跡出土遺物観察表……………	22	第24表	ビット計測値4……………	58
第9表	第9号竪穴住居跡出土遺物観察表……………	22	第25表	ビット計測値5……………	59
第10表	第10号竪穴住居跡出土遺物観察表……………	24	第26表	ビット計測値6……………	60
第11表	第11号竪穴住居跡出土遺物観察表……………	26	第27表	ビット計測値7……………	61
第12表	第12号竪穴住居跡出土遺物観察表……………	29	第28表	ビット計測値8……………	62
第13表	第1号古墳出土遺物観察表……………	30	第29表	ビット出土遺物観察表……………	62
第14表	土坑一覧表1……………	33	第30表	遺構外出土遺物観察表……………	71
第15表	土坑一覧表2……………	34			
第16表	土坑一覧表3……………	35			

＜図 版 目 次＞

図版 1	調査区北半全景	第 2 号古墳全景
	調査区南半全景	調査区北西部土坑群
図版 2	第 1 号竪穴住居跡全景	第 18・30・55 号土坑全景
	第 1 号竪穴住居跡遺物出土状態	第 20 号土坑全景
	第 2 号竪穴住居跡全景	図版 6 第 27 号土坑全景
	第 3 号竪穴住居跡全景	第 31 号土坑焼骨出土状態
	第 3 号竪穴住居跡カマド遺物出土状態	第 31 号土坑礫出土状態
	第 3 号竪穴住居跡遺物出土状態	第 66 号土坑全景
	第 3 号竪穴住居跡遺物出土状態近景	第 78 号土坑遺物出土状態
	第 4・5 号竪穴住居跡全景	第 79 号土坑全景
図版 3	第 6 号竪穴住居跡全景	第 80 号土坑土層断面
	第 6 号竪穴住居跡カマド	第 87・88 号土坑全景
	第 7 号竪穴住居跡全景	図版 7 第 92 号土坑全景
	第 7 号竪穴住居跡炉跡	第 108・110・111 号土坑全景
	第 7 号竪穴住居跡遺物出土状態	第 112 号土坑全景
	第 7 号竪穴住居跡遺物出土状態近景	第 1 号溝全景
	第 7 号竪穴住居跡遺物出土状態近景	第 2 号溝全景
	第 7 号竪穴住居跡貯蔵穴遺物出土状態	第 3 号溝全景
図版 4	第 8・9 号竪穴住居跡全景	第 4 号溝全景
	第 10 号竪穴住居跡全景	第 5 号溝全景
	第 10 号竪穴住居跡遺物出土状態	図版 8 竪穴住居跡出土遺物 1
	第 10 号竪穴住居跡貯蔵穴	図版 9 竪穴住居跡出土遺物 2
	第 11・12 号竪穴住居跡全景	図版 10 竪穴住居跡出土遺物 3
	第 11 号竪穴住居跡カマド	図版 11 竪穴住居跡出土遺物 4
	第 11 号竪穴住居跡遺物出土状態	図版 12 竪穴住居跡出土遺物 5
	第 12 号竪穴住居跡遺物出土状態	図版 13 竪穴住居跡出土遺物 6・土坑出土遺物・溝出土遺物 1
図版 5	第 12 号竪穴住居跡遺物出土状態	図版 14 溝出土遺物 2・ピット出土遺物・遺構外出土遺物
	第 12 号竪穴住居跡遺物出土状態	
	第 12 号竪穴住居跡貯蔵穴遺物出土状態	
	第 1 号古墳全景	

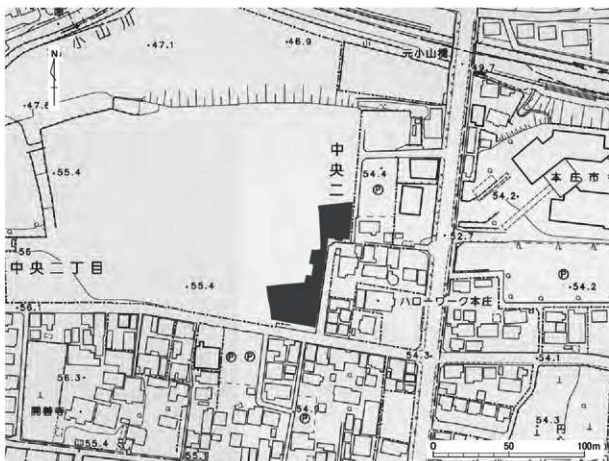
第Ⅰ章 発掘調査に至る経緯

平成28年12月8日、合同会社本庄プロジェクト 職務執行者平松守氏より本庄市中央二丁目1592番2他についての『埋蔵文化財発掘の届出』が本庄市教育委員会あてに提出された。

同地については、過去に別の事業者より2度にわたり『埋蔵文化財の所在及び取り扱いについて』の照会文書が提出された経緯がある。まず平成20年4月24日付けで提出された照会文書を受け、本庄市教育委員会が平成21年1月19、20日に試掘調査を実施したところ、照会地48,500㎡のうちの大部分については過去の土壌入れ替え等のため埋蔵文化財が所在せず、敷地南東側に堅穴住居跡等の埋蔵文化財が所在していることが判明した。

その後、平成27年6月22日付けで別の事業者より新たな照会文書を受け、新たな事業計画に基づき、平成27年9月10日～12日に試掘調査を実施した。この試掘調査では堅穴住居跡等の埋蔵文化財の現存範囲が更に北東方向に広がっていることが判明した。

以上の経緯を踏まえ、合同会社本庄プロジェクトの開発計画の中で、道路拡張部分と、深さ1m以上の掘削を予定している部分、合計2,000㎡弱の範囲には高密度で埋蔵文化財が所在していることが明らかになったことから、その部分の保存について、本庄市教育委員会と合同会社本庄プロジェクトで協議を行ったが、他に事業適地が無く、事業遂行にあたっては遺跡の現状保存を行うことが困難であるとの結論に達し、工事に先立つ発掘調査を行うことで合意した。



第1図 調査区位置図 (S:1/2,500)

法的手続きについては、平成 28 年 12 月 8 日付けで合同会社本庄プロジェクト 職務執行者 平松守氏より『埋蔵文化財発掘の届出』が提出され、市教育委員会は同届出を平成 29 年 2 月 21 日付け本教文発第 314 号で県教育委員会へに達達し、また、同年 2 月 21 日付け本教文発第 315 号で本市市教育委員会教育長より『埋蔵文化財発掘調査の通知』が県教育委員会に提出された。県教育委員会は平成 29 年 3 月 27 日付け教生文第 4-1586 号により、工事着手前の発掘調査が必要である旨の通知を事業主宛てに通知した。

現地における発掘調査は、平成 29 年 1 月 30 日より表土除去作業を開始し、3 月 1 日より遺構調査を行い、3 月 31 日に全ての調査を終了した。

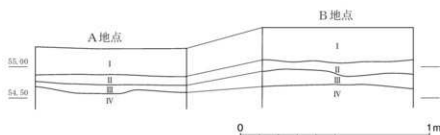
平成 29 年 4 月 6 日付け本教文発第 3 号にて埋蔵物発見届を本庄警察署長宛て提出し、同年 8 月 17 日付け本教文発第 133 号にて県教育委員会教育長宛て出土文化財保管証を提出した。県教育委員会は平成 29 年 9 月 26 日付け教生文第 7-103 号にて『埋蔵物の文化財認定及び帰属について』を土地所有者である事業主宛てに通知した。

なお、この発掘調査を受け、市教育委員会は平成 29 年 6 月 19 日付け本教文発第 78 号にて埋蔵文化財包蔵地の変更増補を行い、県教育委員会宛て提出した。試掘調査で遺構が検出されなかった範囲を包蔵地から除外し、名称を本庄中北原遺跡と命名するものである。

(本市市教育委員会事務局)

第Ⅱ章 基本層序

調査区の北（A 地点）と南（B 地点）の 2 箇所で基本層序を確認した。調査区は北から南に向かい標高を徐々に増し、現況における比高差は最大で 10 cm であった。第Ⅰ層は表土層で砕石やロームブロックを多く含んだ客土である。第Ⅱ層は褐色土で浅間 B 軽石（1108 年降下、以下 As-B）を多く含む。今回検出された遺構の中には、この第Ⅱ層を埋没土とする遺構も認められた。第Ⅲ層は灰黄褐色土でロームブロック・ローム粒多量に含むほか、焼土・炭化物を微量含む。第Ⅳ層は黄褐色土でローム層である。遺構はこの第Ⅳ層上面で確認した。



第 2 図 基本層序

第Ⅲ章 遺跡の立地と歴史的環境

第 1 節 地理的環境

本庄中北原遺跡は、J R 本庄駅の北 800 m、本市役所の西 250 m の台地縁辺部に位置し、市街地の中央付近にあたる。本市は埼玉県内でも最北地域にあたり、利根川・烏川を介して群馬県伊勢崎市と接する。

埼玉県には西高東低な地勢の特徴があり、山地・台地・丘陵、低地の三地域に大別され、面積比率もおおよそ三等分に近い。西部は三宝山（標高 2483 m）を県内最高峰とする奥秩父山地や外秩父山地・上武山地が占め、

東京・山梨・長野・群馬各都県と接する。中央部には山地から派生した北武蔵台地・入間台地・武蔵野台地および比企丘陵・岩殿丘陵などの台地・丘陵地帯が带状に展開する。東部には大宮台地を取り囲むように沖積平野の低地帯が広がり、特に加須低地は関東造盆地運動の中心地として沈降が続く。

北東-南西方向に長い本庄市は、山地から低地までを含

んで地形的変化に富む。三波川系結晶片岩帯に相当する上武山地の裾部からは、第三紀層を基盤とする児玉丘陵と松久丘陵が半島状に北東へと伸びており、中小河川の浸食作用によって生野山（大久保山）・浅見山などと呼ばれる断続的な残丘地形（分離丘陵）が発達している。いわゆる北武蔵台地は三地域に分かれ、荒川右岸を江南台地、荒川左岸を櫛引台地と呼称し、神流川と小山川（旧身馴川）に挟まれた範囲が本庄台地である。

本庄台地は、群馬県藤岡市浄法寺付近を扇頂部とする神流川扇状地の台地であり、南東部は身馴川（現小山川）扇状地と複合する。本台地の北縁は神流川扇状地の扇端部ともいわれるが、利根川低地とは比高差3～5mの断崖で隔絶している。この急崖の形成要因は、関東平野北西縁断層帯を構成する深谷断層の活動によるものと考えられており、その最新活動時期は、6,000年前頃と推定されている。本遺跡はまさに本庄台地北縁に位置し、断層崖の眼下には元小山川が、遠方には利根川が南東流する。



第3図 埼玉県馬場の地形と遺跡の位置

第2節 歴史的環境

ここでは本遺跡周辺の主要な遺跡を取り上げて、その立地特性と存在意義を素描しておく。

旧石器時代の遺跡は非常に少ないが、浅見山Ⅰ遺跡(19)・大久保山遺跡(20)の残丘上をはじめ、台地上では久下前遺跡(15)・下田遺跡(22)・社具路遺跡(37)・西五十子田端屋敷遺跡(9)や西富田・四方田条里遺跡(25)のような低台地などでも資料が見つっている。

縄文時代の遺跡も多くはないが、前期後葉になると台地中央部へと進出するようである。国外ながら、女堀川中流域においては中期後葉を中心とする時期の遺跡が多数あり、将監塚遺跡・古井戸遺跡・新宮遺跡という3つの「環状集落」が直線的に並列するという非常に興味深い現象が明らかになっている。同時期の集落は低地域の微高地上にも進出しており、七色塚遺跡(21)や西富田・四方田条里遺跡、西富田前田遺跡(26)、堀向遺跡(31)、藤塚遺跡(32)などが挙げられる。本遺跡も縄文時代中期後葉の小規模集落遺跡と目され、中核的環状集落の存在を背景として低台地や微高地へと分散居住してゆく動向の一端を示している。

弥生時代の遺跡は少ないが、中期前葉～中葉では残丘上の浅見山Ⅰ遺跡や台地上の夏目西遺跡(40)において土坑が調査されている。四方田遺跡(27)・笠ヶ谷戸遺跡(33)など、微高地上に於いて土器資料のみが出土する遺跡も増加しており、今後は集落遺跡の発見が期待される。

古墳時代前期になると遺跡数は飛躍的に増加する。残丘上の浅見山Ⅰ遺跡・大久保山遺跡のほか、飯玉東遺

跡 (29)・久下東遺跡 (14)・久下前遺跡・北堀新田遺跡 (12)・七色塚遺跡・下田遺跡・後張遺跡 (28)・川越田遺跡 (30) など、特に微高地上に規模の大きな集落遺跡が営まれるようになり、低地開発が飛躍的に進行したものと推測される。これらには墓域が隣接する事例も多く、北堀新田前遺跡 (13) では前方後方形周溝墓 2 基が調査されている。大久保山・浅見山両残丘間の微高地にある鷺山古墳 (18) は、墳丘長 60 m 前後の前方後方墳である。大久保山残丘上では、全長 70 m 以上の前方後円墳である前山 1 号墳 (A) を筆頭に、宍勝寺北裏遺跡 (17) の方形周溝墓 7 基、浅見山 I 遺跡の方形周溝墓 11 基と前方後方形周溝墓 1 基がある。

後張遺跡のように前期～中期にかけての中核的集落がある一方で、中期以降には微高地や台地奥部、本庄台地北縁において新时期開拓集落が展開し、遺跡数と堅穴住居軒数はさらに増加傾向を見せる。これには東五十子田端屋敷遺跡 (5)・九反田遺跡 (24)・四方田遺跡・笠ヶ谷戸遺跡・離濠遺跡 (34)・二本松遺跡 (35)・夏目遺跡 (36)・夏目西遺跡・社員路遺跡・薬師元屋鋪遺跡 (38)・西富田新田遺跡 (39)・弥次遺跡 (41) のほか、台地北縁では諏訪新田遺跡 (43)・城山遺跡 (50)・本庄城跡 (51)・小島本伝遺跡 (52) が列挙される。本遺跡は城山遺跡・本庄城跡と至近距離にあり、大きなまとまりとして捉えることも可能である。

また中期以降は、丘陵上や本庄台地北縁に大小の古墳群が構築される。旭・小島古墳群 (K) は前期から終末期までの長期間にわたり、笑う盾持人物埴輪が出土した前の山古墳や、直径 70 m 以上の中期大型円墳である三笠山古墳などは著名である。中小河川の自然堤防上や微高地にも古墳群が築かれ、東富田古墳群 (C) の公卿塚古墳 (直径 65 m) と生野山北裾部の金讃神社古墳 (直径 65 m) は、ともに中期の大型円墳である。

奈良・平安時代には各所に条里水田が施行され、前代から継続する集落が多数存在する。台地中央部では久下前遺跡・久下東遺跡・北堀新田遺跡・下田遺跡などが、本庄台地縁辺部では東五十子田端屋敷遺跡・薬師元屋鋪遺跡・小島本伝遺跡などが挙げられる。当該期に始まる台地北縁部の集落としては御堂坂遺跡 (44)・薬師堂東遺跡 (45)・薬師堂遺跡 (46)・本庄飯玉遺跡 (47)・天神林遺跡 (49) などがある。7 世紀後半以降には新たに台地下の低地に進出した集落もあり、本庄 2 号遺跡 (53)・石神境遺跡 (54) がこれに該当する。

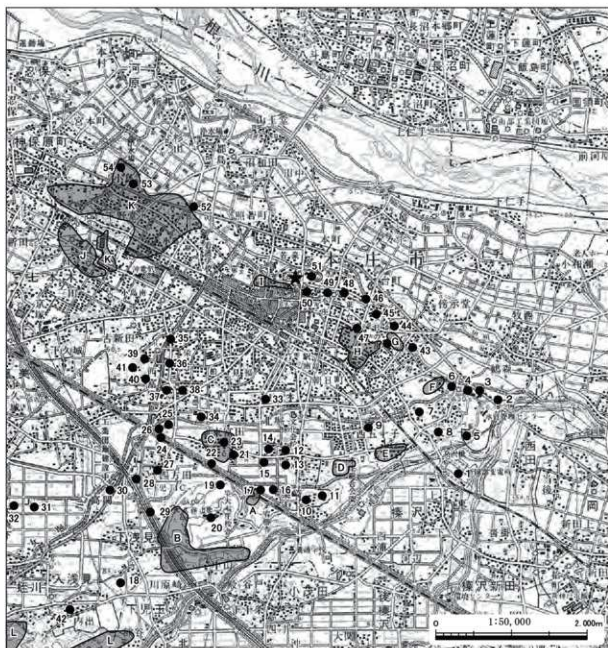
平安末期から鎌倉時代にかけての本地域は、武蔵七党の一つ、児玉党の本貫地で、その本宗家が後の本庄氏である。15 世紀代には関東管領山内上杉氏の支配下に属し、本庄宮内少輔信明が東本庄の館 (11) を築いたとされる。上杉氏と河内公方足利氏との対立によって起こった享徳の乱に際し、女堀川と小山川の合流点一带には上杉方の五十子陣 (2) が構築され、発掘調査によって陣に関わる遺構・遺物が確認されている。

16 世紀半ばには本庄氏は後北条氏の支配下に入り、弘治 2 (1556) 年に本庄城 (51) を築城したとされる。天正 18 (1590) 年には小笠原氏が西側隣接地に後期本庄城を築城した。本庄城の発掘調査では城郭関連遺構は確認できていないが、本遺跡の調査では中世の堀跡を検出しており、城域については再検証の余地がある。

近世になると本地域は中山道本庄宿となって利根川水運で栄えた。幕末に養蚕・製糸業が隆盛すると、明治 10 年には本村九蔵によって競進社が結成され、明治 16 年の鉄道敷設によって蕨・生糸などの集荷や売買で一大拠点となった。かつて本遺跡の隣接地には、大星館製糸場や初代埼玉県令吉田清英の邸宅が存在した。

【主要引用・参考文献】

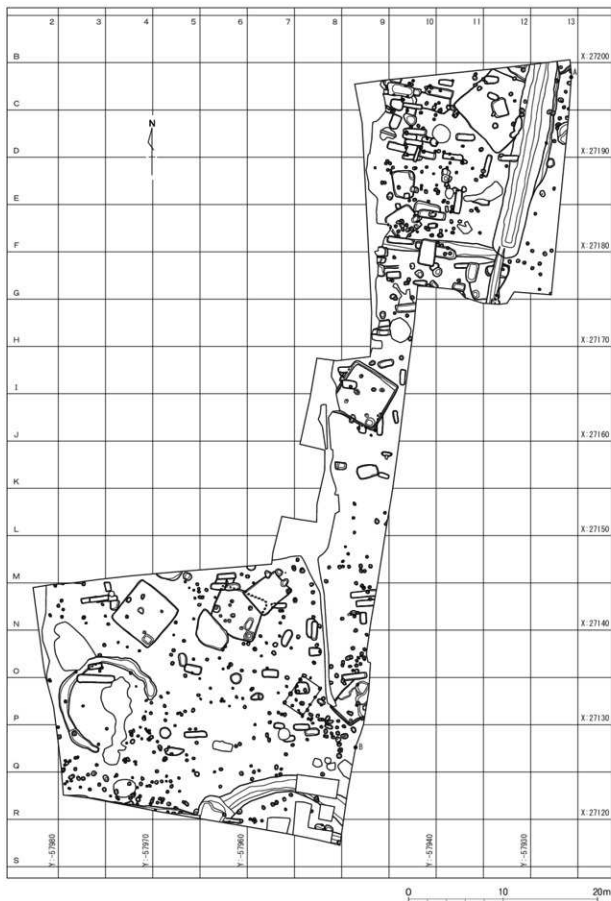
- 『野舟行 2015「五十子陣の構造と範囲について」』『埼玉考古』第 50 号
- 須貝俊彦・松島 (大上) 敏子・水野清秀 2013 「過去 40 万年前の関東平野の地形発達史」『地学雑誌』第 122 巻 6 号
- 渡辺孝隆・引田幸彦 1967 「埼玉新神流川流域の地史地理学的研究」『秋田自然科学博物館研究報告』第 14 号
- 『本庄市史』通史編Ⅱ 1989 本庄市史編纂室
- 『本庄城跡』2011 本庄市教育委員会
- 『東五十子市街遺跡』2004 本庄市遺跡調査会
- 『東五十子城跡遺跡』2004 本庄市遺跡調査会
- 『七色塚遺跡Ⅱ-B 1 地点・北堀新田前遺跡-A 1 地点』2008 本庄市教育委員会
- 『松山大野遺跡-B・C・D・E 地点の調査』2010 本庄市遺跡調査会
- 『新谷遺跡Ⅱ-C 地点の調査』2011 本庄市遺跡調査会
- 『北堀久下東遺跡Ⅱ・久下東遺跡Ⅳ・久下前遺跡Ⅱ』2010 本庄市教育委員会
- 『北堀新田前遺跡Ⅱ(A・2・3 地点)・北堀新田前遺跡Ⅳ(A・2・3 地点)・久下東遺跡Ⅲ(G・3 地点)』2015 本庄市教育委員会



第4図 周辺の主要遺跡分布図 (国土地理院発行50,000分1地形図「高崎」を改変)

★本庄中北原遺跡 1. 岡部町六反田遺跡 2. 五十子陣跡 3. 東五十子城跡遺跡 4. 赤坂墳輪竈跡 5. 東五十子田端屋敷遺跡 6. 東五十子赤坂遺跡 7. 西五十子大塚遺跡 8. 西五十子台遺跡 9. 西五十子田端屋敷遺跡 10. 栗崎館跡 11. 東本庄館跡 12. 北堀新田遺跡 13. 北堀新田前遺跡 14. 久下東遺跡 15. 久下南遺跡 16. 有勝寺裏墳輪竈跡 17. 有勝寺北裏遺跡 18. 鷺山古墳 19. 浅見山I遺跡 20. 大久保山遺跡 21. 七色塚遺跡 22. 下田遺跡 23. 公卿塚古墳 24. 九反田遺跡 25. 西富田・四方田条里遺跡 26. 西富田前田遺跡 27. 四方田遺跡 28. 後張遺跡 29. 飯玉東遺跡 30. 川越田遺跡 31. 堀向遺跡 32. 藤塚遺跡 33. 笠ヶ谷戸遺跡 34. 雄澤遺跡 35. 二本松遺跡 36. 夏目遺跡 37. 杜具路遺跡 38. 栗師元屋鋪遺跡 39. 西富田新田遺跡 40. 夏目西遺跡 41. 赤藤次遺跡 42. 金嶺神社古墳 43. 諏訪新田遺跡 44. 御堂坂遺跡 45. 栗師堂東遺跡 46. 栗師堂遺跡 47. 本庄飯玉遺跡 48. 天神林II遺跡 49. 天神林遺跡 50. 城山遺跡 51. 本庄城跡 52. 小島本伝遺跡 53. 本庄2号遺跡 54. 石神境遺跡

A. 前山古墳群 B. 塚本山古墳群 C. 東富田古墳群 D. 西五十子古墳群(西群) E. 西五十子古墳群(東群)
F. 鶴森古墳群 G. 長沖古墳群 H. 塚合古墳群 I. 北原古墳群 J. 三田古墳群 K. 旭・小島古墳群 L. 生野山古墳群



第5図 全体図

第IV章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

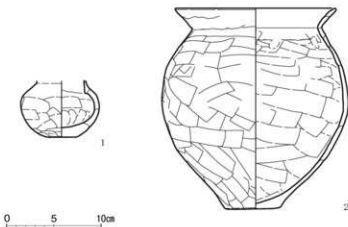
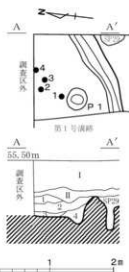
今回の調査では古墳時代、平安時代、中世、近世に帰属する遺構・遺物が確認された。調査区は表土直下でローム層が表出する箇所が多いことから削平が著しいことが想定される。竪穴住居跡は5世紀前半に帰属する竪穴住居跡が5軒（第1・2・7・10・12号竪穴住居跡）、9～10世紀に帰属する竪穴住居跡が6軒（第3～6・8・9号竪穴住居跡）検出された。5世紀前半の竪穴住居跡は全て炉を伴う段階のものであった。第7号竪穴住居跡は焼失住居跡で遺物の出土状態も良好であった。第12号竪穴住居跡は重複する遺構による削平が認められるものの、遺物の出土量が豊富であった。第11号竪穴住居跡は、9世紀代に帰属する竪穴住居跡であるが、三脚跡が出土しており特筆される。中世に帰属する遺構としては墓壇であった第112号土坑が挙げられる。人骨の遺存状態も良好で、副葬品として小刀・古銭が出土している。また、第1・2・4号溝跡が検出されているが、これらはその規模や形態から本庄城（太田博之 2011『本庄城跡』本庄市教育委員会）に関連する遺構と考えられる。

第2節 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡（第6・8図、第1表、図版2・8）

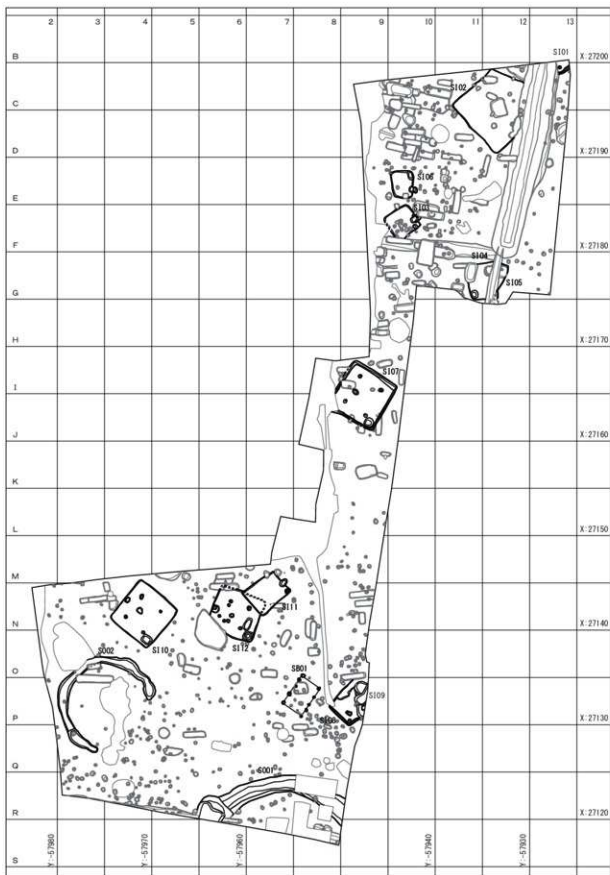
調査区北東部、A-15・B-15グリッドに位置する。大半が調査区外に範囲が及ぶ。また、第1号溝跡と重複し、切り合い関係及び出土遺物から本遺構が古い。

南壁の一部を検出したのみであるため、平面形については不明である。規模は南北が<1.46m>、東西が<1.31m>を測る。確認面からの深度は0.36mである。検出した範囲においては壁溝が認められた。床面は一部貼り床が認められるが、やや軟弱である。主柱穴の検出には至らなかったが、ビットを1基（P1）検出した。規模は0.35×0.34m・深さ0.24mである。出土遺物は、床面よりやや浮いた状態で出土した。本竪穴住居跡の帰属時期は出土遺物から5世紀前半と考えられる。

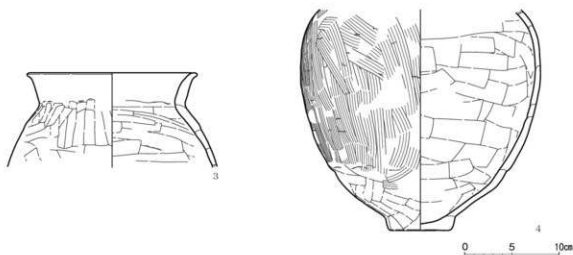


- A-A'
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 表土。砂石多量。
 - 2 暗褐色土 (10YR4/1) A-B 多量。
 - 3 暗褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5～3cm) 少量。白色軽石・焼土散見。
 - 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5～1cm)・ローム粒少量。焼土散見。
 - 5 暗褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5～3cm)・ローム粒少量。焼土・炭化物散見。
 - 6 暗褐色土 (10YR3/3) しまりあり粘性ある。ローム粒多量。ロームブロック (0.5～3cm) 少量。

第6図 第1号竪穴住居跡遺構図・第1号竪穴住居跡出土遺物1



第7図 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・古墳位置図



第8図 第1号竪穴住居跡出土遺物2

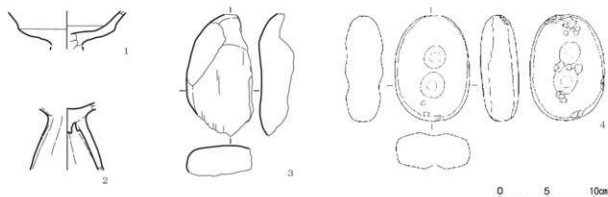
1	埴	A. 底径3.1, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 胴部篋ナデ, 下位〜底部篋ケズリ, 内面, 篋ナデ, 下位指ナデ, D. 白色粒, 黒色粒, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 頸部〜底部残存, H. 床面付近。
2	甕	A. 口縁部径17.0, 器高21.2, 底径5.9, B. 粘土紐積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 外面, 胴部篋ケズリ, 底部篋ケズリ, 内面, 篋ナデ, D. 白色粒, 黒色粒, 硯, E. 内外一にぶい黄褐色, F. 4/5, H. 床面付近。
3	甕	A. 口縁部径(18.0), B. 粘土紐積み上げ, C. 口縁部内外面ヨコナデ, 外面, 胴部篋ケズリ後篋ナデ, 内面, 篋ナデ, D. 白色粒, 黒色粒, チャート, 硯, E. 内外一にぶい褐色, F. 口縁部〜胴部上位1/5, H. 床面付近。
4	甕	A. 底径6.6, B. 粘土紐積み上げ, C. 外面, 胴部ハケメ, 下位〜底部篋ナデ, 内面, 篋ナデ, D. 白色粒, 黒色粒, 硯, E. 内外一にぶい褐色, F. 胴部〜底部1/3, H. 床面付近。

第1表 第1号竪穴住居跡出土遺物観察表

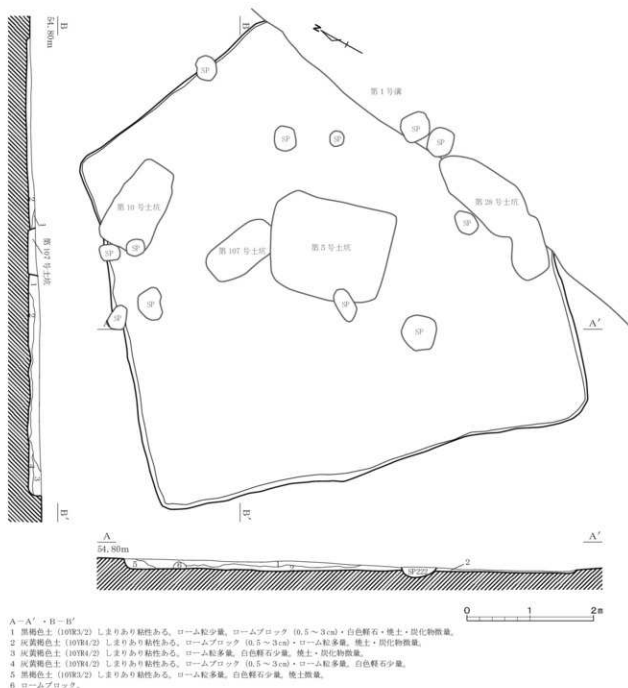
第2号竪穴住居跡 (第9・10図、第2・3表、図版2・8)

調査区北東部、A-13、B-12〜14、C-12〜14、D-13グリッドに位置する。第5・10・17・28号土坑、第1号溝跡と重複し、切り合い関係から第17号土坑より新しく、他より古い。東コーナー部は第1号溝跡により削平されていた。平面形はやや不整形な隅丸長方形を呈する。規模は南北7.32m、東西6.72mを測る。確認面からの深度は0.18mである。壁溝は認められなかった。床面では貼り床は検出されずやや凹凸が認められた。炉跡と思しき被熱箇所も見受けられなかった。

出土遺物は床面よりやや浮いた状態で土師器の高坏や、蔦網石とみられる15〜20cmほどの礫が出土した。蔦網石の中には縄文時代の凹石を転用しているもの(4)も認められた。本住居跡の帰属時期は出土遺物や住居形態から勘案すると5世紀前半と考えられる。



第9図 第2号竪穴住居跡出土遺物



第10図 第2号堅穴住居跡遺構図

1	高坪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面笠ナデ。内面、笠ナデ。D. 白色粒、黒色鉄物、褐色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 坏部1/6残存。H. 床面付近。
2	高坪	B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、坏部笠ナデ、脚部笠ナデ。内面、ナデ。D. 白色粒、黒色鉄物。E. 内外一明赤褐色。F. 1/6残存。H. 床面付近。
3	砥石	A. 残存長12.9、残存幅7.1、厚さ3.2、重さ383.93g。D. 粘板岩。F. 1/4。G. 使用面は平滑。H. 床面付近。
4	凹石	A. 長さ11.2、幅7.9、厚さ4.0、重さ524.25g。C. 表・裏面に摩耗跡が認められ、中央には漏斗状の凹穴が各2穴ある。周縁に顕著な敵・摩痕が認められる。D. 安山岩。E. F. 完形。G. 萬網石に転用。H. 床面付近。
5	萬網石	A. 長さ11.7、幅6.7、厚さ4.9、重さ640g。D. チャート。H. 床面付近。
6	萬網石	A. 長さ15.1、幅6.8、厚さ3.9、重さ511g。D. 安山岩。H. 床面付近。

第2表 第2号堅穴住居跡出土遺物観察表1

7	薦網石	A. 長さ17.3, 幅5.8, 厚さ4.2, 重さ639 g。D. 結晶片岩。H. 床面付近。
8	薦網石	A. 長さ15.1, 幅6.6, 厚さ4.1, 重さ561 g。D. 安山岩。H. 床面付近。
9	薦網石	A. 長さ14.1, 幅6.3, 厚さ5.1, 重さ513 g。D. 結晶片岩。H. 床面付近。
10	薦網石	A. 長さ18.8, 幅7.2, 厚さ3.2, 重さ638 g。D. チャート。H. 床面付近。
11	薦網石	A. 長さ16.4, 幅7.8, 厚さ3.3, 重さ543 g。D. 結晶片岩。H. 床面付近。
12	薦網石	A. 長さ16.9, 幅4.5, 厚さ4.7, 重さ614 g。D. 安山岩。H. 床面付近。
13	薦網石	A. 長さ14.0, 幅5.2, 厚さ4.7, 重さ462 g。D. 安山岩。H. 床面付近。
14	薦網石	A. 長さ13.6, 幅6.8, 厚さ3.7, 重さ498 g。D. 安山岩。H. 床面付近。
15	薦網石	A. 長さ14.5, 幅5.4, 厚さ3.9, 重さ412 g。D. 安山岩。H. 床面付近。
16	薦網石	A. 長さ14.0, 幅4.8, 厚さ3.8, 重さ227 g。D. 安山岩。H. 床面付近。
17	薦網石	A. 長さ14.9, 幅5.7, 厚さ6.0, 重さ566 g。D. 安山岩。H. 床面付近。
18	薦網石	A. 長さ13.3, 幅6.7, 厚さ3.8, 重さ478 g。D. 安山岩。H. 床面付近。
19	薦網石	A. 長さ13.8, 幅7.0, 厚さ3.6, 重さ414 g。D. 結晶片岩。H. 床面付近。
20	薦網石	A. 長さ12.6, 幅4.7, 厚さ3.7, 重さ361 g。D. 安山岩。H. 床面付近。
21	薦網石	A. 長さ17.4, 幅3.7, 厚さ2.8, 重さ273 g。D. 結晶片岩。H. 床面付近。
22	薦網石	A. 長さ19.9, 幅6.3, 厚さ3.2, 重さ605 g。D. 結晶片岩。H. 床面付近。

※薦網石は写真図版のみ掲載。

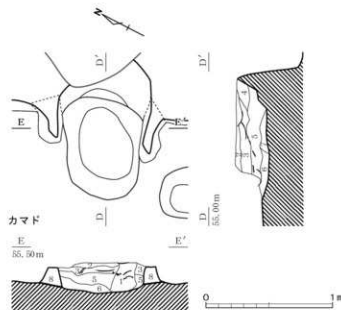
第3表 第2号竪穴住居跡出土遺物観察表2

第3号竪穴住居跡（第11～13図、第4表、図版2・8・9）

調査区北側の西寄り、E-10・11、F-10・11グリッドに位置する。第8・63号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が古い。また、南西壁の一部はカクランにより削平されていた。

平面形は隅丸長方形を呈する。規模は北東-南西方向が3.00 m、北西-南東方向が2.74 mを測る。確認面からの深度は0.36 mである。主軸方位はN-55°-Eを向いている。

床面はほぼ平坦でカマド手前では地山が一部硬化していた。掘り方はほとんど認められないが、南寄りの箇所では10基のビットを検出した。規模は、P1が0.41×0.39・深さ0.44 m、P2が0.36×0.30・深さ0.26 m、P3



D-D'・E-E' (カマド)

- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しりとり粘性ある。横断材ブロック (0.5～3 cm)・焼土多量。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) しりとり粘性ある。白色軽石多量。ローム粒少量。焼土微量。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) しりとり粘性ある。白色軽石・ローム粒少量。焼土少量。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) しりとり粘性ある。白色軽石・ローム粒少量。焼土微量。
- 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しりとり粘性ある。白色軽石・焼土多量。小礫 (1～3 cm) 微量。
- 6 灰黄褐色土 (10YR4/2) しりとり粘性ある。ローム粒多量。焼土・炭化物微量。
- 7 黄褐色土 (10YR5/6) しりとり粘性ある。カマド横断材・天井断片。
- 8 灰黄褐色土 (10YR4/2) しりとり粘性ある。カマド横断材。黒褐色土ブロック (0.5～3 cm) 少量。

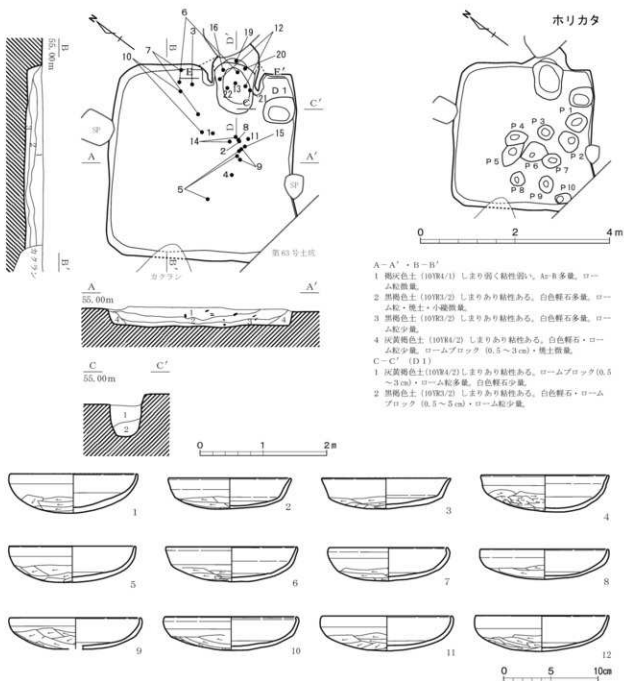
第11図 第3号竪穴住居跡遺構図1

が 0.32×0.31 ・深さ 0.28 m、P 4 が 0.48×0.30 ・深さ 0.38 m、P 5 が 0.64×0.36 ・深さ 0.37 m、P 6 が 0.48×0.46 ・深さ 0.46 m、P 7 が 0.40×0.36 ・深さ 0.34 m、P 8 が 0.39×0.29 ・深さ 0.53 m、P 9 が 0.30×0.29 ・深さ 0.20 m、P 10 が 0.25×0.25 ・深さ 0.42 m である。

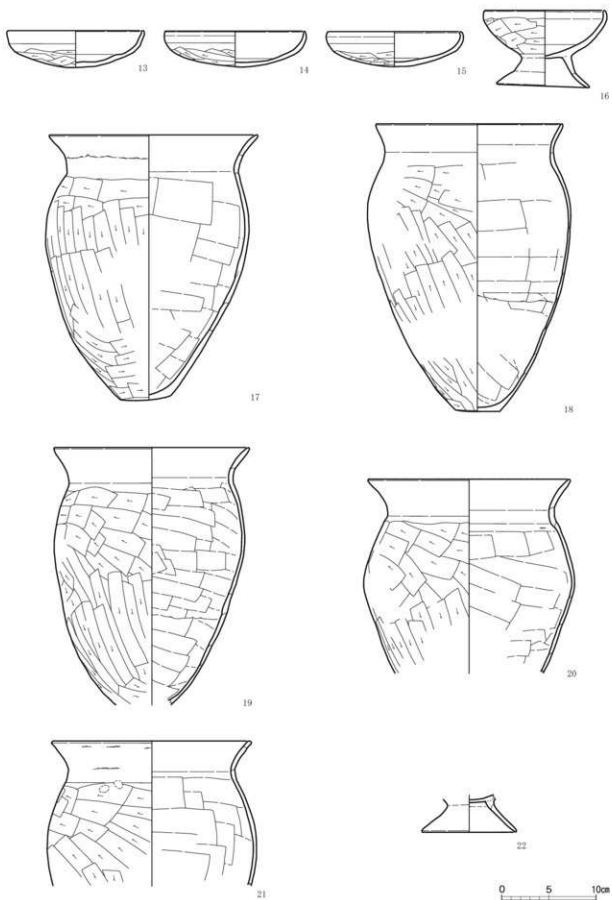
カマドは北東壁の南東寄りに付設されていた。規模は燃焼室 0.84×0.63 m、煙道長は残存部分で 0.30 m を測る。カマド袖は灰黄褐色粘質土で構築されていた。燃焼室から煙道にかけて急傾斜する構造である。支脚は認められなかった。

東コーナー部では貯蔵穴と思われる土坑 (D 1) を検出した。規模は 0.51×0.43 ・深さ 0.54 m である。

遺物は埋没土中より大量に出土しており、特にカマドから堅穴住居跡中央にかけての範囲に集中していた。本堅穴住居跡の帰属時期は出土遺物や遺構形態から 8 世紀後半と考えられる。



第 12 図 第 3 号堅穴住居跡遺構図 2・第 3 号堅穴住居跡出土遺物 1



第13图 第3号竖穴住居跡出土遺物2

1	坏	A. 口縁部径 13.6、器高 4.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、黒色粒、角閃石、石英、E. 内外一橙色、F. 4/5、H. 覆土。
2	坏	A. 口縁部径 13.1、器高 3.3、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、底部迄ケズリ。内面、ナデ、D. 白色粒、角閃石、石英、礫、E. 内外一橙色、F. 完形、H. 覆土。
3	坏	A. 口縁部径 13.7、器高 3.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、底部迄ケズリ。内面、ナデ、D. 白色粒、黒色粒、角閃石、雲母、E. 内外一橙色、F. 9/10、H. 覆土。
4	坏	A. 口縁部径 13.6、器高 4.9、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、角閃石、石英、雲母、E. 内外一橙色、F. 3/5、H. 覆土。
5	坏	A. 口縁部径 13.5、器高 3.8、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、角閃石、雲母、E. 内外一橙色、F. 3/5、H. 覆土。
6	坏	A. 口縁部径 14.0、器高 3.7、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、褐色粒、角閃石、石英、E. 内外一橙色、F. 4/5、H. 覆土・カマド。
7	坏	A. 口縁部径 12.6、器高 3.5、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、黒色粒、雲母、E. 内外一橙色、F. 9/10、H. 覆土。
8	坏	A. 口縁部径 13.6、器高 3.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫、E. 内外一明赤褐色、F. 完形、H. 覆土。
9	坏	A. 口縁部径 13.9、器高 3.3、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、角閃石、雲母、E. 内外一にぶい褐色、F. 9/10 H. 覆土。
10	坏	A. 口縁部径 14.2、器高 3.5、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、石英、礫、E. 内外一橙色、F. 9/10 H. 覆土。
11	坏	A. 口縁部径 13.9、器高 3.7、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、褐色粒、石英、雲母、E. 内外一明赤褐色、F 略完形、H. 覆土。
12	坏	A. 口縁部径 14.1、器高 3.8、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、黒色粒、石英、E. 内外一にぶい褐色、F. 4/5、H. 覆土・カマド。
13	坏	A. 口縁部径 14.5、器高 3.9、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、角閃石、雲母、E. 内外一明赤褐色、F. 略完形、H. 覆土。
14	坏	A. 口縁部径 14.9、器高 3.8、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、黒色粒、石英、E. 外一褐色、内一にぶい褐色、F. 3/4、H. 覆土。
15	坏	A. 口縁部径 14.2、器高 3.7、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、体部上位ナデ、下位～底部迄ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、角閃石、雲母、E. 外一にぶい赤褐色、内一褐色、F. 4/5、H. 覆土。
16	高坏	A. 口縁部径 12.9、器高 9.9、底径 8.2、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部ヨコナデ、外面、体部外面迄ケズリ、脚部ヨコナデ。内面、口縁部～体部ヨコナデ、底部ナデ、脚部ヨコナデ。D. 白色粒、褐色粒、石英、E. 内外一褐色、F. 9/10、H. 覆土・カマド。
17	甕	A. 口縁部径 21.1、器高 28.2、底径 5.3、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、胴部迄ケズリ、底部迄ケズリ。内面、胴部～底部迄ナデ。D. 白色粒、褐色粒、E. 内外一褐色、F. 3/4、H. 覆土。
18	甕	A. 口縁部径 (19.8)、器高 30.5、底径 4.7、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、胴部迄ケズリ、底部迄ケズリ。内面、胴部～底部迄ナデ。D. 白色粒、黒色粒、礫、E. 内外一褐色、F. 2/3、H. 覆土。
19	甕	A. 口縁部径 20.7、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、胴部迄ケズリ。内面、胴部迄ナデ。D. 白色粒、黒色粒、石英、チャート、E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色、F. 口縁部～胴部下位 2/3、H. 覆土・カマド。
20	甕	A. 口縁部径 21.4、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、胴部迄ケズリ。内面、胴部迄ナデ。D. 白色粒、褐色粒、褐色粒、角閃石、E. 内外一明赤褐色、F. 口縁部～胴部下位 2/5、H. 覆土・カマド。
21	甕	A. 口縁部径 (21.2)、B. 粘土組織み上げ、C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、胴部迄ケズリ。内面、胴部迄ナデ。D. 白色粒、褐色粒、角閃石、E. 外一褐色、内一にぶい黄褐色、F. 口縁部～胴部中位 1/4、H. 覆土・カマド。
22	台付甕	A. 底径 10.0、B. 粘土組織み上げ、C. 台部内外面ヨコナデ。内面、底部迄ナデ。D. 白色粒、黒色粒、褐色粒、E. 内外一褐色、F. 底部～台部残存、H. 覆土。

第4表 第3号竪穴住居跡出土遺物観察表

第4号竪穴住居跡（第14図、図版2）

G-12・13グリッドに位置する。第30・31・90号土坑、第4号溝と重複する。切り合い関係から第30号土坑より新しく他より古い。削平が著しく残存状態は不良であった。

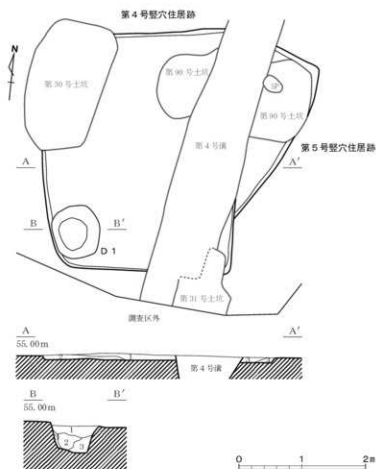
平面形は隅丸長方形を呈している。規模は南北方向が3.78m、東西方向が3.12mを測る。確認面からの深度は0.18mである。床面はほぼ平坦であるが、貼床や降下面は認められなかった。

南西コーナーでは貯蔵穴と思われる土坑（D1）が検出された。規模は0.84×0.78・深さ0.43mを測る。

出土遺物は土師器小片が埋没土中よりわずかに出土している。縄文時代については出土遺物に乏しいため不明である。

第5号竪穴住居跡(第14図、図版2)

G-13グリッドに位置する。第4号竪穴住居跡、第90号土坑、第4号溝と重複する。切り合い関係から本竪穴住居跡が最も古い。削平が著しく北東コーナー部を検出するのみで、残存状態は不良であった。平面形は隅丸方形ないし長方形と想定される。規模は南北方向が<2.76m>、東西方向が<0.93m>を測る。確認面からの深度は0.20mである。床面はほぼ平坦であるが、貼床や硬化面は認められなかった。出土遺物は土師器小片が埋没土中よりわずかに出土している。帰属時期については出土遺物に乏しいため不明である。



第6号竪穴住居跡(第15・16図、第5表、図版3・10)

D-10・11、E-10・11グリッドに位置する。重複はビットと重複するのみで切り合い関係から本遺構が古い。

平面形は隅丸長方形を呈する。規模は南北方向が2.88m、東西方向が2.52mを測る。確認面からの深度は0.30mである。主軸方位はN-95°-Eを向いている。

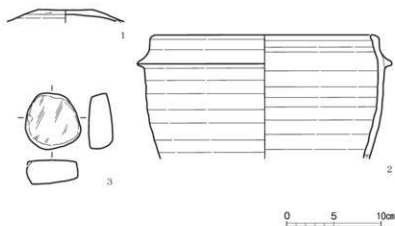
床面はやや凹凸が認められ、地山が一部硬化していた。

北東コーナーでは、貯蔵穴と思われる土坑が1基(D1)検出された。平面形はやや不整形な楕円形を呈する。規模は0.99×0.54・深さ0.21mである。

カマドは東壁南寄りに付設されていた。規模は燃焼室が0.69×0.57

- A-A'
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い、ローム粒・ロームブロック (0.5~3cm) 微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある、ローム粒多量、ロームブロック (0.5~1cm) 少量。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある、ローム粒少量、ロームブロック (0.5~3cm) 微量。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある、ローム粒少量、ロームブロック (0.5~5cm)、焼土微量。
- B-B' (D1)
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い、ロームブロック (0.5~3cm)・ローム粒・焼土微量。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い、ローム粒少量、ロームブロック (0.5~3cm)・炭化物微量。
 - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある、ローム粒多量、ロームブロック (0.5~3cm) 少量。

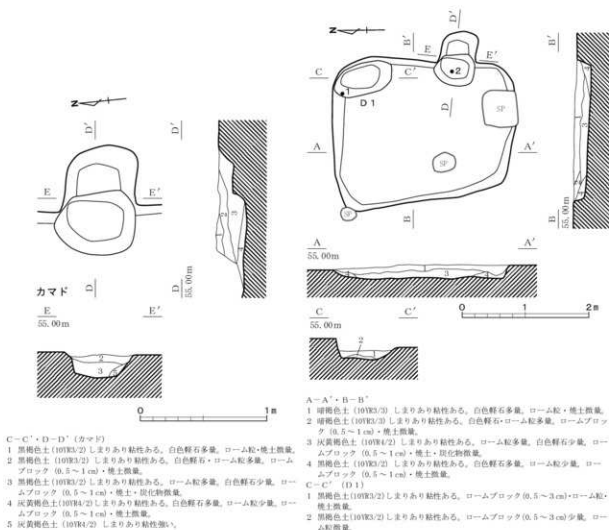
第14図 第4・5号竪穴住居跡遺構図



第15図 第6号竪穴住居跡出土遺物

m、煙道長 0.38 m を測る。燃烧室壁に明瞭な被熱痕は認められず、構築材と思しき粘質土も検出されなかった。

出土遺物は極めて少ない。カマド燃烧室内において羽釜（2）が出土したほか、D 1 内より須恵器蓋（1）が出土した。本堅穴住居跡の帰属時期は出土遺物及び遺構形態から 10 世紀と考えられる。



第 16 図 第 6 号堅穴住居跡遺構図

1	蓋	A. 高さ<1.95>。B. ロックロ成。C. 内外面回転ナデ。天井部上端回転軌ケズリ。天井部回転系切り無調整。D. 白色粒。黒色粒。E. 内外一灰色。F. 1/4残存。H. 貯蔵穴。
2	羽釜	A. 口縁部径 (24.6)。器高 (13.1)。B. 粘土紐積み上げ。C. 内外面回転ナデ。D. 白色粒。片岩。E. 内外一明褐色。F. 口縁へ体部 1/4残存。H. カマド
3	砥石	A. 長さ 6.0、幅 5.9、厚さ 2.5、重さ 52.4 g。D. 角閃石安山岩。F. 完形。G. 使用面は平滑。6 面使用。H. カマド。

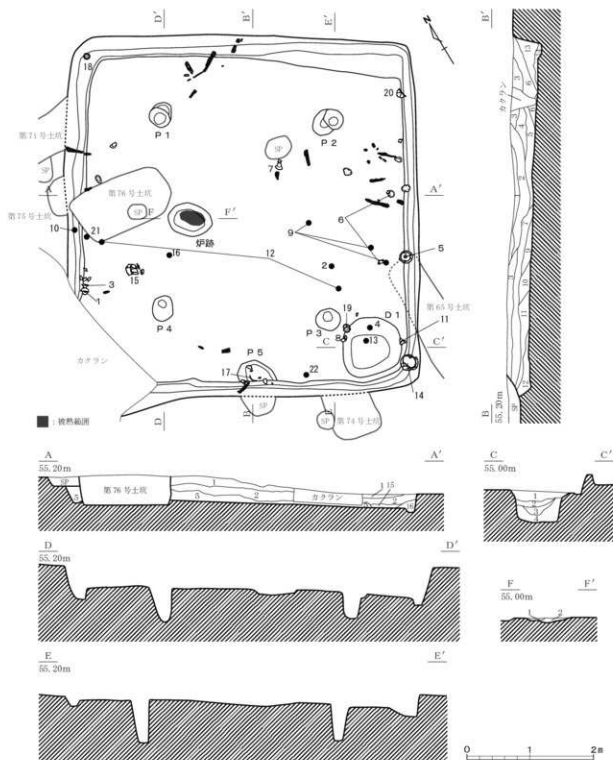
第 5 表 第 6 号堅穴住居跡出土遺物観察表

第 7 号堅穴住居跡 (第 17 ~ 19 図、第 6・7 表、図版 3・10・11)

I-9・10、J-9・10、K-9・10 グリッドに位置する。第 65・71・74・76 号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が最も古い。また、西コーナー部はカクランにより削平されていた。

平面形は隅丸方形を呈する。規模は北東-南西方向が 5.70 m、北西-南東方向が 5.58 m を測る。長軸方

位は $N-30^{\circ}-E$ を指す。床面はやや凹凸が見られ、貼り床が施されていた。ピットは主柱穴と考えられるピットが4基(P1~4)と、南西壁中央で半円形の浅いピットが1基検出された。規模はP1が 0.40×0.35 ・深さ 0.45 m、P2が 0.51×0.42 ・深さ 0.60 m、P3が 0.40×0.36 ・深さ 0.69 m、P4が 0.41×0.33 ・深さ 0.55 m、P5が 0.63×0.35 ・深さ 0.06 mである。主柱穴を構成するP1・2は中段にテラ



第17図 第7号竪穴住居跡遺構図

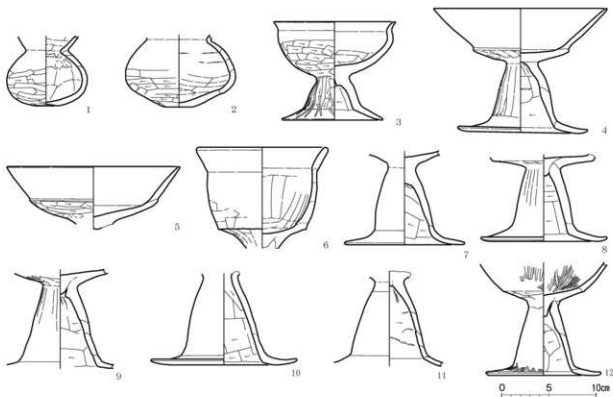
A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石少量。ロームブロック (0.5~3cm) 微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。ローム粒・ロームブロック (0.5~1cm) 少量。ローム粒微量。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。ローム粒少量。
 - 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。ローム粒・ロームブロック (0.5~1cm) 少量。
 - 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・ローム粒多量。ロームブロック (0.5~3cm) 少量。焼土・炭化物微量。
 - 6 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある。ローム粒大量。白色軽石・ロームブロック (0.5~3cm) 多量。炭化物微量。
 - 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・ロームブロック (0.5~3cm)・ローム粒多量。黒褐色土ブロック (0.5~10cm) 少量。炭化物微量。
 - 8 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5~3cm)・ローム粒多量。白色軽石少量。炭化物微量。
 - 9 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・ロームブロック (0.5~3cm) 多量。ローム粒少量。炭化物微量。
 - 10 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ローム粒大量。ロームブロック (0.5~3cm) 多量。白色軽石少量。
 - 11 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ローム粒少量。白色軽石・ロームブロック (0.5~10cm)・炭化物微量。
 - 12 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・ローム粒・炭化物少量。ロームブロック (0.5~3cm) 微量。
 - 13 暗褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・ローム粒多量。ロームブロック (0.5~3cm) 少量。焼土・炭化物微量。
 - 14 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・ローム粒少量。ロームブロック (0.5~3cm) 少量。炭化物微量。
 - 15 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・ローム粒・炭化物微量。
 - 16 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ローム粒多量。ロームブロック (0.5~3cm)・炭化物微量。
- C-C' (D1)
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ローム粒多量。ロームブロック (0.5~3cm) 少量。焼土・炭化物微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ローム粒・ロームブロック (0.5~3cm) 少量。焼土微量。
 - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある。焼土多量。ローム粒少量。
 - 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ローム粒・ロームブロック (0.5~1cm)・焼土微量。
- D-D' (D9a)
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5~3cm)・ローム粒多量。焼土少量。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。焼土多量。ロームブロック (0.5~3cm)・ローム粒少量。炭化物微量。

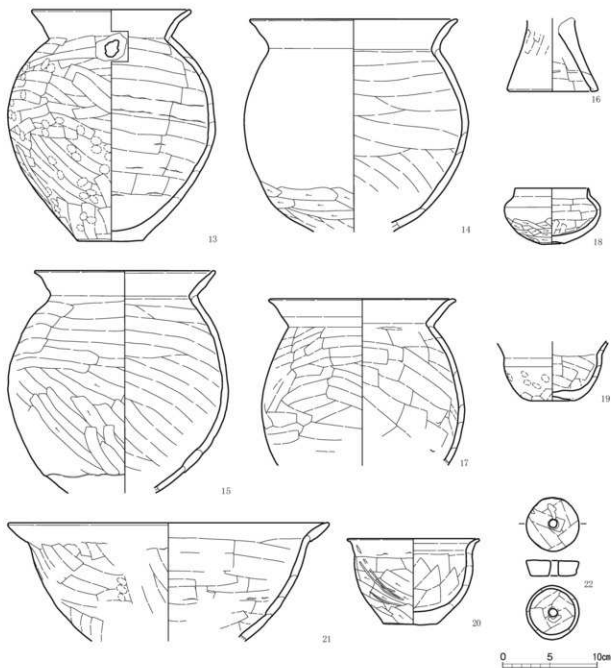
スを有する断面形状となっていた。南コーナー部には貯蔵穴と考えられる土坑が1基(D1)検出された。規模は0.93×0.90・深さ0.51mを測る。

炉跡は住居跡中央やや西寄りで検出された。平面形は楕円形で浅く掘り窪めた炉跡で、内部は被熱痕が認められた。規模は0.69×0.51・深さ0.09mである。

出土遺物は壁際に多く出土した。これらは壁際に整然と並べられているかのような状態が看取されることから原位置を保ったまま埋没したものと想定される。また、遺物1(埴)・3(高坏)は出土状態から高坏の上に埴をのせた状態で正位で自立していたものが倒れた状況が推察される。そのほか、屋根材と思われる炭化材が多く出土していることから焼失住居跡と考えられる。本堅穴住居跡の時期は出土遺物及び遺構形態から5世紀前半と考えられる。



第18図 第7号堅穴住居跡出土遺物1



第19図 第7号竪穴住居跡出土遺物2

1	埴	A. 底径2.2, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、頸部ヨコナデ。胴部上位ナデ、下位鑑ケズリ。内面、頸部鑑ナデ、胴部鑑ナデ。D. 黒色粒。E. 外一にぶい赤褐色、内一灰褐色。F. 頸部～底部4/5。H. 床面直上。
2	埴	A. 底径2.8, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部上位ナデ、下位～底部鑑ケズリ。内面、胴部上位ナデ、下位鑑ナデ。D. 白色粒、石英。E. 内外一明赤褐色。F. 頸部～底部1/2。H. 床面直上。
3	高坏	A. 口縁部径12.9, 器高10.7, 底径10.4, B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部鑑ケズリ、脚部鑑ケズリ後粗い罫ミガキ、裾部ヨコナデ。内面、口縁部～体部ヨコナデ、底部鑑ナデ、脚部鑑ケズリ、裾部ヨコナデ。D. 白色粒、雲母。E. 内外一明赤褐色。F. 9/10, H. 床面直上。
4	高坏	A. 口縁部径18.4, 器高13.2, 底径13.8, B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部鑑ナデ、脚部鑑ナデ、裾部ヨコナデ。内面、底部ナデ、脚部上位しぼり目、下位鑑ケズリ、裾部ヨコナデ。D. 白色粒、石英、雲母。E. 外一明赤褐色。内一赤褐色。F. 7/8, H. 貯蔵穴。
5	高坏	A. 口縁部径18.4, B. 粘土紐積み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部鑑ケズリ。内面、ナデ。D. 白色粒、黒色粒、石英。E. 内外一明赤褐色。F. 坏部残存。H. 床面直上。

第6表 第7号竪穴住居跡出土遺物観察表1

6	高坏	A. 口縁部径 (14.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部～体部上位ヨコナデ、下位鑑ナデ、脚部鑑ナデ。内面、口縁部ヨコナデ、体部～底部鑑ナデ。D. 白色粒、角閃石。E. 内外一橙色。F. 坏部～脚部上位 1/4。H. 床面直上。
7	高坏	A. 底部径 12.8。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、脚部ナデ、裾部ヨコナデ。内面、脚部上位ナデ、中位～下位鑑ナデ、裾部ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、石英、チャート。E. 内外一明赤褐色。F. 坏底部～脚部 7/8。H. 床面直上。
8	高坏	A. 底部径 13.4。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、脚部鑑ナデ、裾部ヨコナデ。内面、底部鑑ナデ、脚部鑑ナデ、裾部ヨコナデ。D. 白色粒、雲母。E. 内外一明赤褐色。F. 坏底部～脚部 2/3。H. 床面直上。
9	高坏	B. 粘土組織み上げ。C. 外面、体部～脚部鑑ナデ、裾部ヨコナデ。内面、底部鑑ナデ、脚部上位しぼり目、下位鑑ナデ、裾部ヨコナデ。D. 白色粒、石英。E. 内外一明赤褐色。F. 体部～脚部 3/4。H. 床面直上。
10	高坏	A. 底部径 15.5。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、脚部ナデ、裾部ヨコナデ。内面、脚部鑑ナデ、裾部ヨコナデ。D. 白色粒、雲母。E. 内外一橙色。F. 脚部 2/3。H. 床面直上。
11	高坏	B. 粘土組織み上げ。C. 外面、脚部ナデ、裾部ヨコナデ。内面、脚部上位しぼり目、下位鑑ナデ、裾部ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、石英、チャート。E. 内外一にぶい褐色。F. 脚部 2/3。H. 床面直上。
12	高坏	A. 底部径 (12.2)。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部中位鑑ミガキ、下位ハケメ、体部鑑ナデ、脚部ナデ、裾部鑑ミガキ。内面、体部～底部ハケメ後鑑ミガキ、脚部鑑ナデ、裾部ヨコナデ。D. 白色粒、黒色粒、石英。E. 外一褐色、内一にぶい赤褐色。F. 体部～脚部 1/4。H. 床面直上。
13	甕	A. 口縁部径 16.8、器高 24.5。底部径 6.9。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、胴部鑑ナデ、指頭痕あり、底部鑑ナデ。内面、鑑ナデ。D. 白色粒、雲母、礫。内外一にぶい褐色。F. 略完形。G. 胴部上位に焼成後穿孔。H. 貯蔵穴。
14	甕	A. 口縁部径 (22.0)。器高 (22.5)。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、胴部鑑ナデ、胴部下位鑑ナデ、口縁部ヨコナデ。内面、胴部鑑ナデ、口縁部ヨコナデ。D. 片岩・石英・黒色粒。E. 内一にぶい黄褐色、内一にぶい褐色。F. 口縁～胴部 2/3 残存。H. 床面直上。
15	甕	A. 口縁部径 (19.1)。器高 (23.5)。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、胴部鑑ナデ後鑑ナデ、口縁部ヨコナデ。内面、胴部鑑ナデ、口縁部ヨコナデ。D. 石英・白色粒・黒色粒。E. 外一暗赤褐色、内一褐色。F. 口縁～胴部 4/3 残存。H. 床面直上。
16	台付甕	A. 底部径 9.6。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、台部上位鑑ナデ、下位ナデ。内面、台部鑑ナデ。D. 白色粒、黒色粒、チャート、礫。E. 内外一にぶい褐色。F. 台部 3/4。H. 床面直上。
17	甕	A. 口縁部径 19.8。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、胴部鑑ナデ。内面、胴部鑑ナデ。D. 白色粒、黒色粒、チャート、礫。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部中位 1/2。H. P5。
18	小形短頸甕	A. 口縁部径 7.8。器高 5.9。底部径 2.3。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、胴部上位ナデ、下位鑑ナデ、底部鑑ナデ。内面、鑑ナデ。D. 白色粒、石英。E. 外一明赤褐色、内一にぶい赤褐色。F. 略完形。H. 床面直上。
19	鉢	A. 底部径 4.4。B. 粘土組織み上げ。C. 頸部内外面ヨコナデ。外面、体部ナデ、指頭痕あり、下位～底部鑑ナデ。内面、鑑ナデ。D. 白色粒、黒色粒、石英、チャート、礫。E. 外一褐色、内一にぶい褐色。F. 頸部～底部 3/5。H. 床面直上。
20	鉢	A. 口縁部径 14.0。器高 9.1。底部径 5.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、体部～底部鑑ナデ。内面、鑑ナデ。D. 白色粒、褐色粒、雲母。E. 内外一褐色。F. 略完形。G. 体部外面に焼成前の線刻あり。H. 床面直上。
21	大形鉢	A. 口縁部径 (34.0)。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ。外面、胴部鑑ナデ。内面、鑑ナデ。D. 白色粒、チャート、礫。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部～胴部 2/5。H. 床面直上。
22	土製紡錘車	A. 長さ 5.7、幅 5.6、厚さ 1.6、重さ 60.13 g。C. 表裏面鑑ナデ。D. 黒色粒・褐色粒・黒色鉱物。E. 表裏一にぶい褐色。F. 完形。H. 床面直上。

第7表 第7号竪穴住居跡出土遺物観察表2

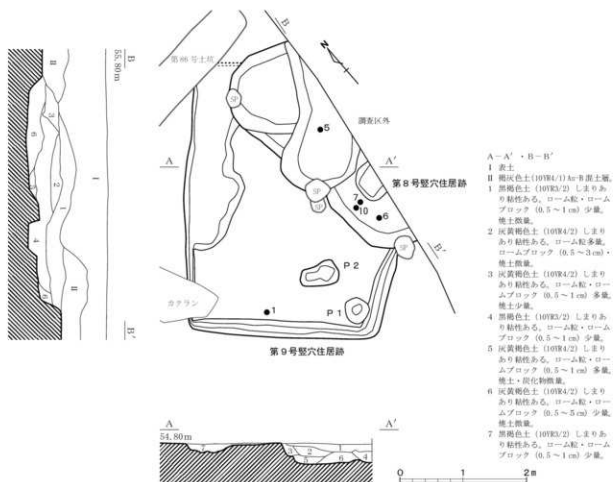
第8号竪穴住居跡 (第20・21園、第8表、図版4・11)

R-9・10 グリッドに位置する。第9号竪穴住居跡と重複し、切り合い関係から本遺構が新しい。また、大半が調査区外に範囲が及ぶ。

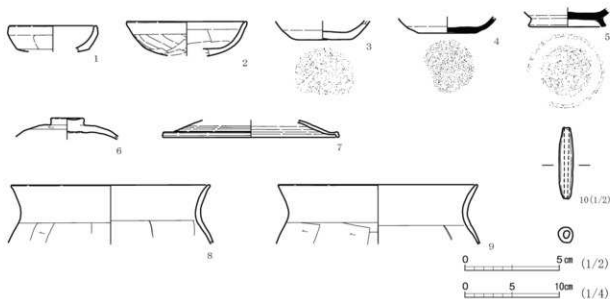
平面形は不明である。調査の過程で、床面の検出に努めたが明瞭な床面は認められず、数基の土坑が重複するような形状となった。埋没土には焼土や炭化物が多量に含まれており、重複する第9号竪穴住居跡の掘り方(床下土坑)の可能性も考慮されたが詳細は不明である。規模は南北方向 3.96 m、東西方向 <1.38> m を測る。確認面からの深度は 0.60 m である。

カマド及びピットなどは調査した範囲においては認められなかった。

出土遺物は焼土・炭化物を1多量に含む埋没土中より多数出土した。本住居跡の帰属時期は出土した遺物から8世紀末～9世紀前半と考えられる。



第20図 第8・9号竪穴住居跡遺構図



第21図 第8号竪穴住居跡出土遺物

1	坏	A. 口縁部径 (9.3)、器高<2.8>。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部縦ナデ、底面縦ナデ。内面、口縁部ヨコナデ、体部ナデ。D. 黒色鉱物・白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/6 残存。H. 覆土。
2	坏	A. 口縁部径 12.8、器高<3.8>。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ヨコナデ、体部縦ナデ。内面、口縁部ヨコナデ、体部縦ナデ。D. 雲母・白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/2 残存。H. 覆土。
3	坏	A. 底径 6.3、器高<2.0>。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ、底部回転系切り後一部ナデ。D. 石英・黒色粒・褐色粒。E. 内一明黄褐色、外一に黄褐色。F. 底部 2/3 残存。H. 覆土。
4	坏	A. 底径 6.4、器高<1.8>。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ、底部回転系切り無調整。D. 白色粒・黒色粒・石英。E. 内外一黄灰色。F. 底部 2/3 残存。H. 覆土。
5	埴	A. 底径 8.2、器高<2.1>。B. ロクロ成形。C. 内外面回転ナデ、底部回転系切り無調整、高台貼り付け。D. 石英・黒色鉱物。E. 内外一灰色。F. 底部残存。H. 覆土。
6	蓋	A. 器高<2.3>。B. ロクロ成形。C. 内外回転ナデ、天井部回転縦ナデ。ボタン上の横み貼り付け。D. チャート・石英・片岩。E. 内一に黄褐色、外一黄褐色。F. 天井部・横み残存。H. 覆土。
7	蓋	A. 口縁部径 (18.7)、器高<1.8>。B. ロクロ成形。C. 内外回転ナデ。D. 黒色鉱物・白色粒。E. 内一に黄褐色、外一に黄褐色。F. 1/8 残存。H. 覆土。
8	甕	A. 口縁部径 (20.1)、器高<6.3>。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、胴部縦ナデ、口縁部ヨコナデ。内面、胴部ヘラナデ、口縁部ヨコナデ。D. 白色粒・黒色粒・褐色粒。E. 内外一褐色。F. 口縁部 1/3 残存。H. 覆土。
9	甕	A. 口縁部径 (21.1)、器高<5.3>。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、胴部縦ナデ、口縁部ヨコナデ。内面、胴部縦ナデ、口縁部ヨコナデ。D. 白色粒・黒色粒・褐色粒。E. 内外一赤褐色。F. 口縁部 1/2 残存。H. 覆土。
10	土埴	A. 長さ 3.8、幅 0.7、厚さ 0.8、重さ 2.1 g。D. 白色粒・黒色粒。E. 褐色。F. 完形。H. 覆土。

第8表 第8号竪穴住居跡出土遺物観察表

第9号竪穴住居跡 (第20・22図、第9表、図版4・11)

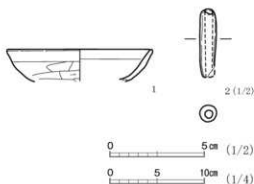
R-9、S-9・10グリッドに位置する。第8号竪穴住居跡、第86号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が最も古い。東側は第8号竪穴住居跡に、北東コーナー部はカクランにより削平されていた。深度も浅く、残存状態は不良であった。

平面形は隅丸長方形を呈していたと想定される。規模は北東-南西方向が4.32m、北西-南東方向が3.06mを測る。確認面からの深度は0.15mである。床面は削平されており、掘り方の一部を残すのみであった。壁溝は南西壁及び南東壁において認められた。ピットは2基(P1・2)検出された。

規模はP1が0.43×0.39・深さ0.16m、P2が0.63×0.41・深さ0.11mである。

カマドは調査した範囲においては認められなかった。第8号竪穴住居跡によって削平されたと思われる。

出土遺物はごく少量であった。本竪穴住居跡の帰属時期は出土遺物が少ないため詳細は不明だが、第8号竪穴住居跡との切り合い関係及び遺構形態から勘案すると9世紀と考えられる。



第22図 第9号竪穴住居跡出土遺物

1	坏	A. 口縁部径 (15.4)、器高<3.4>。B. 粘土組織み上げ。C. 外面：体部縦ナデ、口縁部ヨコナデ。内面、体部ナデ、口縁部ヨコナデ。D. 黒色鉱物・白色粒。E. 内外一明赤褐色。F. 1/6 残存。H. 覆土。
2	土埴	A. 長さ 3.6、幅 0.9、厚さ 0.9、重さ 2.4 g。D. 黒色粒・白色粒。E. 明赤褐色。F. 端部一部欠損。H. 覆土。

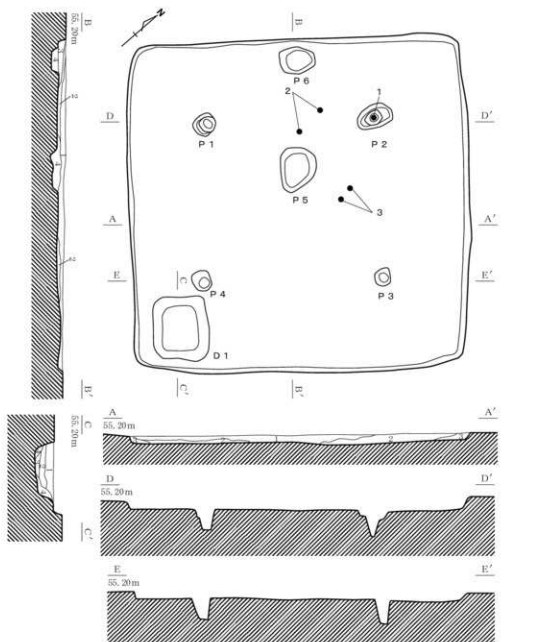
第9表 第9号竪穴住居跡出土遺物観察表

第10号竪穴住居跡 (第23・24図、第10表、図版4・11)

O-3・4、P-3~5、Q-4グリッドに位置する。重複は認められなかった。確認面からの深度は浅

いものの残存状態は良好であった。

平面形は隅丸方形を呈する。規模は北東-南西方向が5.52 m、北西-南東方向が5.16 mを測る。確認面からの深度は0.24 mである。長軸方位は $N-40^{\circ}-E$ を向いている。床面はほぼ平坦で貼り床が施されていた。壁溝は認められなかった。床面においてピットが5基(P1~5)検出された。規模はP1が 0.36×0.36 ・深さ0.33 m、P2が 0.60×0.36 ・深さ0.42 m、P3が 0.30×0.24 ・深さ0.39 m、P4が 0.35



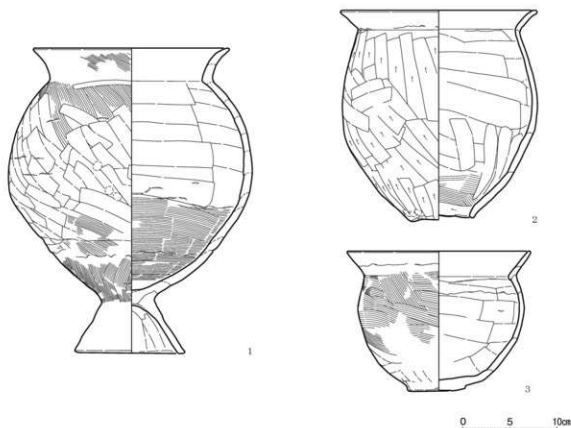
A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ローム粒・ロームブロック (0.5~1 cm)・焼土微量。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ローム粒少量。ロームブロック (0.5~1 cm) 焼土微量。
 - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ローム粒・ロームブロック (0.5~1 cm) 多量。
 - 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5~3 cm) 多量。ローム粒・焼土少量。
- C-C' (D1)
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ローム粒・ロームブロック (0.5~1 cm) 微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5~3 cm) 多量。ローム粒少量。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ローム粒少量。焼土微量。
 - 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ローム粒多量。ロームブロック (0.5~1 cm) 少量。

第23図 第10号竪穴住居跡遺構図

×0.30・深さ0.33 m、P 5が0.72×0.60・深さ0.12 m、P 6が0.60×0.42・深さ0.12 mである。P 1～4は主柱穴と考えられる。P 1・2は中段にテラスを有する。P 5は明瞭な被熱痕は認められなかったものの、覆土中に微量の焼土が含まれていたことから、位置的なものと合わせて勘案すると炉跡の可能性も考えられよう。P 6は北東壁のほぼ中央に位置していることから出入口施設に関連したピットの可能性が想定される。南コーナー部では貯蔵穴と考えられる平面形が隅丸長方形の土坑（D 1）が1基検出された。規模は1.02×0.90・深さ0.30 mである。

出土遺物は床面よりやや浮いた状態で出土した。台付甕（1）はP 2の真上に位置しており、P 2に付設されていた柱がない状態の時に遺棄された可能性が考えられる。本竪穴住居跡の帰属時期は出土遺物及び遺構形態から5世紀初頭頃と考えられる。



第24図 第10号竪穴住居跡出土遺物

1	台付甕	A. 口縁部径20.7、器高32.3、底径11.6。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、口縁部ハケメ後ヨコナデ、胴部ハケメ後縦ナデ、台部ナデ。内面、口縁部ヨコナデ、胴部上位縦ナデ、下位ハケメ、台部縦ナデ。D. 白色粒、褐色粒、靑。E. 内外一にふい黄褐色。F. 9/10。H.
2	大形甕	A. 口縁部径20.8、器高22.3、底径6.7。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、胴部縦ナデ、台部縦ナデ。内面、ハケメ後縦ナデ。D. 白色粒、褐色粒、チャート、靑。E. 内外一にふい黄褐色。F. 7/8。H.
3	小形甕	A. 口縁部径19.4、器高14.8、底径6.1。B. 粘土組織み上げ。C. 口縁部内外面ヨコナデ、外面、胴部上位ハケメ、下位縦ナデ。内面、縦ナデ。D. 白色粒、黒色粒、チャート、靑。E. 内外一にふい黄褐色。F. 4/5。H.

第10表 第10号竪穴住居跡出土遺物観察表

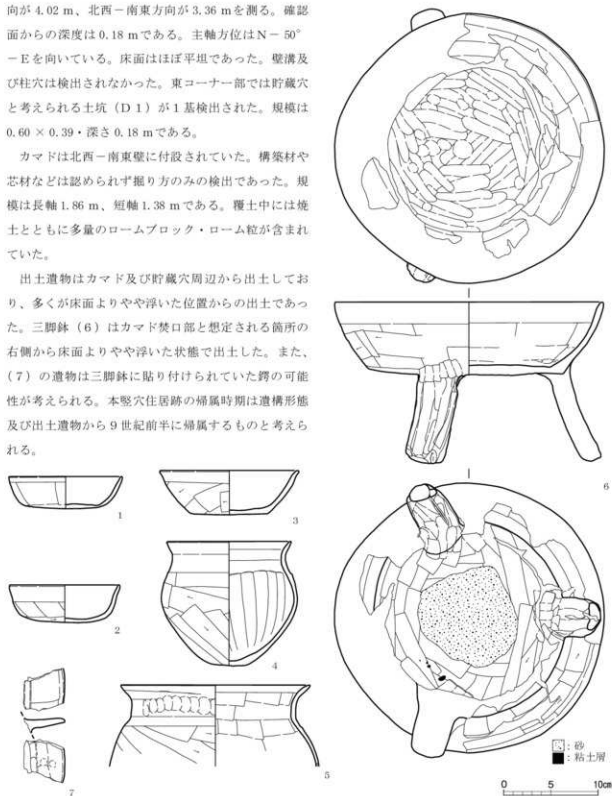
第11号竪穴住居跡（第25・26図、第11表、図版4・12）

O-6～8、P-7グリッドに位置する。第12号竪穴住居跡、第78・106号土坑と重複する。切り合い関係及び出土遺物から、第12号竪穴住居跡より新しく、第78・106号土坑より古い。

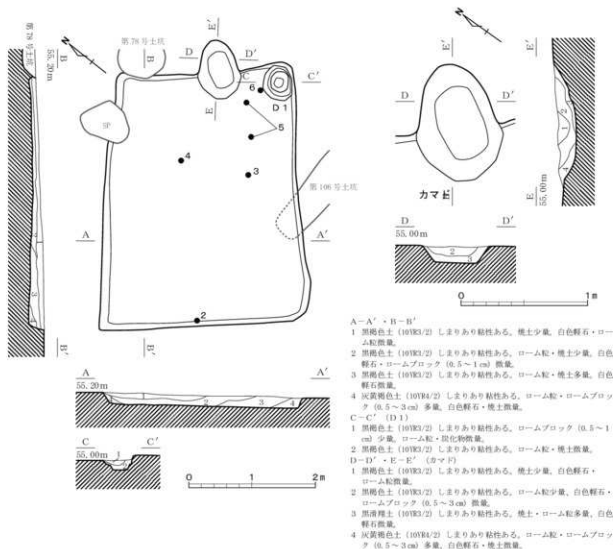
平面形は隅丸長方形を呈する。規模は北東-南西方向が4.02 m、北西-南東方向が3.36 mを測る。確認面からの深度は0.18 mである。主軸方位はN-50°-Eを向いている。床面はほぼ平坦であった。壁溝及び柱穴は検出されなかった。東コーナー部では貯蔵穴と考えられる土坑（D1）が1基検出された。規模は0.60×0.39・深さ0.18 mである。

カマドは北西-南東壁に付設されていた。構築材や芯材などは認められず掘り方のみの検出であった。規模は長軸1.86 m、短軸1.38 mである。覆土中には焼土とともに多量のロームブロック・ローム粒が含まれていた。

出土遺物はカマド及び貯蔵穴周辺から出土しており、多くが床面よりやや浮いた位置からの出土であった。三脚鉢（6）はカマド焚口部と想定される箇所右側から床面よりやや浮いた状態で出土した。また、（7）の遺物は三脚鉢に貼り付けられていた罫の可能性が考えられる。本竪穴住居跡の帰属時期は遺構形態及び出土遺物から9世紀前半に帰属するものと考えられる。



第25図 第11号竪穴住居跡出土遺物



第 26 図 第 11 号竪穴住居跡遺構図

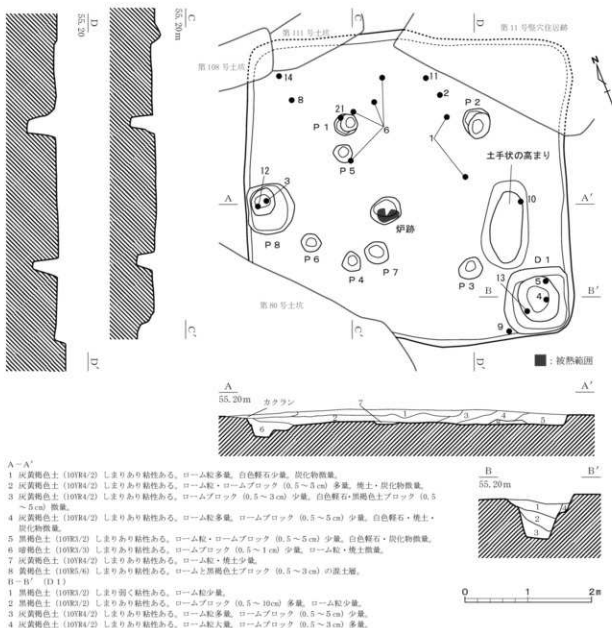
1	坏	A. 口縁部径(12.0)、器高 3.4。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部鋭ケズリ、口縁部ヨコナデ。内面、体部ナデ。D. 黒色鉱物。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁へ体部 1/3 欠損。H. 覆土。
2	坏	A. 口縁部径 11.7、器高 4.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部鋭ケズリ後鋭ナデ、口縁部ヨコナデ。内面、ナデ。D. 黒色粒、黒色鉱物。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい褐色。F. 1/2 残存。H. 床面直上。
3	坏	A. 口縁部径 (14.7)、底部径 (8.2)、器高 4.7。B. 粘土紐積み上げ。C. 体部へ底部鋭ケズリ、口縁部ヨコナデ。内面ナデ。D. 雲母、黒色鉱物、白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 1/2 残存。H. 床面直上。
4	甕	A. 口縁部径 (13.2)、底部径 4.2、器高 13.1。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部鋭ケズリ、口縁部ヨコナデ。内面、胴部鋭ナデ、口縁部ヨコナデ。D. 黒色鉱物・白色粒。E. 内外一にぶい黄褐色。F. 口縁へ胴部上位 2/3 欠損。H. 床面直上。
5	甕	A. 口縁部径 20.0、器高 (8.6)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部鋭ケズリ、口縁部指頭圧痕、ヨコナデ。内面、胴部鋭ナデ、口縁部ヨコナデ。D. 白色粒・黒色鉱物。E. 外一にぶい褐色、内一にぶい赤褐色。F. 3/4 欠損。H. 床面直上。
6	三脚鉢	A. 口縁部径 (28.2)、底部径 (20.5)、器高 17.0。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、体部鋭ケズリ、口縁部ヨコナデ、外底部鋭ケズリ、離れ砂付着。内面、体部鋭ナデ、口縁部ヨコナデ、内底部ナデ・指頭圧痕。脚部鋭ケズリ後鋭ナデ。D. 白色粒・黒色粒・黒色鉱物。E. 内外一明赤褐色。F. 1/3 残存。H. カマド・床面直上。
7	三脚鉢	F. 粘土紐積み上げ。C. 表面、鋭ナデ。裏面、鋭ナデ、指頭圧痕。D. 黒色鉱物・白色粒。E. 表裏一にぶい黄色。F. 破片。H. 覆土。

第 11 表 第 11 号竪穴住居跡出土遺物観察表

第12号竪穴住居跡（第27～29図、第12表、図版4・5・12・13）

O-6・7、P-6・7、Q-6・7グリッドに位置する。第11号竪穴住居跡、第80・111・113号土坑と重複する。切り合い関係から本遺構が最も古い。南西コーナーについては、第80号土坑によって削平されていた。

平面形は隅丸方形を呈する。規模は南北方向は5.04 m、東西方向は5.10 mを測る。確認面からの深度は0.20 mである。壁溝は認められなかった。ピットは8基（P1～8）検出された。規模はP1が0.36×0.36・深さ0.42 m、P2が0.48×0.42・深さ0.48 m、P3が0.37×0.35・深さ0.42 m、P4が0.32×0.30・深さ0.30 m、P5が0.30×0.29・深さ0.23 m、P6が0.33×0.30・深さ0.21 m、P7が0.42×0.36・深さ0.14 m、P8が1.08×0.72・深さ0.15 mである。主柱穴を構成するピットはP1～4と考えられる。このうち、P1・2は中段にテラスを有する。P8は西壁の中央に位置することから出入口施設に関わるピット

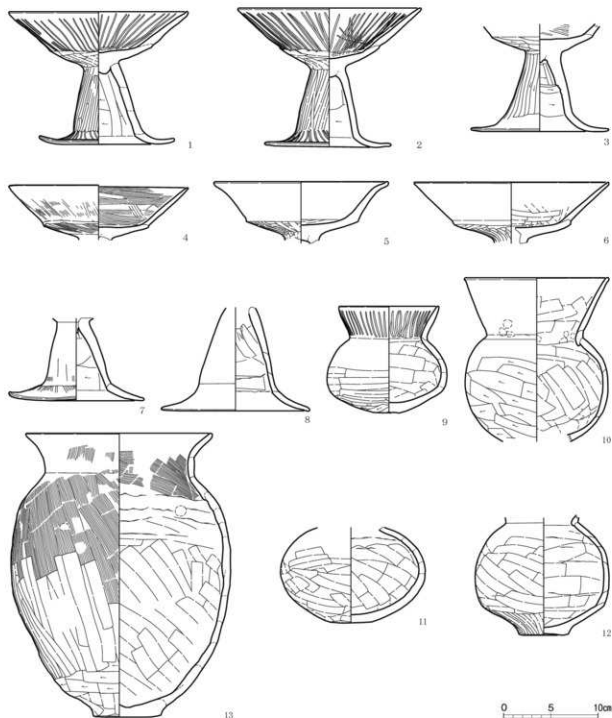


第27図 第12号竪穴住居跡遺構図

下の可能性も考慮されよう。床面には貼り床が認められ、やや凹凸が見られる。南東部には土手状の高まりが認められ、床面戸の比高差は最大で0.12 mを測る。南東コーナー部には貯蔵穴と考えられる土坑（D 1）が検出された。規模は1.02 × 1.02・深さ0.60 mを測る。

炉跡は竪穴住居跡中央やや西寄りに位置する。規模は0.45 × 0.42・深さ0.06 mで、被熱痕が認められた。

出土遺物は床面直上及び貯蔵穴（D 1）から出土した。D 1 から出土した高坏（4・5）、甕（13）は本来D 1 より上位にあったものが転落したかのような出土状態であった。本竪穴住居跡の帰属時期は出土遺物及び遺構形態から5世紀前半と考えられる。



第 28 図 第 12 号竪穴住居跡出土遺物（1）



第 29 図 第 12 号竪穴住居跡出土遺物 (2)

1	高坏	A. 口縁部径 19.0, 器高 14.0, 底部径 14.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ後放射状筋ミガキ. 外面, 体部筋ナデ, 脚部筋ミガキ. 裾部ヨコナデ後放射状筋ミガキ. 内面, 底部筋ミガキ, 脚部筋ナデ, 裾部ヨコナデ. D. 白色粒, 石英, 雲母. E. 外にぶい赤褐色. 内一褐色. F. 脚部 1/3 欠損. H. 床面.
2	高坏	A. 口縁部径 (19.4), 器高 14.7, 底部径 13.4. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ後放射状筋ミガキ. 外面, 体部筋ナデ, 脚部筋ナデ. 裾部ヨコナデ後放射状筋ミガキ. 内面, 底部筋ミガキ, 脚部筋ナデ, 裾部ヨコナデ. D. 白色粒, 黒色粒, 石英, 礫. E. 内外一明赤褐色. F. 3/4. H. 床面.
3	高坏	A. 底部径 14.6. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部下位ハケメ後ヨコナデ, 体部筋ナデ, 脚部筋ナデ, 裾部ヨコナデ. 内面, 体部ハケメ, 脚部筋ナデ, 裾部ヨコナデ. D. 白色粒. E. 内外一褐色. F. 口縁部下位~脚部 3/5. H. 床面.
4	高坏	A. 口縁部径 19.0. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ハケメ後ヨコナデ, 体部ハケメ. 内面, 口縁部~底部ハケメ. D. 白色粒, 黒色粒, 石英, 角閃石. E. 内外一褐色. F. 坏部残存. H. 貯蔵穴.
5	高坏	A. 口縁部径 18.5. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ, 外面, 体部筋ナデ. 内面, 筋ナデ. D. 白色粒, 雲母, 礫. E. 内外一褐色. F. 坏部残存. H. 貯蔵穴.
6	高坏	A. 口縁部径 20.6. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ, 外面, 体部筋ナデ. 内面, 筋ナデ. D. 白色粒, 雲母. E. 内外一褐色. F. 坏部 3/4. H. 床面.
7	高坏	A. 底部径 14.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 脚部ハケメ後ナデ, 裾部ハケメ後ヨコナデ. 内面, 脚部上位しぼり目, 中位~下位筋ナデ, 裾部ヨコナデ. D. 白色粒, 石英. E. 内外一褐色. F. 脚部残存. H. 床面.
8	高坏	A. 底部径 15.7. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 脚部ナデ, 裾部ヨコナデ. 内面, 脚部筋ナデ, 裾部ヨコナデ. D. 白色粒, 黒色粒, 石英, 雲母. E. 外一明赤褐色, 内一褐色. F. 脚部 9/10. H. 床面.
9	甕	A. 口縁部径 10.6, 器高 11.3, 底部径 2.4. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ後放射状筋ミガキ. 外面, 胴部上位ナデ, 下位筋ナデ, 最下端筋ナデ, 底部筋ナデ. 内面, 筋ナデ. D. 白色粒, 雲母. E. 内外一褐色. F. 略完形. H. 床面.
10	甕	A. 口縁部径 15.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ, 外面, 胴部上位ナデ, 下位筋ナデ. 内面, 筋ナデ. D. 白色粒, 黒色粒, 石英. E. 内外一明赤褐色. F. 口縁部~胴部下位 2/3. H. 床面.
11	甕	A. 底部径 4.4. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 胴部上位ナデ, 下位筋ナデ, 底部筋ナデ. 内面, 胴部筋ナデ. D. 白色粒, 褐色粒, 雲母. E. 内外一褐色. F. 胴部~底部残存. H. 床面.
12	甕	A. 底部径 5.3. B. 粘土紐積み上げ. C. 頸部内外面ヨコナデ, 外面, 胴部上位ナデ, 中位~底部筋ナデ. 内面, 筋ナデ. D. 白色粒, 黒色粒, 石英. E. 内外一褐色. F. 頸部~底部残存. H. 床面.
13	甕	A. 口縁部径 19.7, 器高 30.0, 底部径 7.2. B. 粘土紐積み上げ. C. 外面, 口縁部ハケメ後ヨコナデ, 胴部上位ハケメ, 下位筋ナデ, 底部筋ナデ. 内面, 口縁部ヨコナデ, 頸部ハケメ, 胴部~底部筋ナデ. D. 白色粒, 礫. E. 外にぶい褐色. 内一褐色. F. 9/10. H. 貯蔵穴.
14	甕	A. 口縁部径 (18.5). B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 外面, 頸部~胴部筋ナデ. 内面, 胴部筋ナデ, 指頭痕あり. D. 白色粒, 黒色粒, チャート, 礫. E. 内外にぶい褐色. F. 口縁部~胴部中位 2/5. H. 床面.
15	甕	A. 口縁部径 (16.0). B. 粘土紐積み上げ. C. 口縁部内外面ヨコナデ. 外面, 胴部筋ナデ. 内面, 胴部筋ナデ, 指頭痕あり. D. 白色粒, 黒色粒, 礫. E. 内外にぶい褐色. F. 口縁部~胴部上位 1/4. G. 歪みが顕著. H. 床面.

第 12 表 第 12 号竪穴住居跡出土遺物観察表

第3節 掘立柱建物跡

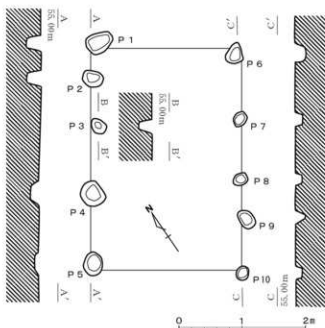
第1号掘立柱建物跡（第30図）

Q-8、R-7・8、S-8グリッドに位置する。第89号土坑と重複し、切り合い関係から本遺構が新しいと考えられる。

平面形は北東-南西方向が4間、北西-南東方向が1間の長方形を呈している。規模は北東-北西方向が3.52m、北西-南東方向が2.40mを測る。建物跡の長軸方向はN-30°-Eを向いている。柱通りは東西の柱穴列のいずれもややばらつきが認められる。柱穴間は、桁行2.16m、梁行は0.64~1.08mと不揃いである。

柱穴は平面形は楕円形ないし不整形円形を基調とする。確認面からの深さは4.5~23cmと非常に浅い。埋没土はロームブロック及びローム粒、白色軽石を含んだ黒褐色土を基調とする。柱痕については確認されなかった。

出土遺物は埋没土中より土師器小片が出土しているが、詳細な帰属時期については不明である。ただし、埋没土中にAs-Bを含まないことからAs-B降下以前に帰属するものと思われる。



第30図 第1号掘立柱建物跡遺構図

第4節 古墳

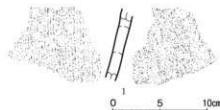
2基の古墳（1・2号古墳）が確認された。いずれも墳丘は削平されており、周溝のみの検出である。本遺跡の西側に近接する北原古墳群（第Ⅲ章第2節）の墓域に含まれる古墳と想定される。

第1号古墳（第31・32図、第13表、図版5・13）

調査区南端部、Q-4~8、R-4~8グリッドに位置する。検出された範囲における平面形状から内径14.4m程の円墳と考えられるが、3/4が調査区外に及ぶため詳細は不明である。また、カクランによる削平を著しく受けていた。

周溝は東から西にかけて深くなり西端部では土坑状の掘り込が認められた。規模は上端幅が1.88~2.25m、確認面からの深さは0.21~0.56mを測る。埋没土はローム粒・ロームブロックを多く含んだ黒褐色土を基調とした土であった。

遺物は埋没土中より土師器小片のほか、埴輪片（1）が出土し



第31図 第1号古墳出土遺物

1	円筒埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ハケ（ハケ本数/2cm: 6本）。内面、ハケ（ハケ本数/2cm: 7本）後ナデ。D. 黒色紅物・褐色粒。E. 内・にぶい橙色、外・橙色。F. 破片。H. 覆土。
---	------	---

第13表 第1号古墳出土遺物観察表

た。本古墳の埴輪時期は出土遺物が少量であるため詳細は不明であるが、規模・形状及び埴輪が出土している点を考慮すると6世紀代に埴輪する可能性が考えられる。

第2号古墳（第33図、図版5）

調査区南西端、N-2・3、O-2～4、P-2グリッドに位置する。検出された形状から円墳に伴う周溝と考えられ、南東部が開放していた。カクランや、近代以降の開発による削平が著しく、残存状態は悪かった。

周溝は西側がやや深くなる傾向を示していた。南側では一部土坑状に掘りこまれている箇所が検出された。規模は上端幅が0.75～0.98 m、確認面からの深度は0.06～0.23 m、周溝の内径は、8.48 mを測る。埋没土はローム粒・ロームブロックを多く含んだ黒褐色土を基調とした土であった。

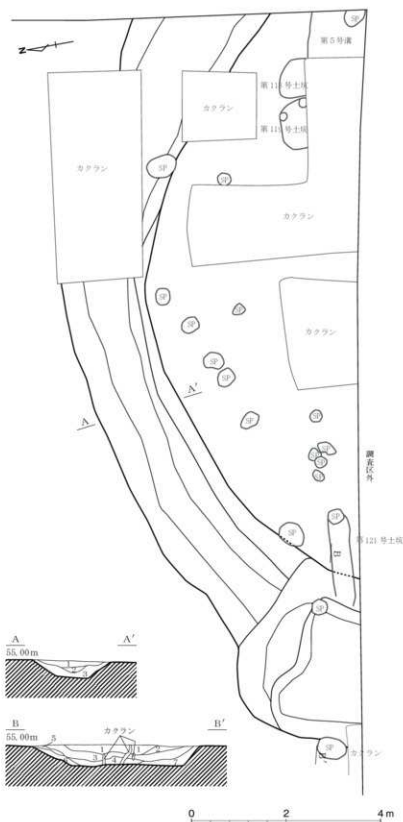
遺物は埋没土中より土師器小片が出土したのみであった。本古墳の埴輪時期については出土遺物に乏しいため詳細は不明である。

A-A'

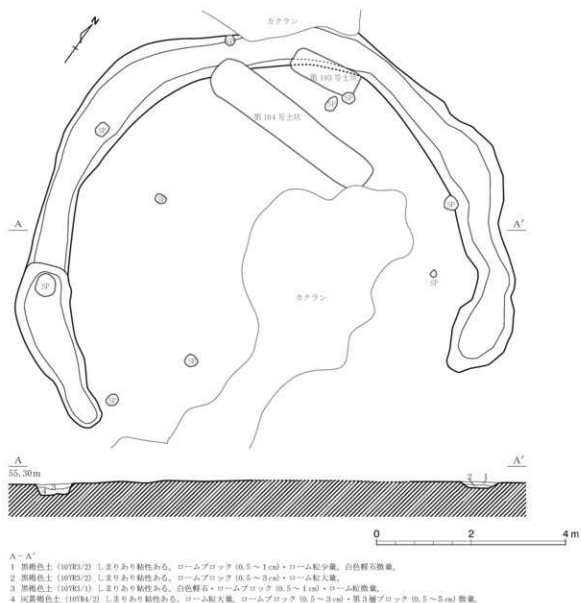
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性ある。白色軽石多量。ローム粒少量。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5～1 cm)・ローム粒多量。白色軽石少量。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5～5 cm)・ローム粒多量。白色軽石少量。

B-B'

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。掘戻ブロック (0.5～5 cm) 多量。白色軽石少量。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ローム粒・白色軽石微量。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5～5 cm)・ローム粒少量。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ローム粒多量。ロームブロック (0.5～5 cm) 少量。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5～5 cm)・ローム粒多量。
- 6 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5～5 cm) 多量。ローム粒少量。白色軽石微量。
- 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ローム粒多量。ロームブロック (0.5～5 cm) 少量。



第32図 第1号古墳遺構図



第33図 第2号古墳遺構図

第5節 土 坑

(第34~49図、第14~18表、図版5~7・13)

120基の土坑を検出した。検出した土坑は北側の調査区北西部、南側の調査区東部に集中する傾向が認められた。

多くの土坑は東西方向に長い隅丸長方形ないし長方形の平面形を呈するもの(第2・5・7~12・14・15・18~27・30・32~34・37・39・40・44・45・51・52・55・57~60・63・65・66・69・71・73・74・76・77・82~89・91・94~96・99・100・102~104・106・108・110・112~116・122)である。これらの土坑は検出状態から長軸を同一方向に示し、同様の目的のために開削され続けたことが想定される。既往の調査事例と照らし合わせると所謂イモアナの可能性が考えられるが詳細は不明である。出土遺物は近世~近代に帰属する遺物が出土していることから、近世以降に開削された土坑と思われる。なお、近世以前の出土

遺物については混入したものと想定される。

第31号土坑は火葬跡と考えられる。第4号溝跡と重複し、切り合い関係から第31号土坑が新しい。平面形はT字形を呈し、煙道と考えられる突出部は北を向いていた。燃焼室と考えられる平面形が隅丸長方形を呈する箇所からは炭化物に伴い多量の焼骨が出土した。燃焼室内には15～20 cmほどの河原石が出土した。これらは、礫上面の高さが揃えられた状態で出土したことから、この上に棺もしくは遺骸を置いて火葬したものと想定される。副葬品などの出土遺物が認められなかったため詳細な帰属時期については不明である。

第78号土坑は第11号堅穴住居跡と重複し、切り合い関係から第78号土坑が新しい。埋没土中からは完形の土鍾が6点出土した。出土した土鍾には摩耗が認められず未使用であった可能性が高い。管見には触れないが、土鍾を未使用のまま地中に埋納するといった特殊な行為を示す事例とも考えられる。土鍾以外の出土遺物が認められなかったことから詳細な帰属時期については不明であるが、埋没土にAs-Bを含まないことからAs-B降下以前に帰属するものと考えられる。

第112号土坑は土墳墓である。平面形は隅丸長方形で、断面は箱形を呈する。埋葬形態は横臥屈葬で頭頂部は南側を向いていた。埋没土中からは釘などの出土が認められなかったため、直葬と考えられる。また、人骨の出土状態から、頭部を土墳墓の南壁にもたせ掛けるような状態で埋葬したことが想定される。副葬品は小刀1点と銭貨（永楽通寶2・開元通寶1）であった。小刀は南東コーナー部に立て掛けられた状態で出土した。帰属時期は出土遺物から中世～近世初期と考えられる。なお、出土した人骨についての詳細は第VI章に報告されている。

遺構名	グリッド	形 態		規 模	深 さ	出土遺物
		平面形	断面形			
第1号土坑	F-8	不整形	箱形	＜1.24＞×0.74	0.20	土師器（小片）
第2号土坑	F-8	＜隅丸長方形＞	皿形	＜0.96＞×0.66	0.10	
第3号土坑	E-8、F-8	＜隅丸長方形＞	箱形	1.15×1.05	0.45	土師器（坪・甕）
第4号土坑	B-10	隅丸長方形	箱形	1.54×0.63	0.19	土師器（甕）
第5号土坑	B-11、C-11	隅丸長方形	皿形	1.93×1.59	0.22	土師器（坪・高坪・甕）・須恵器（甕）
第6号土坑	欠 番					
第7号土坑	E-9・10、F-9	隅丸長方形	逆台形	2.73×1.76	0.40	カワラケ・軟質陶器（焙烙）
第8号土坑	E-9・10	隅丸長方形	皿形	2.92×0.90	0.56	
第9号土坑	D-9、E-9	隅丸長方形	箱形	2.82×1.21	0.58	
第10号土坑	B-11	隅丸長方形	箱形	1.47×0.84	0.19	
第11号土坑	C-10	隅丸長方形	逆台形	2.01×0.73	0.19	
第12号土坑	F-9・10	隅丸長方形	逆台形	4.49×1.27	0.34	
第13号土坑	C-11、D-10・11	槽凹形	皿形	2.33×0.59	0.09	
第14号土坑	C-11、D-11	隅丸長方形	＜逆台形＞	2.12×0.68	0.38	
第15号土坑	C-10、D-10	隅丸長方形	箱形	2.15×0.63	0.15	
第16号土坑	D-16	不整形	箱形	1.39×0.90	0.35	
第17号土坑	D-10	不整形	皿形	0.90×0.53	0.13	
第18号土坑	F-10	隅丸長方形	逆台形	1.59×0.53	0.43	軟質陶器（焙烙）
第19号土坑	D-9・10、E-9・10	＜隅丸長方形＞	＜逆台形＞	＜1.90＞×＜0.66＞	0.37	土師器（甕）
第20号土坑	D-10、E-10	隅丸長方形	箱形	2.49×0.75	0.49	須恵器（坪・甕）
第21号土坑	D-10	隅丸長方形	皿形	0.65×0.60	0.25	
第22号土坑	E-9、10	隅丸長方形	逆台形	1.03×0.52	0.21	
第23号土坑	C-9、D-9	＜隅丸長方形＞	U字形	1.80×0.44	0.47	
第24号土坑	C-9、D-9	隅丸長方形	逆台形	1.80×0.79	0.31	土師器（甕）
第25号土坑	C-9、D-9	隅丸長方形	皿形	2.12×0.58	0.29	土師器（小片）

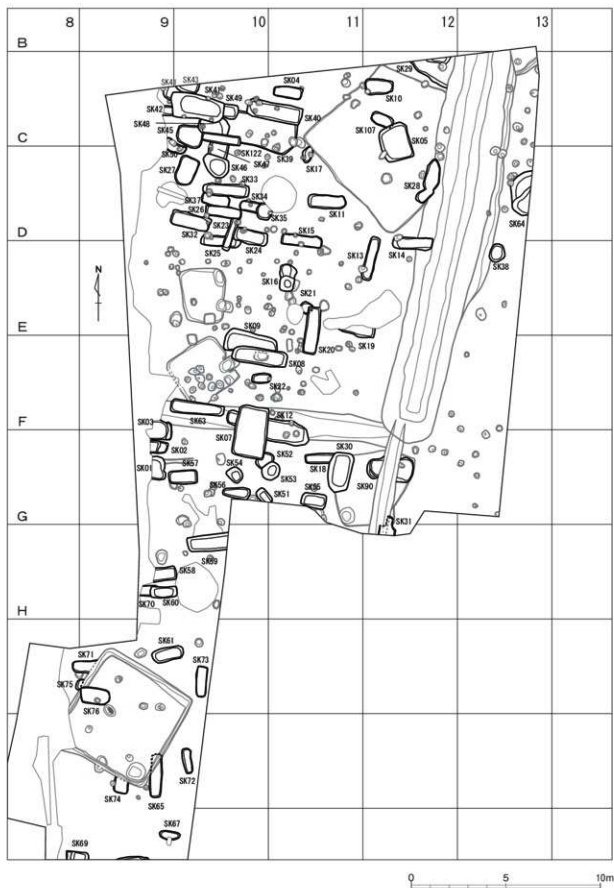
第14表 土坑一覧表1

遺構名	グリッド	形 態		規 模	深 さ	備 考
		平面形	断面形			
第26号土坑	C-9	長方形	箱形	1.91 × 0.59	0.29	土師器（小片）
第27号土坑	C-9	隅丸長方形	箱形	1.55 × 1.03	0.20	土師器（甕）
第28号土坑	C-11	不整形	箱形	2.46 × 0.72	0.20	磁器（碗）
第29号土坑	B-10	—	逆台形	〈3.18〉 × 〈1.80〉	0.36	陶器（甕）・軟質陶器（焙烙）
第30号土坑	F-10	隅丸長方形	逆台形	2.14 × 1.26	0.67	軟質陶器（焙烙）
第31号土坑	F-11、G-11	T字形	箱形	0.84 × 〈0.54〉	0.30	煙道長 0.54 m。 燒骨
第32号土坑	C-9	隅丸長方形	箱形	2.12 × 0.81	0.42	
第33号土坑	C-9	隅丸長方形	逆台形	2.44 × 0.69	0.29	カワラケ
第34号土坑	C-9	〈隅丸長方形〉	〈箱形〉	〈1.11〉 × 0.58	0.24	土師器（甕）
第35号土坑	C-9	円形	逆台形	0.88 × 0.82	0.24	
第36号土坑	欠 番					
第37号土坑	C-9	〈隅丸長方形〉	箱形	1.50 × 0.63	0.21	
第38号土坑	D-12	槽円形	皿形	0.98 × 0.81	0.18	
第39号土坑	B-9・10	〈隅丸長方形〉	箱形	〈3.29〉 × 1.67	0.16	土師器（甕）・須恵器（坏）・土製品（土鍾）
第40号土坑	—	隅丸長方形	逆台形	2.91 × 0.96	0.20	磁器（碗）
第41号土坑	B-8・9	—	—	〈1.03〉 × 〈0.55〉	0.40	土師器（小片）
第42号土坑	B-8	—	箱形	〈0.56〉 × 〈0.52〉	0.41	カワラケ
第43号土坑	B-9	—	〈箱形〉	〈1.27〉 × 〈0.57〉	0.45	土師器（小片）
第44号土坑	—	隅丸長方形	逆台形	2.89 × 1.37	0.44	軟質陶器（焙烙）
第45号土坑	B-9、C-9	隅丸長方形	皿形	1.37 × 1.18	0.12	カワラケ
第46号土坑	C-9	不整形	逆台形	1.47 × 1.08	0.20	
第47号土坑	B-9、C-9	—	皿形	〈1.04〉 × 0.80	0.23	
第48号土坑	C-9	—	皿形	1.64 × 〈1.06〉	0.29	須恵器（塊）
第49号土坑	C-9	—	逆台形	〈0.86〉 × 0.76	0.27	土師器（坏・甕）
第50号土坑	B-8・9、 C-8・9	不整形	皿状	〈1.17〉 × 0.63	0.17	土師器（小片）
第51号土坑	F-9・10	〈隅丸長方形〉	〈逆台形〉	〈0.95〉 × 0.56	0.27	土師器（甕）・羽釜
第52号土坑	F-9・10	〈隅丸長方形〉	箱形	0.93 × 0.86	0.20	土師器（坏・甕）
第53号土坑	F-9・10	槽円形	逆台形	1.61 × 0.86	0.16	軟質陶器（焙烙）
第54号土坑	F-9	隅丸長方形	皿形	0.85 × 0.69	0.23	土師器（甕）
第55号土坑	F-10	隅丸長方形	逆台形	1.32 × 0.78	0.56	土師器（甕）・須恵器（甕）
第56号土坑	F-9	不整形	皿形	1.44 × 0.62	0.13	
第57号土坑	F-8・9	隅丸長方形	逆台形	1.52 × 0.74	0.12	土師器（小片）・須恵器（甕）
第58号土坑	G-8・9	〈隅丸長方形〉	皿形	〈1.27〉 × 0.75	0.11	土師器（甕）
第59号土坑	G-9	〈隅丸長方形〉	〈逆台形〉	〈2.24〉 × 0.90	0.47	軟質陶器（焙烙）
第60号土坑	G-8・9	隅丸長方形	逆台形	1.43 × 0.61	0.41	軟質陶器（内耳鍋）
第61号土坑	H-8・9	槽円形	皿形	1.68 × 0.73	0.18	土師器（小片）
第62号土坑	G-8・9	—	箱形	〈0.94〉 × 0.58	0.20	
第63号土坑	E-8・9	隅丸長方形	箱形	2.82 × 0.70	0.25	
第64号土坑	C-12	—	逆台形	2.30 × 1.25	0.58	棧瓦・陶器（火鉢）
第65号土坑	I-8	隅丸長方形	逆台形	2.32 × 0.65	0.22	土師器（甕）
第66号土坑	J-8	隅丸長方形	箱形	2.24 × 1.42	0.21	カワラケ・陶器（甕）
第67号土坑	J-8・9	槽円形	皿形	1.10 × 0.46	0.07	土師器（小片）
第68号土坑	J-8	槽円形	皿形	1.16 × 0.49	0.11	土師器（小片）
第69号土坑	J-7・8	隅丸長方形	逆台形	1.20 × 0.77	0.56	軟質陶器（焙烙）・陶器（播鉢・燈明皿）
第70号土坑	欠 番					
第71号土坑	H-7・8	〈隅丸長方形〉	〈箱形〉	1.33 × 0.71	0.33	土師器（甕）
第72号土坑	I-9	槽円形	皿形	1.33 × 0.51	0.10	
第73号土坑	H-9	隅丸長方形	箱形	1.62 × 0.59	0.13	軟質陶器（焙烙）
第74号土坑	I-8	〈隅丸長方形〉	不整形	〈0.84〉 × 0.78	0.32	土師器（甕）・須恵器（甕）

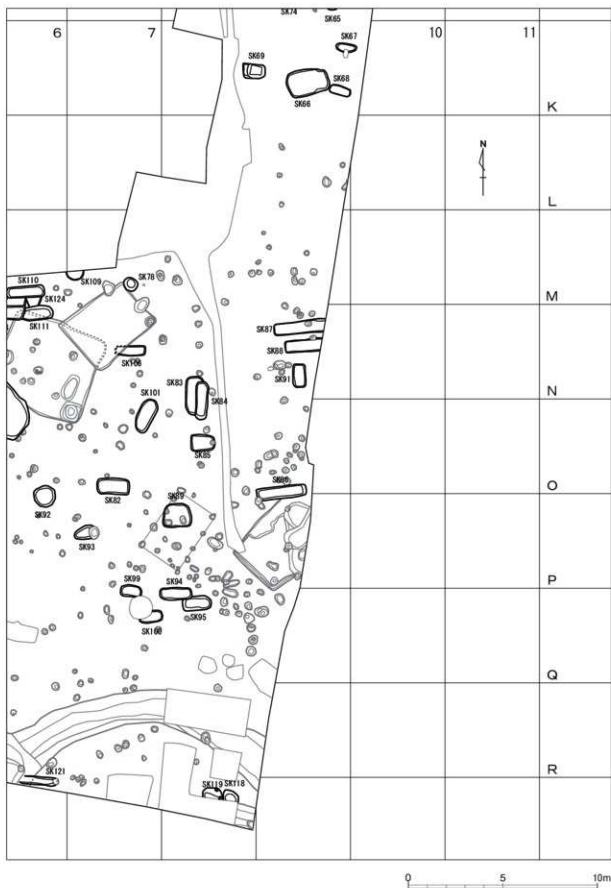
第15表 土坑一覧表2

遺構名	グリッド	形 態		規 模	深 さ	出土遺物
		平面形	断面形			
第75号土坑	H-7・8	—	<逆台形>	0.61 × 0.36	0.19	
第76号土坑	H-8	隅丸長方形	箱形	1.59 × 0.85	0.05	土師器（甕）
第77号土坑	N-4・5	隅丸長方形	箱形	1.81 × 0.93	0.14	
第78号土坑	L-6	円形	逆台形	0.75 × 0.68	0.29	土師器（環・甕）・土製品（土鍾）
第79号土坑	P-4	円形	逆台形	1.16 × 1.15	0.10	
第80号土坑	M-4・5, N-4・5	不整形	逆台形	4.66 × 3.12	0.44	カワラケ・軟質陶器（埴輪）
第81号土坑	L-4	円形	皿形	0.93 × 0.74	0.18	カワラケ・土製品（土鍾）
第82号土坑	N-6, O-6	隅丸長方形	逆台形	1.72 × 0.86	0.12	土師器（甕）
第83号土坑	M-7, N-7	隅丸長方形	逆台形	2.05 × 0.95	0.11	
第84号土坑	M-7, N-7	隅丸長方形	逆台形	2.00 × 0.67	0.11	
第85号土坑	N-7	隅丸長方形	皿形	1.27 × 0.89	0.16	土師器（高坏）
第86号土坑	N-8, O-8	隅丸長方形	逆台形	2.63 × 0.67	0.37	土師器（坪・甕）
第87号土坑	O-7	<隅丸長方形>	<箱形>	<2.78> × 0.73	0.18	土師器（甕）
第88号土坑	M-8	<隅丸長方形>	<逆台形>	<2.01> × 0.69	0.11	土師器（小片）
第89号土坑	O-7	隅丸長方形	逆台形	1.53 × 1.24	0.08	
第90号土坑	F-11	不整形	箱形	1.09 × 1.00	0.28	
第91号土坑	M-8	隅丸長方形	逆台形	1.23 × 0.69	0.10	
第92号土坑	N-5, O-5	円形	逆台形	1.13 × 1.12	0.20	土師器（甕）
第93号土坑	O-6	不整形	皿形	1.03 × 0.73	0.14	土師器（小片）
第94号土坑	O-7, P-6・7	隅丸長方形	箱形	1.69 × 0.66	0.17	土師器（坏）
第95号土坑	P-7	隅丸長方形	皿形	1.52 × 0.76	0.18	土師器（甕）
第96号土坑	P-4・5	隅丸長方形	皿形	2.41 × 0.67	0.11	土師器（小片）
第97号土坑	欠 番					
第98号土坑	K-4	—	不整形	<2.79> × <0.90>	1.35	陶器（播鉢）
第99号土坑	O-6, P-9	隅丸長方形	逆台形	1.12 × 0.62	0.08	
第100号土坑	P-6・7	隅丸長方形	<箱形>	1.24 × 0.64	0.21	土師器（小片）
第101号土坑	M-6, N-6	槽円形	箱形	1.84 × 0.87	0.12	土師器（甕）
第102号土坑	N-4	隅丸長方形	箱形	1.40 × 0.83	0.15	
第103号土坑	N-2	隅丸長方形	逆台形	1.49 × 0.58	0.11	
第104号土坑	N-2・3, O-2・3	隅丸長方形	箱形	3.99 × 0.88	0.13	
第105号土坑	P-4	不整形	皿形	2.00 × 0.87	0.09	土師器（甕）
第106号土坑	M-6	隅丸長方形	皿形	1.61 × 0.54	0.10	土師器（甕）
第107号土坑	B-10	槽円形	逆台形	1.21 × 0.63	0.11	
第108号土坑	M-5	隅丸長方形	逆台形	1.65 × 0.74	0.10	
第109号土坑	L-5・6	<円形>	箱形	0.95 × <0.51>	0.33	土師器（甕）
第110号土坑	L-5	隅丸長方形	逆台形	2.00 × 0.62	0.18	土師器（小片）
第111号土坑	M-5	槽円形	逆台形	1.68 × 0.75	0.26	
第112号土坑	L-2・3, M-2・3	隅丸長方形	箱形	1.02 × 0.64	0.29	人骨、小刀、銭貨
第113号土坑	M-2・3	隅丸長方形	箱形	2.02 × 0.52	0.30	土師器（小片）
第114号土坑	M-2・3	隅丸長方形	<箱形>	<2.27> × 0.67	0.14	
第115号土坑	M-3	隅丸長方形	皿形	1.07 × <0.96>	0.11	
第116号土坑	M-2	隅丸長方形	<箱形>	1.74 × 0.51	0.21	
第117号土坑	欠 番					
第118号土坑	R-7	—	不整形	0.80 × <0.63>	0.30	土師器（甕）
第119号土坑	R-7	—	不整形	1.05 × <0.62>	0.36	
第120号土坑	L-2, M-2	—	逆台形	<1.07> × <0.19>	0.19	土師器（小片）
第121号土坑	Q-5, R-5	—	—	<1.94> × 0.46	0.27	土師器（甕）
第122号土坑	B-9	長方形	箱形	2.06 × 0.51	0.42	
第123号土坑	L-5・M-5	—	—	<1.12> × <0.57>	0.08	
第124号土坑	L-5・M-5	—	—	<0.83> × <0.63>	0.17	
第125号土坑	Q-3	—	<箱形>	<1.13> × <0.37>	0.30	

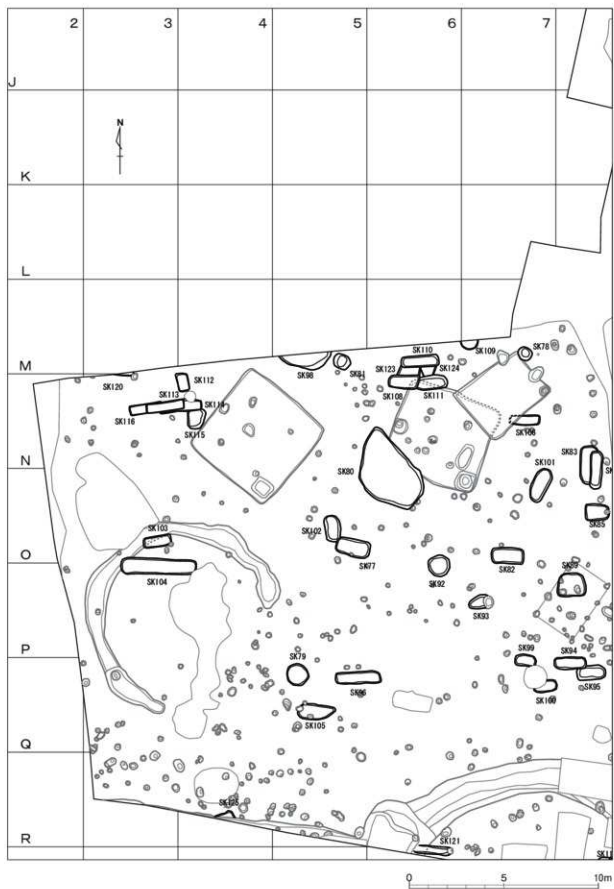
第16表 土坑一覧表3



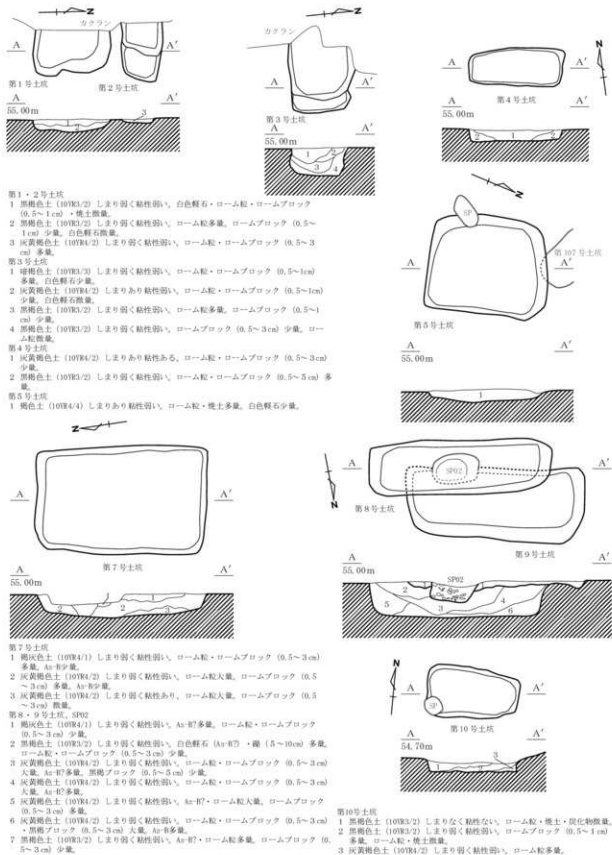
第 34 圖 土坑位置圖 1



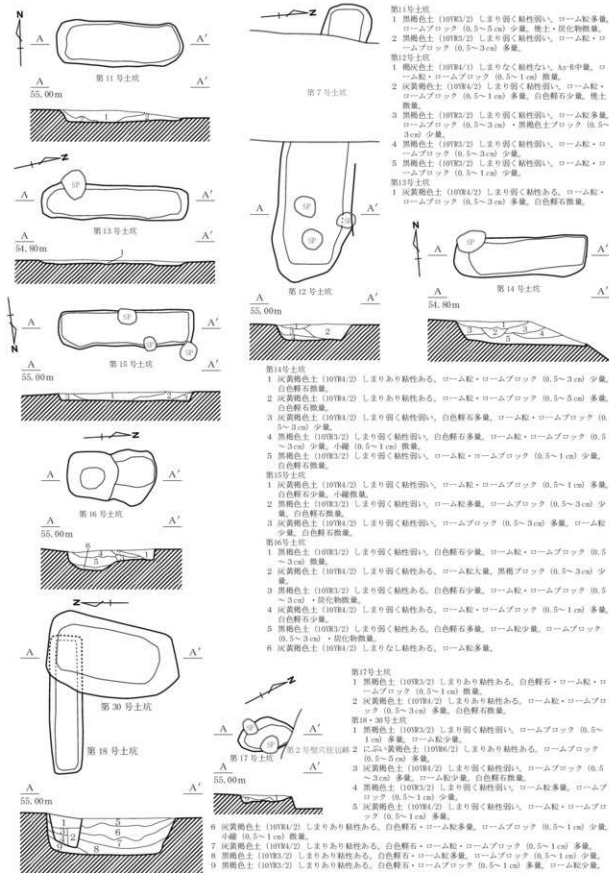
第 35 图 土坑位置图 2



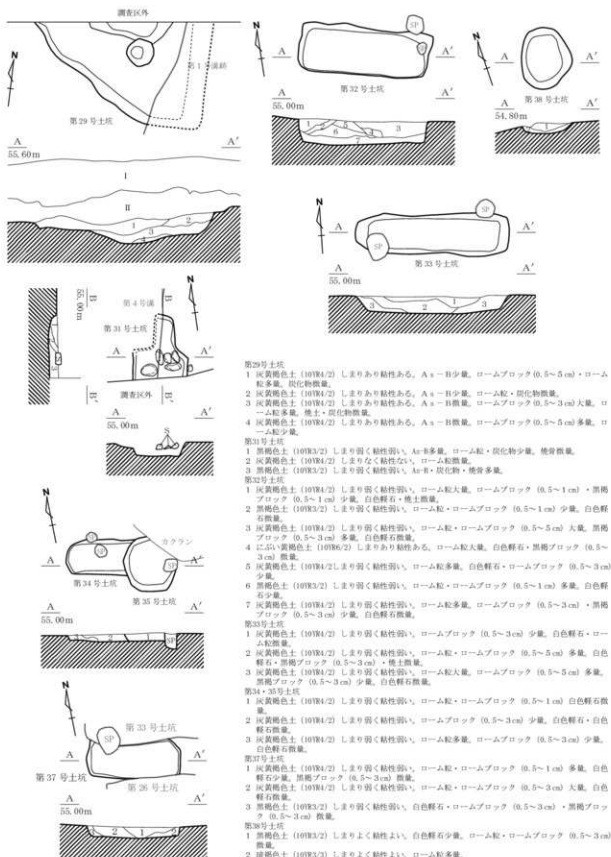
第 36 圖 土坑位置圖 3



第37図 土坑遺構図1 (第1~5・7~10号土坑)



第38国 土坑遺構図2 (第11~18・30号土坑)



- 第29号土坑
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A s-B 少量。ロームブロック (0.5~5 cm)・ローム粒多量。炭化物微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A s-B 少量。ローム粒・炭化物微量。
 - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A s-B 微量。ロームブロック (0.5~3 cm) 大量。ローム粒多量。焼土・炭化物微量。
 - 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。A s-B 微量。ロームブロック (0.5~5 cm) 多量。ローム粒少量。

- 第31号土坑
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い。A s-B 多量。ローム粒・炭化物少量。焼骨微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。A s-B 少量。ローム粒・炭化物微量。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い。A s-B 微量。炭化物・焼骨多量。
- 第32号土坑
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒大量。ロームブロック (0.5~1 cm)・黒褐ブロック (0.5~1 cm) 少量。白色軽石・焼土微量。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒・ロームブロック (0.5~1 cm) 少量。白色軽石・焼土微量。
 - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒・ロームブロック (0.5~5 cm) 大量。黒褐ブロック (0.5~3 cm) 多量。白色軽石微量。
 - 4 濃い灰黄褐色土 (10YR6/2) しまりあり粘性ある。ローム粒大量。白色軽石・黒褐ブロック (0.5~3 cm) 微量。
 - 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒多量。白色軽石・ロームブロック (0.5~3 cm) 少量。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒・ロームブロック (0.5~1 cm) 多量。白色軽石少量。
 - 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒多量。ロームブロック (0.5~3 cm)・黒褐ブロック (0.5~3 cm) 少量。白色軽石微量。

- 第33号土坑
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ロームブロック (0.5~3 cm) 少量。白色軽石・ローム粒少量。黒褐ブロック (0.5~3 cm) 微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒・ロームブロック (0.5~5 cm) 多量。白色軽石・黒褐ブロック (0.5~3 cm)・焼土微量。
 - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒大量。ロームブロック (0.5~5 cm) 多量。黒褐ブロック (0.5~3 cm) 少量。白色軽石微量。

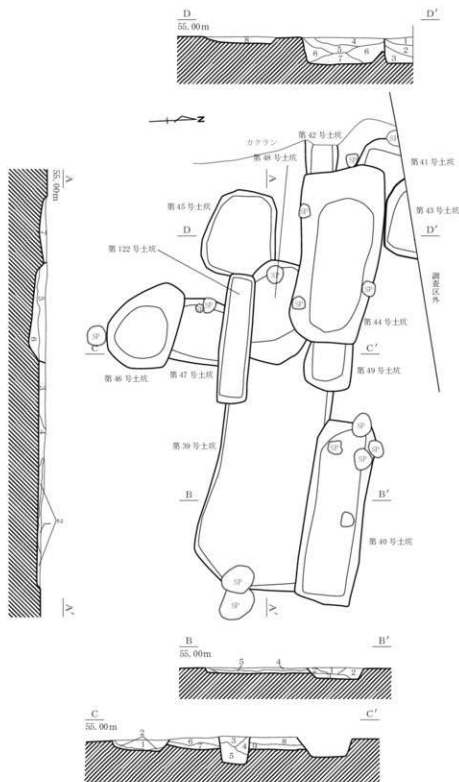
- 第34・35号土坑
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒・ロームブロック (0.5~1 cm) 白色軽石微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ロームブロック (0.5~3 cm) 少量。白色軽石・白色軽石少量。黒褐ブロック (0.5~3 cm) 微量。
 - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒多量。ロームブロック (0.5~3 cm) 少量。白色軽石微量。

- 第37号土坑
- 1 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒・ロームブロック (0.5~1 cm) 多量。白色軽石少量。黒褐ブロック (0.5~3 cm) 微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒・ロームブロック (0.5~3 cm) 大量。白色軽石微量。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い。白色軽石・ロームブロック (0.5~3 cm)・黒褐ブロック (0.5~3 cm) 微量。

- 第38号土坑
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりよく粘性よい。白色軽石少量。ローム粒・ロームブロック (0.5~3 cm) 微量。
 - 2 増褐色土 (10YR3/3) しまりよく粘性よい。ローム粒多量。

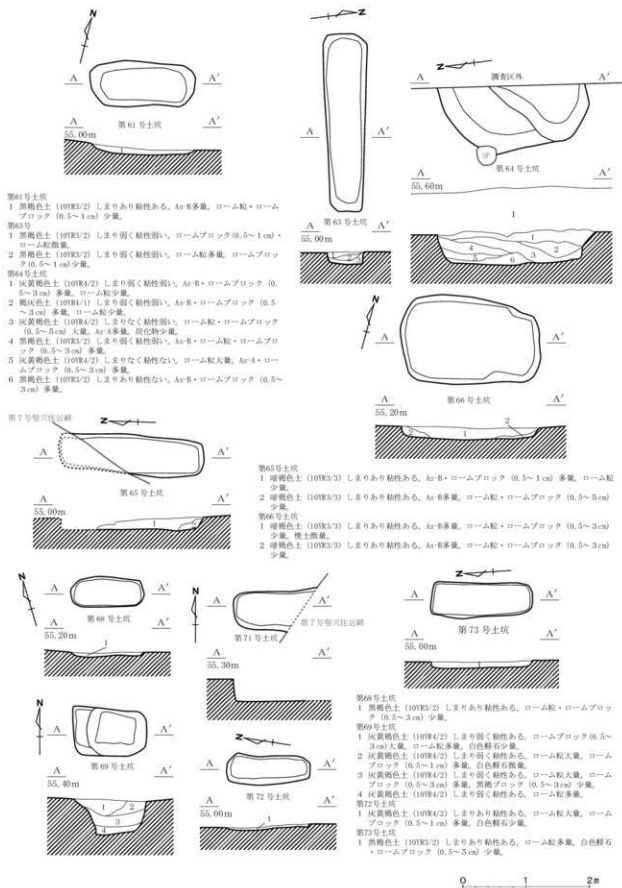
0 1 2m

第40号 土坑遺構図4 (第29・31～35・37・38号土坑)

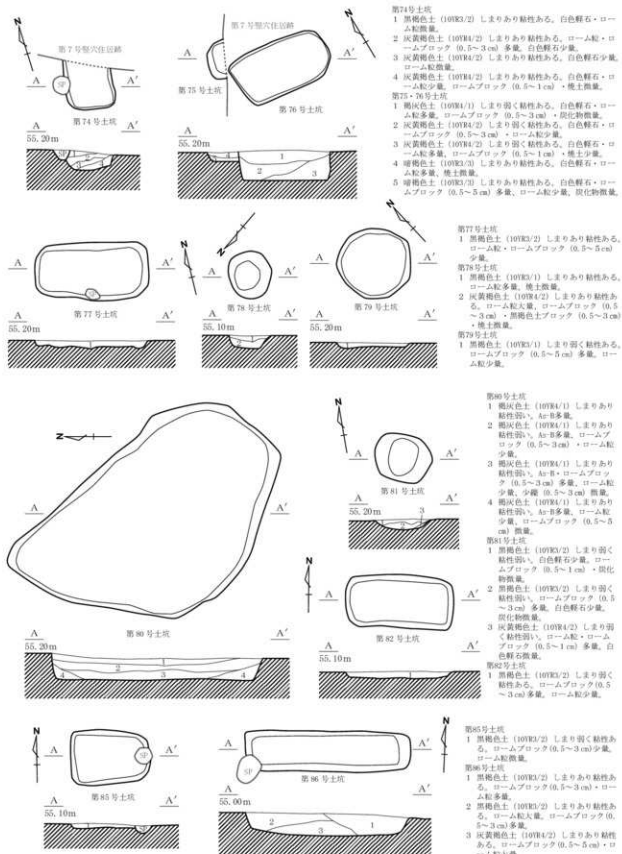


- 第39・45・48号土坑 (A-A') (58・39・45・48)
- 1 褐色土 (10YR4/1) しまり弱く粘性弱い。白色軽石多量。ロームブロック (0.5~1 cm) 少量。ローム粒微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。白色軽石多量。ローム粒少量。ロームブロック (0.5~3 cm) 微量。
 - 3 褐色土 (10YR4/1) しまり弱く粘性弱い。白色軽石多量。ローム粒・ロームブロック (0.5~1 cm) 微量。
 - 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。白色軽石多量。ロームブロック (0.5~3 cm) 少量。ローム粒微量。
 - 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒・ロームブロック (0.5~5 cm) 多量。白色軽石少量。
 - 6 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒多量。白色軽石・ロームブロック (0.5~3 cm) 微量。
- 第39・40号土坑 (B-B')
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ローム粒・ロームブロック (0.5~3 cm) 少量。白色軽石少量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある。白色軽石・ローム粒・ロームブロック (0.5~3 cm) 微量。
 - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある。ローム粒・ロームブロック (0.5~3 cm) 多量。白色軽石少量。
 - 4 A-A' 第1層。
 - 5 A-A' 第2層。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒多量。白色軽石微量。
- 第46・49号土坑 (C-C')
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) しまりなく粘性ない。白色軽石・小砂多量。炭化物少量。ローム粒微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。白色軽石多量。ロームブロック (0.5~3 cm) 微量。
 - 3 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石多量。ロームブロック (0.5~5 cm) 少量。ローム粒微量。
 - 4 暗褐色土 (10YR3/3) しまりあり粘性ある。白色軽石・ロームブロック (0.5~3 cm) 多量。ローム粒少量。
 - 5 暗褐色土 (10YR3/3) しまりあり粘性ある。白色軽石・ローム粒・ロームブロック (0.5~5 cm) 多量。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石少量。ローム粒・粘土・炭化物微量。
 - 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。白色軽石少量。ローム粒・ロームブロック (0.5~5 cm) 多量。
 - 8 A-A' 第5層。
 - 9 A-A' 第6層。
- 第43・45号土坑 (D-D')
- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒・ロームブロック (0.5~3 cm) 多量。白色軽石微量。
 - 2 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い。ロームブロック (0.5~5 cm) 少量。白色軽石・ローム粒微量。
 - 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒・ロームブロック (0.5~5 cm) 多量。白色粒大。黒褐色ブロック (0.5~3 cm) 微量。
 - 4 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・ローム粒微量。
 - 5 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。白色軽石・ロームブロック (0.5~3 cm) 少量。ローム粒微量。
 - 6 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある。ロームブロック (0.5~5 cm) 少量。白色軽石微量。
 - 7 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまりあり粘性ある。ローム粒大。ロームブロック (0.5~3 cm)・黒褐色ブロック (0.5~3 cm) 少量。
 - 8 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い。ローム粒多量。白色軽石・ロームブロック (0.5~5 cm) 微量。

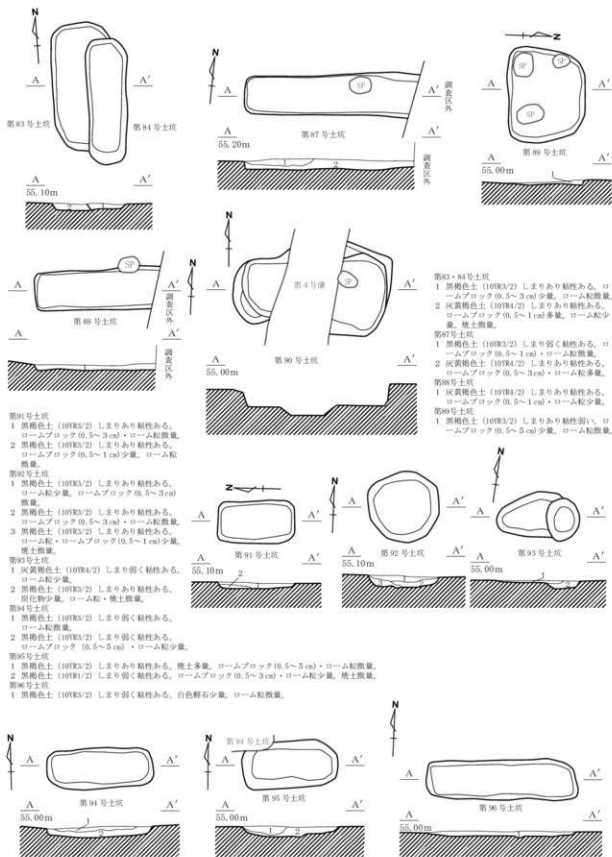
第41図 土坑遺構図5 (第39~49・122号土坑)



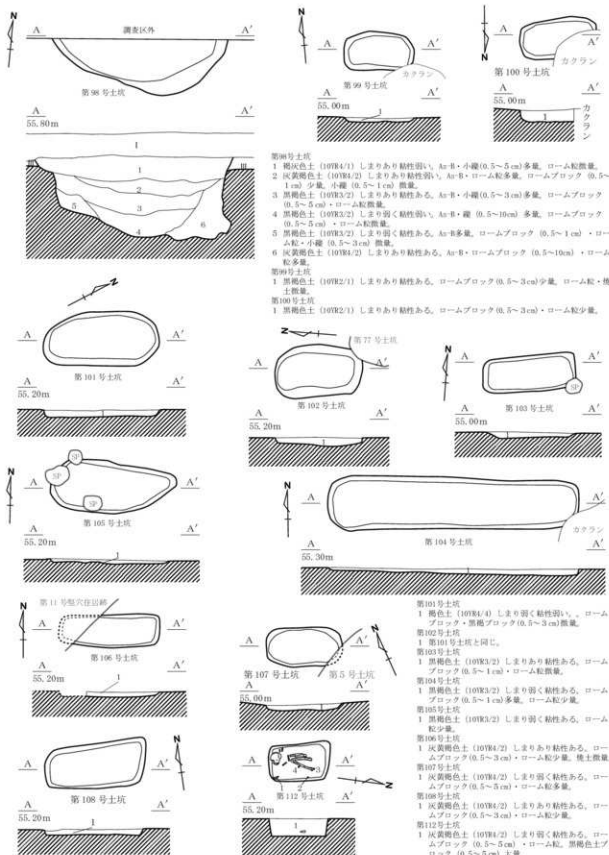
第43図 土坑遺構図7 (第61・63・68・69・72・73号土坑)



第44図 土坑遺構図8 (第74~82・85・86号土坑)



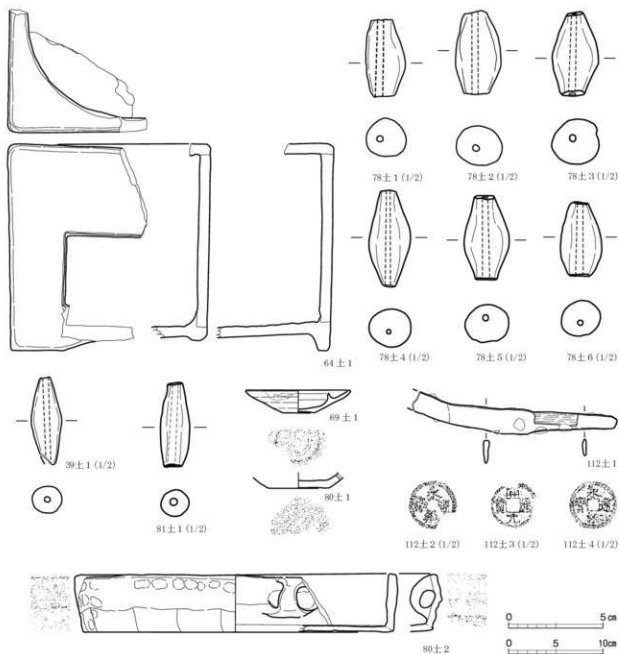
第45図 土坑遺構図9（第83・84・87～96号土坑）



第46図 土坑遺構図10 (第98~108・112号土坑)



49



第 49 図 土坑出土遺物 2

5 ± 1	甕	B. 粘土紐縞み上げ。C. 内外、ロクロナデ。D. 黒色粒、白色針状物。E. 内外一灰色。F. 口縁部片。H. 覆土。
39 ± 1	土鐘	A. 長さ 4.6、幅 1.6、厚さ 0.9、重さ 8.45 g。B. 手捏ね。C. 表面ナデ。D. 黒色鉱物、石英。E. にぶい橙色。F. 先端一部欠損。H. 覆土。
53 ± 1	火消し蓋	A. 口縁部径 (23.7)、底部径 (20.0)、器高 4.2。B. 粘土紐縞み上げ後ロクロ成形。C. 内外、回転ナデ。D. 黒色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 口縁部～底部破片。H. 覆土。
64 ± 1	火鉢	A. 器高 21.9。B. 型作り成形。C. 外面、丁寧なミガキ。内面、ナデ。D. 金雲母、石英。E. 内一明赤褐色、外一赤褐色。F. 口縁部～底部破片。H. 覆土。
69 ± 1	燈明受皿	A. 口縁部径 (11.1)、底部径 (3.5)、器高 2.4。B. ロクロ成形。C. 内外、回転ナデ。見込みから外面の一部にかけて灰釉を施軸。D. 白色粒。E. 内外一灰黄色。F. 口縁部～底部 1/3 残存。H. 覆土。
78 ± 1	土鐘	A. 長さ 4.1、幅 2.1、厚さ 2.0、重さ 16.42 g。B. 手捏ね。C. 表面ナデ。D. 黒色粒、雲母。E. にぶい橙色。F. 完形。H. 覆土。
78 ± 2	高坏	A. 長さ 4.4、幅 2.4、厚さ 2.1、重さ 22.03 g。B. 手捏ね。C. 表面ナデ。D. 黒色粒、雲母。E. にぶい橙色。F. 完形。H. 覆土。

第 17 表 土坑出土遺物観察表 1

78土3	土鍾	A. 長さ4.5、幅2.4、厚さ2.4、重さ19.96 g。B. 手捏ね。C. 表面ナデ。D. 黒色粒、雲母。E. に ぶい橙色。F. 完形。H. 覆土。
78土4	土鍾	A. 長さ5.1、幅2.2、厚さ2.0、重さ17.56 g。B. 手捏ね。C. 表面ナデ。D. 黒色粒、雲母。E. に ぶい橙色。F. 完形。H. 覆土。
78土5	土鍾	A. 長さ4.5、幅2.3、厚さ2.0、重さ19.23 g。B. 手捏ね。C. 表面ナデ。D. 黒色粒、雲母。E. に ぶい橙色。F. 完形。H. 覆土。
78土6	土鍾	A. 長さ3.9、幅2.1、厚さ1.9、重さ15.29 g。B. 手捏ね。C. 表面ナデ。D. 黒色粒、雲母。E. に ぶい橙色。F. 完形。H. 覆土。
80土1	かわらけ	A. 底部径(6.4)、器高(1.7)。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ、底部回転糸切り無調整。内面、 回転ナデ。D. 褐色粒、白色粒、黒色鉱物。E. 内外一にび橙色。F. 底部1/2残存。H. 覆土。
80土2	焙烙	A. 口縁部径(34.0)、底部径(32.2)、器高6.1。B. 型作り成形。C. 外面、体部箇ケズリ、口縁部ヨコナデ・ 指頭圧痕。内面、ナデ。D. 白色粒・褐色粒・雲母。E. 内一灰黄褐色、外一灰褐色。H. 覆土。
81土1	土鍾	A. 長さ4.5、幅1.5、厚さ1.4、重さ8.76 g。B. 手捏ね。C. 表面ナデ。D. チャート、白色粒。E. にぶい橙色。F. 完形。H. 覆土。
112土1	小刀	A. 長さ(21.7)、幅2.3、厚さ0.6、重さ74.40 g。B. 鍛造。F. 切先欠損。G. 柄部に木質付着。H. SK112No.4
112土2	永楽通寶	A. 直径2.5、厚さ0.1、重さ2.23 g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 一部欠損。G. 1411年初鋳。H. 覆土。
112土3	開元通寶	A. 直径2.4、厚さ0.1、重さ2.3 g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 一部欠損。G. 621年初鋳。H. 覆土。
112土4	永楽通寶	A. 直径2.5、厚さ0.1、重さ2.79 g。B. 鋳造。D. 銅製。F. 一部欠損。G. 1411年初鋳。H. 覆土。

第18表 土坑出土遺物観察表2

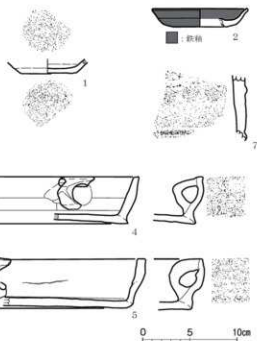
第6節 溝

第1号溝 (第50・51図、図版7・13・14)

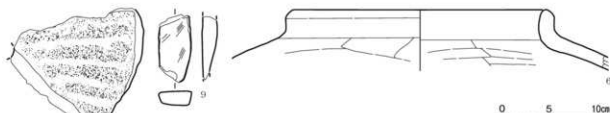
調査区北東部、B・C=14・15、D・E・F=13・14グリッドに位置する。第1・2号堅穴住居跡、第14・28・29号土坑、第2・4号溝と重複する。切り合い関係から、第1・2号溝より新しく、他より古い。

規模は上端幅3.63m、下端幅0.73m、確認面からの深度は1.53mを測る。走行方向はN-10°-Eを向く。断面形状はやや不整形な逆台形状を呈する。また、南端部は終息しており北側は調査区外に及ぶ。

遺物は埋没土中よりかわらけ・陶器・軟質陶器・石製品
が出土した。本遺構の帰属時期は埋没土及び出土遺物から
As-B降下以降に開削され、少なくとも17世紀頃まで溝(堀)
としての名残をとどめていたものと推測される。なお、平成
元年度に調査が実施された東側に近接した位置にある本庄城
跡(2011 本庄市教育委員会)では、本庄城に關係するとさ
れている大溝が検出されており、本溝との有機的關係も考慮
される。

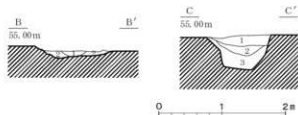
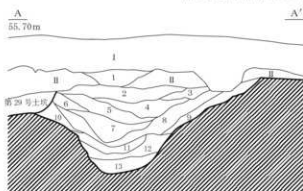


第50図 第1号溝出土遺物1



A-A' (第1号溝)

- 1 褐色土 (10YR4/1) しまりあり粘性弱い, A_{Fe} 多量, ロームブロック (0.5~1 cm)・小礫 (1~3 cm)・焼土微量。
- 2 褐色土 (10YR4/1) しまり弱く粘性弱い, A_{Fe} 多量, ロームブロック (0.5~1 cm)・ローム粒微量。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) しまりあり粘性ある, A_{Fe} 多量, ロームブロック (0.5~3 cm)・ローム粒少量。
- 4 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い, A_{Fe} 多量, ロームブロック (0.5~1 cm)・小礫 (0.5~3 cm) 炭化物微量。
- 5 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い, A_{Fe} 多量, ロームブロック (0.5~1 cm)・炭化物少量, 小礫 (0.5~3 cm) 微量。
- 6 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い, A_{Fe} 多量, ロームブロック (0.5~1 cm) 少量, ローム粒微量。
- 7 褐色土 (10YR4/1) しまり弱く粘性弱い, A_{Fe} 多量, ロームブロック (0.5~1 cm)・ローム粒・炭化物微量。
- 8 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い, A_{Fe} 多量, ロームブロック (0.5~3 cm)・ローム粒少量, 焼土微量。
- 9 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある, A_{Fe} ・ロームブロック (0.5~5 cm)・ローム粒多量。
- 10 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある, A_{Fe} ・ローム粒多量, 炭化物微量。
- 11 褐色土 (10YR4/1) しまり弱く粘性弱い, A_{Fe} 多量, ローム粒少量, ロームブロック (0.5~1 cm) 微量。
- 12 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性ある, ローム粒多量, A_{Fe} ・ロームブロック (0.5~1 cm) 少量。
- 13 褐色土 (10YR4/1) しまり弱く粘性弱い, A_{Fe} 少量, ロームブロック (0.5~1 cm)・ローム粒微量。



B-B' (第2号溝)

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い, A_{Fe} ・ローム少量・ロームブロック (0.5~1 cm)・ローム粒・炭化物微量。
- 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い, A_{Fe} ・ローム少量・ローム粒微量。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い, ロームブロック (0.5~3 cm)・ローム粒多量, A_{Fe} ・ローム少量。

C-C' (第4号溝)

- 1 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い, 白色輝石多量, ローム粒・礫 (5~30 cm) 微量。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い, 白色輝石多量, ロームブロック (0.5~3 cm)・ローム粒少量。
- 3 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い, 白色輝石・ロームブロック (0.5~3 cm) 多量, ローム粒少量。

第51図 第1号溝出土遺物2・第1・2・4号溝遺構図

1	カワラケ	A. 底部径 (6.2)、器高 (1.6)。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ、底部糸切り無調整。内面、回転ナデ。D. 褐色粒、黒色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 底部残存。H. 覆土。
2	皿	A. 口縁部径 (10.1)、底部径 (5.1)、器高 1.9。B. ロクロ成形。C. 内外、回転ナデ、鉄軸施軸。D. 白色粒。E. 内外一灰赤色。F. 1/4 残存。H. 覆土。
3	鉢鉢	A. 底部径 (9.0)、器高 (1.7)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、底部回転糸切り一部ナデ。内面、ナデ・極き目。D. 白色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 底部片。H. 覆土。
4	焙烙	A. 口縁部径 (35.0)、底部径 (32.6)、器高 5.0。B. 型作り成形。C. 外面、体部筋ケズリ、口縁部ヨコナデ・指頭痕。内面、ナデ。D. 黒色粒・白色粒。E. 内一灰色、外一褐色。F. 1/6 残存。H. 覆土。
5	焙烙	A. 口縁部径 (36.2)、底部径 (33.6)、器高 5.4。B. 型作り成形。C. 外面、体部筋ケズリ、口縁部ヨコナデ、内面、ナデ。D. 黒色粒、黒色鉱物、白色粒。E. 内一にぶい黄褐色、外一黒褐色。F. 1/6 残存。H. 覆土。
6	甕	A. 口縁部径 (26.6)、器高 (5.1)。B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、胴部筋ナデ、口縁部ヨコナデ。内面、胴部筋ナデ、口縁部ヨコナデ。D. 白色粒・黒色鉱物。E. 内一にぶい黄色、外一にぶい黄褐色。F. 口縁部片。H. 覆土。
7	火鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、筋ナデ、スタンプ文。内面、ナデ。D. 雲母・黒色粒・白色粒。E. 内一灰色、外一灰白色。F. 体部片。H. 覆土。
8	穀物臼	A. 長さ 13.9、幅 13.4、厚さ 9.2、重さ 1801.55 g。G. 下臼。安山岩製。H. 覆土。
9	砥石	A. 幅 3.5、厚さ 1.5、重さ 49.70 g。G. 4面使用。波紋岩製。H. 覆土。

第 19 表 第 1 号溝出土遺物観察表

第 2 号溝 (第 51 図、図版 7)

E-8 ~ 11、F-10・11 グリッドに位置する。第 7・63・95 号土坑、第 1・4 号溝と重複する。切り合い関係から、土坑・第 1 号溝より新しい。第 4 号溝との新旧関係は不明である。本溝は、第 1 号溝跡と直交して接続することから同時期に機能していた可能性も考慮される。

規模は上端幅 1.50 m、下端幅 0.88 m、確認面からの深度は 0.21 m を測る。走行方向は N-85°-W の方向にほぼ直線的に走行する。断面形状は皿状を呈する。

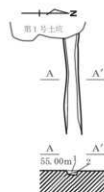
遺物は埋没土中より土師器片が出土しているが、混入遺物と考えられる。本遺構の帰属時期は出土遺物に乏しいため詳細は不明である。ただし、埋没土に As-B を含むこと及び第 1 号溝との切り合い関係から As-B 降下以降に開削され、ある時期では第 1 号溝及び第 4 号溝とともに区画溝としての機能を果たしていたものと考えられる。

第 3 号溝 (第 52 図、図版 7)

F-8・9 グリッドに位置する。第 1 号土坑と重複する。切り合い関係から本遺構が古い。東側は削平されていた。

規模は上端幅 0.30 m、下端幅 0.12 m、確認面からの深度は 0.07 m を測る。走行方向は N-89°-E の方向にほぼ直線的に走行する。断面形状は逆台形状を呈する。

遺物は出土しなかった。帰属時期については埋没土に As-B を含まないことから As-B 降下以前と考えられる。



第 4 号溝 (第 51・53 図、第 20 表、図版 7・14)

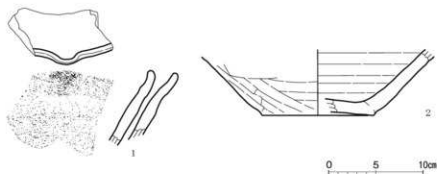
E-G-11 グリッドに位置する。第 4・5 号竪穴住居跡、第 31・90 号土坑、第 1・2 号溝と重複する。切り合い関係から、第 4・5 号竪穴住居跡、第 90 号土坑より新しく、第 31 号土坑より古い。第 2 号溝との関係は前述のとおりである。

- 0 1 2m
- A-A' (2D-03)
- 1 灰褐色土 (10YR3/2) しまり弱く粘性弱い、ローム粒微量。
 - 2 灰黄褐色土 (10YR4/2) しまり弱く粘性弱い、ローム粒多量・ロームブロック (0.5~1cm) 少量。

第 52 図 第 3 号溝遺構図

規模は上端幅 1.02 m、下端幅 0.75 m、確認面からの深度は 0.66 m を測る。走行方向は $N-11^{\circ}-E$ の方向にほぼ直線的に走行する。断面形状は逆台形状を呈する。

遺物は埋没土中より軟質陶器の鉢や陶器片が出土した。本遺構の帰属時期及び機能については第 2 号溝に準拠する。



第 53 図 第 4 号溝出土遺物

1	片口鉢	B. 粘土組織み上げ。C. 外面、ハケ状工具による鋭ケズリ、鋭ナデ。内面、ナデ。D. 褐色粒、白色粒。E. 内一にふい橙色、外一褐色。F. 口縁部片。H. 覆土。
2	甕	A. 底部径(11.8)、器高<7.0> B. 粘土組織み上げ。C. 外面、回転ナデ後鋭ナデ。内面、回転ナデ。D. 白色粒。E. 内外一灰色。F. 底部 1/4 残存。H. 覆土。

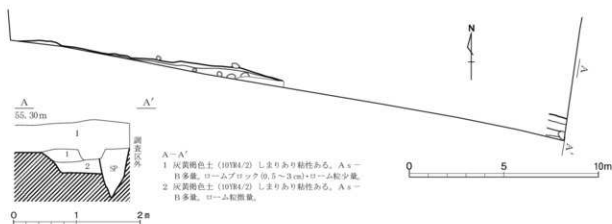
第 20 表 第 4 号溝出土遺物観察表

第 5 号溝 (第 54 図、図版 7)

調査区南端部、 $Q-2 \sim 5$ 、 $R-5 \cdot 7$ グリッドに位置する。大半が調査区外に範囲が及ぶ。

規模は上端幅 1.25 m、下端幅 0.45 m、確認面からの深度は 0.33 m を測る。走行方向は $N-80^{\circ}-W$ の方向にほぼ直線的に走行する。断面形状は逆台形状を呈する。

遺物は出土しなかった。帰属時期については埋没土に $As-B$ をむことから $As-B$ 降下以降と考えられる。また、現況の道路にほぼ併走して走行することから当時の地割が現代に踏襲されている可能性が考慮される。



第 54 図 第 5 号溝遺構図

第7節 ビット

(第55～63図、第21～29表、図版14)

620基のビットが検出された。ビットは調査区北側、南側に集中し、中央部では希薄になる傾向がある。また、埋没土はAs-B軽石を含むものが大半を占める。複数の掘立柱建物跡が存在した可能性が考えられるが、今回の調査において確認できたのは1棟(第1号掘立柱建物跡)のみであった。なお、ビットとしたものについては原則として平面規模が小規模なものを土坑と分けて扱った。

遺構名	位置	規模 (長軸・短軸・深さ)	備考
SP01	D-8・9	0.79・0.63・0.43	
SP02	E-9	0.75・0.47・0.31	
SP03	D-9	0.59・0.56・0.18	
SP04	欠番		
SP05	欠番		
SP06	D-8	0.27・0.24・0.02	
SP07	B-11	0.29・0.27・0.19	
SP08	B-11	0.40・0.33・0.41	
SP09	C-11	0.47・0.26・0.61	
SP10	D-11	0.32・0.27・0.30	
SP11	C-10	0.46・0.38・0.20	
SP12	D-10	0.42・0.37・0.22	
SP13	D-10	0.33・0.33・0.12	
SP14	D-10	0.33・0.33・0.37	
SP15	D-10	0.23・0.23・0.14	
SP16	D-10	0.37・0.29・0.37	
SP17	D-10	0.69・0.48・0.09	
SP18	C-10	0.28・0.20・0.31	
SP19	D-10	0.30・0.24・0.34	
SP20	C-10	0.22・0.19・0.17	
SP21	C-10	0.28・0.26・0.43	
SP22	C-10	0.35・0.33・0.08	
SP23	C-9・10	0.26・0.23・0.11	
SP24	C-10	0.26・0.20・0.29	
SP25	C-10	0.27・0.31・0.28	
SP26	B-10	0.48・0.43・0.39	
SP27	B-10	0.36・0.26・0.12	
SP28	B-10	0.24・0.17・0.09	
SP29	B-12	0.38・0.19・0.48	
SP30	B-12	0.41・0.37・0.68	
SP31	B-12	0.39・0.36・0.40	
SP32	B-12	0.30・0.26・0.30	
SP33	B-12 C-12	0.26・0.23・0.26	
SP34	C-12	0.34・0.29・0.21	
SP35	B-12	0.50・0.42・0.36	
SP36	B-12	0.33・0.17・0.33	
SP37	C-12	0.40・0.35・0.48	

遺構名	位置	規模 (長軸・短軸・深さ)	備考
SP38	C-12	0.33・0.36・0.27	
SP39	C-12	0.48・0.40・0.52	
SP40	C-12	0.55・0.42・0.44	
SP41	C-12	0.33・0.23・0.36	
SP42	C-12	0.32・0.32・0.53	
SP43	C-12	0.34・0.33・0.33	
SP44	C-12	0.33・0.33・0.62	
SP45	D-12	0.33・0.22・0.44	
SP46	D-12	0.63・0.50・0.43	
SP47	E-12	0.23・0.26・0.30	
SP48	E-11	0.31・0.28・0.29	
SP49	E-11 F-11	0.33・0.29・0.50	
SP50	F-11	0.32・0.30・0.28	
SP51	F-12	0.35・0.31・0.24	
SP52	F-12	0.28・0.28・0.15	
SP53	F-12	0.36・0.29・0.43	
SP54	C-9	0.34・0.27・0.47	
SP55	F-11	0.40・0.32・0.14	
SP56	F-11	0.32・0.24・0.39	
SP57	E-11 F-11	0.32・0.32・0.09	
SP58	F-12	0.41・0.36・0.69	
SP59	F-12	0.27・0.21・0.36	
SP60	F-12	0.28・0.21・0.31	
SP61	D-10	0.23・0.28・0.60	
SP62	D-10	0.26・0.22・0.24	
SP63	D-10	0.26・0.23・0.16	
SP64	D-10	0.25・0.22・0.13	
SP65	D-10	0.59・0.49・0.10	
SP66	E-10	0.32・0.32・0.16	
SP67	E-10	0.29・0.23・0.33	
SP68	E-10	0.35・0.27・0.15	
SP69	E-10	0.36・0.29・0.09	
SP70	E-10	0.27・0.25・0.28	
SP71	E-10	0.33・0.30・0.33	
SP72	E-10	0.24・0.17・0.10	
SP73	E-10	0.17・0.10・0.13	
SP74	E-10	0.65・0.29・0.10	

第21表 ビット計測値1

遺構名	位 置	規 模 (長軸・短軸・高さ)	備 考
SP75	E-10	0.20・0.19・0.06	
SP76	E-10	0.31・0.27・0.17	
SP77	D-10	0.29・0.27・0.10	
SP78	D-10	0.28・0.22・0.32	
SP79	D-10	0.30・0.21・0.14	
SP80	D-9	0.26・0.25・0.17	
SP81	D-10	0.51・0.42・0.15	
SP82	D-10	0.66・0.52・0.12	
SP83	D-10	0.28・0.27・0.27	
SP84	D-10	0.23・0.19・0.21	
SP85	D-9・10	0.44・0.34・0.14	
SP86	D-9・10	0.24・0.20・0.19	
SP87	D-9	0.21・0.17・0.16	
SP88	D-9	0.26・0.23・0.19	
SP89	F-9	0.34・0.27・0.24	
SP90	E-10	0.46・0.28・0.08	
SP91	C-9・10	0.26・0.21・0.40	
SP92	C-9	0.21・0.17・0.26	
SP93	C-9	0.17・0.15・0.13	
SP94	C-9	0.31・0.29・0.13	
SP95	C-9	0.43・0.35・0.21	
SP96	C-9	0.32・0.29・0.46	
SP97	C-9	0.20・0.15・0.41	
SP98	C-9	0.42・0.37・0.42	
SP99	C-9	0.26・0.18・0.34	
SP100	C-9	0.28・0.23・0.39	
SP101	C-9	0.21・0.10・0.10	
SP102	C-9	0.36・0.27・0.53	
SP103	C-9	0.34・0.27・0.57	
SP104	C-9	0.31・0.30・0.17	
SP105	C-9	0.25・0.24・0.16	
SP106	C-9・10	0.31・0.28・0.39	
SP107	B-10 C-10	0.47・0.39・0.39	
SP108	B-10 C-10	0.53・0.44・0.24	
SP109	B-10 C-10	0.58・0.48・0.08	
SP110	B-10	0.27・0.26・0.09	
SP111	B-10 C-10	0.23・0.22・0.10	
SP112	B-9・10 C-9	0.41・0.36・0.12	
SP113	B-9	0.37・0.28・0.26	
SP114	B-10 C-10	0.24・0.20・0.16	
SP115	B-9	0.25・0.24・0.13	
SP116	B-9	0.32・0.28・0.29	
SP117	B-9	0.38・0.30・0.59	

遺構名	位 置	規 模	備 考
SP118	B-9	0.30・0.22・0.31	
SP119	B-9	0.26・0.25・0.14	
SP120	B-9	0.30・0.30・0.51	
SP121	B-9	0.34・0.28・0.31	
SP122	B-9	0.25・0.22・0.40	
SP123	B-9	0.20・0.20・0.30	
SP124	B-9	0.22・0.18・0.36	
SP125	B-8	0.19・0.21・0.13	
SP126	B-8	0.26・0.19・0.42	
SP127	B-8・9 C-8・9	0.45・0.26・0.28	
SP128	C-9	0.32・0.24・0.16	
SP129	F-9	0.48・0.29・0.16	
SP130	G-8	0.77・0.59・0.24	
SP131	F-9	0.59・0.45・0.47	
SP132	F-9	0.28・0.28・0.35	
SP133	F-8・9	0.42・0.32・0.05	
SP134	F-9	0.38・0.36・0.16	
SP135	F-9	0.40・0.40・0.18	
SP136	F-9	0.38・0.34・0.28	
SP137	F-9 G-9	0.40・0.34・0.16	
SP138	F-10	0.39・0.35・0.17	
SP139	K-8	0.38・0.23・0.13	
SP140	K-8	0.26・0.23・0.39	
SP141	K-8	0.27・0.22・0.26	
SP142	L-8	0.20・0.17・0.12	
SP143	L-8	0.34・0.33・0.31	
SP144	L-8	0.33・0.32・0.30	
SP145	L-8	0.46・0.38・0.01	
SP146	L-8	0.46・0.28・0.21	
SP147	L-8	0.38・0.33・0.32	
SP148	L-8	0.32・0.28・0.29	
SP149	L-8	0.26・0.24・0.15	
SP150	L-7	0.34・0.33・0.38	
SP151	L-7	0.35・0.30・0.32	
SP152	L-8	0.25・0.23・0.11	
SP153	K-8	0.56・0.45・0.15	
SP154	欠 番		
SP155	欠 番		
SP156	欠 番		
SP157	欠 番		
SP158	欠 番		
SP159	欠 番		
SP160	欠 番		
SP161	欠 番		
SP162	F-10	0.36・0.23・—	

第 22 表 ビット計測値 2

遺構名	位置	規模 (長軸・短軸・深さ)	備考
SP163	F-10	0.54・0.36・0.20	
SP164	D-9	0.24・0.23・0.20	
SP165	D-9 E-9	0.58・0.50・0.16	
SP166	D-9	0.38・0.32・0.09	
SP167	D-9	0.24・0.23・0.16	
SP168	D-9	0.23・0.16・0.11	
SP169	D-9	0.19・0.16・0.08	
SP170	D-9	0.39・0.31・0.37	
SP171	D-9	0.33・0.23・0.22	
SP172	D-9	0.47・0.31・0.45	
SP173	D-9	0.27・0.24・0.19	
SP174	D-9	0.29・0.27・0.75	
SP175	D-8・9	0.35・0.30・0.47	
SP176	D-8・9	0.32・0.26・0.41	
SP177	D-8	0.26・0.25・0.36	
SP178	D-9	0.24・0.20・0.09	
SP179	D-9	0.25・0.21・0.14	
SP180	D-8	0.21・0.18・0.20	
SP181	D-8	0.34・0.33・0.34	
SP182	D-8	0.36・0.27・0.35	
SP183	E-9	0.40・0.32・0.41	
SP184	E-10	0.59・0.46・0.66	
SP185	E-10	0.18・0.16・0.25	
SP186	E-10	0.41・0.30・0.32	
SP187	E-10・11	0.24・0.19・0.24	
SP188	E-10	0.32・0.24・0.23	
SP189	E-10	0.31・0.25・0.43	
SP190	F-10	0.37・0.32・0.25	
SP191	F-10	0.33・0.32・0.29	
SP192	G-9	0.33・0.32・0.11	
SP193	G-9	0.26・0.22・0.05	
SP194	F-9 G-9	0.41・0.35・0.27	
SP195	F-9 G-9	0.63・0.45・0.17	
SP196	E-10	0.50・0.30・0.23	
SP197	M-6・7	0.50・0.38・0.45	
SP198	M-6	0.33・0.30・0.23	
SP199	M-8 N-8	0.40・0.34・0.18	
SP200	N-8	0.38・0.34・0.33	
SP201	N-8	0.76・0.42・0.27	
SP202	N-8	0.36・0.33・0.33	
SP203	N-7	0.42・0.40・0.36	
SP204	欠番		
SP205	O-7	0.86・0.50・0.25	

遺構名	位置	規模 (長軸・短軸・深さ)	備考
SP206	欠番		
SP207a	P-7・8	0.74・0.53・0.17	
SP207b	P-7	0.33・0.30・0.38	
SP208	P-7・8	0.50・0.46・0.48	
SP209	Q-7	0.40・0.39・0.42	
SP210	O-6	0.38・0.31・0.04	
SP211	O-6	0.37・0.32・0.18	
SP212	N-3	0.30・0.29・0.17	
SP213	Q-4	0.31・0.28・0.26	
SP214	C-11	0.54・0.27・0.13	
SP215	C-11	0.41・0.32・0.20	
SP216	B-11	0.25・0.24・0.15	
SP217	B-11 C-11	0.47・0.43・ー	
SP218	C-12	0.26・0.20・0.37	
SP219	H-9	0.44・0.42・0.18	
SP220	B-9 C-9	0.25・0.20・0.37	
SP221	C-9	0.13・0.12・0.06	
SP222	C-11	0.57・0.56・0.12	
SP223	B-11	0.40・0.34・0.18	
SP224	B-10	0.33・0.26・0.19	
SP225	B-10	0.40・0.29・0.35	
SP226	B-10	0.50・0.42・0.20	
SP227	B-9	0.28・0.26・0.23	
SP228	D-9	0.36・0.30・0.34	
SP229	B-11	0.33・0.29・0.66	
SP230	C-11	0.47・0.41・0.42	
SP231	N-2	0.22・0.21・0.19	
SP232	欠番		
SP233	E-9	0.22・0.19・0.06	
SP234	H-8	0.66・0.45・0.56	
SP235	H-8	0.28・0.26・0.27	
SP236	Q-4	0.22・0.20・0.20	
SP237	H-8	0.30・0.24・0.15	
SP238	H-8	0.44・0.34・0.13	
SP239	I-8	0.28・0.24・0.43	
SP240	I-8	0.21・0.15・0.14	
SP241	G-9	0.45・0.33・0.10	
SP242	I-8	0.30・0.28・0.36	
SP243	I-8	0.87・0.63・0.43	
SP244	K-8	0.26・0.26・0.19	
SP245	H-7・8	0.47・0.35・0.11	
SP246	B-11	0.44・0.43・0.50	
SP247	K-8	0.60・0.23・0.08	
SP248	L-7・8	0.30・0.19・0.12	
SP249	L-8	0.27・0.26・0.12	

第23表 ビット計測値3

遺構名	位置	規模 (長軸・短軸・深さ)	備考
SP250	F-11	0.38・0.33・0.36	
SP251	Q-5	0.58・0.46・0.24	
SP252	R-5	0.33・0.30・0.28	
SP253	Q-6 R-6	0.27・0.19・0.23	
SP254	E-9	—・—・0.27	
SP255	E-9	—・—・0.26	
SP256	Q-6 R-6	0.25・0.23・0.55	
SP257	Q-6 R-6	0.26・0.26・0.30	
SP258	R-6	0.41・0.24・0.15	
SP259	R-6	0.26・0.25・0.38	
SP260	M-1・2	0.27・0.32・0.34	
SP261	M-2	0.31・0.39・0.22	
SP262	Q-6	0.44・0.30・0.23	
SP263	欠番		
SP264	欠番		
SP265	欠番		
SP266	Q-6	0.40・0.33・0.41	
SP267	Q-6	0.41・0.34・0.09	
SP268	P-8	0.45・0.41・0.35	
SP269	E-10	0.38・0.27・0.37	
SP270	E-10	0.37・0.27・0.33	
SP271	欠番		
SP272	欠番		
SP273	欠番		
SP274	欠番		
SP275	欠番		
SP276	欠番		
SP277	欠番		
SP278	欠番		
SP279	欠番		
SP280	Q-3	0.37・0.32・0.43	
SP281	Q-3	0.36・0.28・0.16	
SP282	Q-3	—・—・—	
SP283	P-4	0.42・0.40・0.25	
SP284	P-4	0.29・0.26・0.18	
SP285	P-3	0.24・0.20・0.05	
SP286	P-3	0.21・0.19・0.02	
SP287	P-3	0.28・0.21・0.09	
SP288	P-3	0.38・0.32・0.20	
SP289	欠番		
SP290	欠番		
SP291	Q-7	0.29・0.26・0.24	
SP292	P-7	0.54・0.52・0.53	
SP293	P-7	0.44・0.37・0.21	

遺構名	位置	規模 (長軸・短軸・深さ)	備考
SP294	0-7 P-7	0.84・0.40・0.19	
SP295	0-7	0.81・0.32・0.69	
SP296	0-7	0.72・0.40・0.38	
SP297	N-7 0-7	0.23・0.15・0.15	
SP298	N-7 0-7	0.43・0.33・0.23	
SP299	N-7	0.36・0.30・0.18	
SP300	L-6	0.81・0.61・0.44	
SP301	L-5・6	0.41・0.31・0.40	
SP302	L-6	0.11・0.10・0.19	
SP303	P-3	0.18・0.18・0.36	
SP304	P-6	0.34・0.26・0.34	
SP305	L-2 M-2	0.35・0.36・0.21	
SP306	N-7	0.39・0.35・0.41	
SP307	L-5	0.27・0.27・0.20	
SP308	L-7	0.34・0.28・0.28	
SP309	L-6・7	0.55・0.39・0.43	
SP310	L-7	0.51・0.50・0.38	
SP311	M-1	0.36・0.23・0.21	
SP312	M-1	0.30・0.24・0.17	
SP313	M-2	0.32・0.11・0.14	
SP314	M-2	0.34・0.28・0.22	
SP315	M-2	0.25・0.24・0.23	
SP316	M-2	0.29・0.26・0.15	
SP317	M-2	0.23・0.17・0.13	
SP318	M-2	0.29・0.20・—	
SP319	M-2・3	0.23・0.20・0.06	
SP320	M-3	0.28・0.23・0.16	
SP321	M-4	0.22・0.21・0.17	
SP322	M-4	0.14・0.14・0.07	
SP323	M-4	0.31・0.26・0.27	
SP324	L-4 M-4	0.24・0.23・0.15	
SP325	M-4	0.21・0.18・0.24	
SP326	M-4・5	0.31・0.25・0.19	
SP327	M-5	0.34・0.31・0.40	
SP328	M-4・5	0.36・0.29・0.09	
SP329	M-4	0.21・0.18・0.27	
SP330	M-4・5	0.36・0.27・0.10	
SP331	M-4	0.22・0.20・0.23	
SP332	M-4	0.32・0.28・0.19	
SP333	M-5	0.32・0.30・0.15	
SP334	M-5	0.20・0.17・0.17	
SP335	L-6 M-6	0.21・0.20・0.17	
SP336	M-7	0.38・0.35・0.10	

第24表 ビット計測値4

遺構名	位置	規模 (長軸・短軸・深さ)	備考
SP337	L-7 M-5	0.37・0.35・0.29	
SP338	M-7	0.37・0.31・0.10	
SP339	M-7	0.36・0.32・0.18	
SP340	M-6	0.27・0.22・0.15	
SP341	M-6	0.30・0.26・0.22	
SP342	M-6	0.26・0.23・0.02	
SP343	M-7	0.32・0.30・0.16	
SP344	M-7・8	0.37・0.29・0.32	
SP345	M-8	0.68・0.48・0.52	
SP346	M-8	0.31・0.28・0.15	
SP347	L-8 M-8	0.36・0.30・0.29	
SP348	M-8	0.34・0.26・0.24	
SP349	M-8	0.34・0.31・0.24	
SP350	M-8	0.34・0.28・0.24	
SP351	M-8	0.35・0.27・0.20	
SP352	M-8	0.34・0.25・0.29	
SP353	M-8	0.34・0.27・0.28	
SP354	N-2・3	0.32・0.32・0.22	
SP355	N-3	0.24・0.18・0.16	
SP356	N-3	0.21・0.19・0.02	
SP357	N-2	0.38・0.31・0.31	
SP358	N-2	0.27・0.24・0.11	
SP359	N-2	0.34・0.21・0.10	
SP360	N-3	0.24・0.21・0.17	
SP361	N-4	0.16・0.17・0.07	
SP362	N-4	0.32・0.28・0.22	
SP363	N-4	0.32・0.32・0.23	
SP364	N-4	0.30・0.28・0.16	
SP365	N-4	0.38・0.31・0.34	
SP366	N-4	0.26・0.23・0.10	
SP367	N-5	0.30・0.27・0.17	
SP368	N-5	0.23・0.23・0.08	
SP369	N-5	0.29・0.23・0.41	
SP370	N-5	0.29・0.18・0.27	
SP371	N-5	0.19・0.17・0.17	
SP372	N-5	0.28・0.24・0.07	
SP373	N-5	0.40・0.38・0.22	
SP374	N-5	0.30・0.27・0.19	
SP375	N-6	0.35・0.28・0.16	
SP376	N-6	0.23・0.22・0.15	
SP377	N-6	0.20・0.18・0.18	
SP378	N-6	0.47・0.38・0.09	
SP379	N-6	0.40・0.37・0.39	
SP380	N-6	0.51・0.46・0.14	
SP381	N-6	0.28・0.19・0.18	

遺構名	位置	規模 (長軸・短軸・深さ)	備考
SP382	N-5	0.29・0.27・0.17	
SP383	N-5・6	0.35・0.34・0.24	
SP384	N-6	0.31・0.25・0.26	
SP385	N-6	0.26・0.19・0.11	
SP386	N-6	0.24・0.23・0.66	
SP387	N-7	0.38・0.31・0.24	
SP388	N-7	0.28・0.26・0.12	
SP389	M-7	0.33・0.41・0.22	
SP390	N-7・8	0.40・0.31・0.29	
SP391	N-7・8	0.31・0.24・0.17	
SP392	N-8	0.35・0.22・0.12	
SP393	N-8	0.26・0.24・0.23	
SP394	N-8	0.31・0.24・0.09	
SP395	N-8	0.34・0.30・0.15	
SP396	N-8	0.34・0.34・0.53	
SP397	N-8	0.27・0.30・0.21	
SP398	N-8	0.36・0.33・0.33	
SP399	N-8	0.18・0.22・0.02	
SP400	N-8	0.32・0.22・0.11	
SP401	N-8	0.27・0.25・0.23	
SP402	N-8	0.29・0.26・0.15	
SP403	N-8	0.37・0.33・0.32	
SP404	N-8	0.41・0.39・0.70	
SP405	O-1	0.17・0.27・0.35	
SP406	O-1	0.30・0.24・0.06	
SP407b	O-2	0.30・0.24・0.23	
SP408	O-2	0.23・0.18・0.13	
SP409	O-3	0.15・0.12・0.12	
SP410	O-3	0.28・0.19・0.20	
SP411	O-3・4	0.25・0.27・0.10	
SP412	O-4	0.32・0.23・0.25	
SP413	O-4	0.32・0.28・ー	
SP414	O-3	0.14・0.12・0.10	
SP415	O-3	0.29・0.27・0.24	
SP416	O-3	0.28・0.24・0.17	
SP417	O-3	0.38・0.31・0.17	
SP418	N-4 O-4	0.36・0.29・0.23	
SP419	N-4	0.22・0.19・0.22	
SP420	O-4・5	0.17・0.17・0.11	
SP421	O-4	0.29・0.22・0.26	
SP422	Q-5	0.22・0.22・0.27	
SP423	O-4・5	0.34・0.25・0.09	
SP424	O-4・5	0.22・0.14・0.10	
SP425	O-4	0.24・0.20・ー	
SP426	O-4	0.23・0.22・0.15	

第 25 表 ビット計測値 5

遺構名	位 置	規 模 (長軸・短軸・深さ)	備 考
SP427	0-4	0.21・0.18・0.13	
SP428	0-4	0.31・0.24・0.24	
SP429	0-4	0.28・0.25・0.13	
SP430	0-4	0.43・0.33・0.17	
SP431	0-5	0.21・0.21・0.18	
SP432	0-5	0.20・0.20・0.14	
SP433	0-5	0.24・0.21・0.08	
SP434	0-5	0.18・0.16・0.06	
SP435	0-5	0.19・0.18・―	
SP436	0-5	0.29・0.23・0.08	
SP437	0-5	0.17・0.14・0.12	
SP438	0-6	0.35・0.27・0.34	
SP439	0-6	0.24・0.21・0.22	
SP440	0-5	0.24・0.20・0.15	
SP441	0-6	0.69・0.53・0.14	
SP442	0-5	0.35・0.30・0.10	
SP443	N-6 0-6	0.42・0.40・―	
SP444	0-6	0.24・0.21・―	
SP445	0-6	0.20・0.18・0.13	
SP446	0-7	0.32・0.30・―	
SP447	0-7	0.28・0.22・0.16	
SP448	0-7	0.37・0.32・0.23	
SP449	0-7	0.43・0.32・0.14	
SP450	0-6	0.40・0.35・0.14	
SP451	0-7	0.29・0.22・―	
SP452	0-6	0.26・0.23・0.12	
SP453	0-7	0.48・0.37・0.29	
SP454	0-7	0.19・0.19・―	
SP455	0-7	0.22・0.19・―	
SP456	0-7	0.17・0.15・―	
SP457	0-7	0.23・0.21・―	
SP458	0-7	0.32・0.23・0.16	
SP459	0-7	0.24・0.19・0.11	
SP460	0-7	0.24・0.20・0.09	
SP461	0-7	0.31・0.29・0.14	
SP462	0-7	0.48・0.26・0.21	
SP463	0-7	0.24・0.23・0.24	
SP464	0-7	0.23・0.21・0.11	
SP465	0-6	0.27・0.26・0.24	
SP466	0-6	0.29・0.23・0.17	
SP467	0-6	0.33・0.31・0.27	
SP468	N-7 0-7	0.46・0.37・0.25	
SP469	0-7・8	0.46・0.37・0.37	
SP470	0-8	0.39・0.29・0.19	
SP471	0-7	0.38・0.34・0.05	

遺構名	位 置	規 模 (長軸・短軸・深さ)	備 考
SP472	0-8	0.29・0.25・0.24	
SP473	0-8	0.37・0.34・0.51	
SP474	0-8	0.23・0.22・0.22	
SP475	0-8	0.38・0.32・0.33	
SP476	0-7	0.37・0.36・0.28	
SP477	0-7	0.21・0.17・0.11	
SP478	0-7	0.35・0.32・0.45	
SP479	0-7	0.39・0.28・0.27	
SP480	0-7	0.28・0.27・0.38	
SP481	P-2	0.27・0.25・0.20	
SP482	P-2	0.40・0.40・0.32	
SP483	P-2	0.46・0.45・0.28	
SP484	P-2	0.26・0.23・0.16	
SP485	P-2	0.26・0.24・0.15	
SP486	P-2	0.49・0.29・0.12	
SP487	P-2	0.21・0.21・0.17	
SP488	P-2	0.28・0.27・0.28	
SP489	P-2	0.26・0.20・0.15	
SP490	P-3	0.29・0.28・0.07	
SP491	欠 番		
SP492	欠 番		
SP493	欠 番		
SP494	欠 番		
SP495	欠 番		
SP496	欠 番		
SP497	欠 番		
SP498	欠 番		
SP499	欠 番		
SP500	P-2	0.27・0.23・0.25	
SP501	P-3	0.29・0.28・0.39	
SP502	P-3	0.34・0.22・0.01	
SP503	P-3	―・―・0.19	
SP504	P-3	0.47・0.45・―	
SP505	P-3	0.21・0.18・0.00	
SP506	P-3	0.27・0.25・0.30	
SP507	P-3	0.28・0.20・―	
SP508	P-3	0.19・0.16・―	
SP509	P-3・4	0.49・0.43・0.09	
SP510	P-3	0.39・0.25・0.00	
SP511	P-4	0.25・0.24・―	
SP512	0-4	0.29・0.28・―	
SP513	P-4	0.63・0.43・0.30	
SP514	P-4	0.38・0.32・0.06	
SP515	0-3	0.33・0.22・0.19	
SP516	P-3	0.33・0.23・0.39	
SP517	P-3	0.19・0.17・0.25	

第 26 表 ビット計測値 6

遺構名	位 置	規 模 (長軸・短軸・深さ)	備 考
SP518	P-3	0.41・0.37・0.18	
SP519	P-3	0.31・0.27・0.48	
SP520	P-3	0.34・0.32・0.18	
SP521	P-2	0.29・0.26・0.20	
SP522	P-4	0.22・0.21・—	
SP523	P-4	0.23・0.22・0.04	
SP524	P-4	0.30・0.24・0.18	
SP525	P-4	0.23・0.22・0.21	
SP526	P-4	0.28・0.26・0.26	
SP527	P-4	0.29・0.24・0.31	
SP528	P-4	0.32・0.30・0.20	
SP529	P-4	0.29・0.20・0.21	
SP530	P-4	0.25・0.22・0.30	
SP531	P-5	0.30・0.30・0.27	
SP532	P-5	0.34・0.33・0.26	
SP533	0-6 P-6	0.22・0.21・—	
SP534	0-6	0.33・0.32・0.20	
SP535	P-6	0.49・0.28・0.20	
SP536	P-6	0.42・0.28・0.25	
SP537	P-6	0.34・0.28・0.29	
SP538	P-6	0.34・0.30・0.16	
SP539	P-7	0.37・0.26・0.12	
SP540	0-7	0.19・0.16・0.07	
SP541	0-7	0.26・0.17・0.14	
SP542	0-7	0.30・0.27・—	
SP543	P-7	0.29・0.28・0.17	
SP544	P-7	0.47・0.36・0.24	
SP545	P-7	0.28・0.20・0.20	
SP546	0-7	0.33・0.25・0.17	
SP547	P-7	0.31・0.27・0.19	
SP548	P-8	0.38・0.26・0.20	
SP549	P-8	0.58・0.51・0.17	
SP550	P-7	0.32・0.26・—	
SP551	P-7	0.34・0.30・0.33	
SP552a	P-7・8	0.52・0.50・0.23	
SP552b	P-2	0.54・0.29・0.09	
SP553	P-2	0.39・0.35・0.17	
SP554	P-2	0.33・0.31・0.30	
SP555	Q-2	0.61・0.52・0.47	
SP556	Q-2	0.22・0.20・0.26	
SP557	Q-2	0.22・0.21・0.08	
SP558	Q-2	0.26・0.20・0.13	
SP559	Q-2	0.42・0.37・0.45	
SP560	Q-2	0.44・0.36・0.20	
SP561	Q-2	0.29・0.29・0.12	

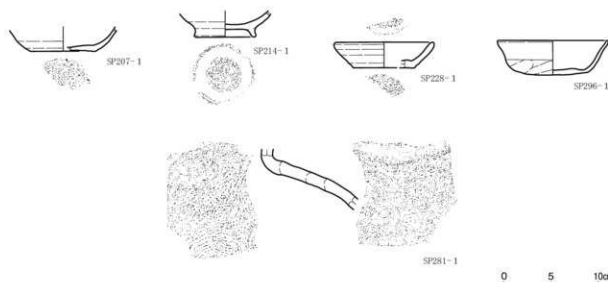
遺構名	位 置	規 模 (長軸・短軸・深さ)	備 考
SP562	Q-2	0.28・0.21・0.06	
SP563	Q-2	0.24・0.22・0.14	
SP564a	Q-2	0.54・0.50・0.44	
SP564b	Q-2	0.30・0.28・0.32	
SP565	Q-2・3	0.66・0.56・0.55	
SP566	Q-3	0.20・0.16・0.16	
SP567	Q-3	0.36・0.25・0.39	
SP568	Q-2	0.33・0.30・0.17	
SP569	Q-3	0.43・0.40・0.24	
SP570	Q-3	0.20・0.19・0.13	
SP571	Q-3	0.29・0.24・0.14	
SP572	Q-3	0.52・0.36・0.37	
SP573	Q-3	0.25・0.21・0.24	
SP574	Q-3	0.34・0.33・0.34	
SP575	Q-3	0.21・0.19・0.21	
SP576	Q-3	0.21・0.20・0.29	
SP577	Q-3	0.36・0.17・0.16	
SP578	Q-3	0.41・0.40・0.00	
SP579	Q-3	0.36・0.27・0.28	
SP580	Q-3	0.24・0.23・—	
SP581	Q-3	0.52・0.46・0.10	
SP582	Q-3	0.28・0.27・0.34	
SP583	Q-3	0.32・0.25・—	
SP584	Q-3	0.38・0.31・—	
SP585	Q-3	0.28・0.23・—	
SP586	Q-4	0.22・0.14・—	
SP587	Q-4	0.31・0.28・—	
SP588	Q-4	0.41・0.35・—	
SP589	Q-3	0.21・0.17・0.18	
SP590	Q-3	0.28・0.25・0.19	
SP591	Q-3・4	0.25・0.23・0.19	
SP592	Q-4	0.35・0.35・0.43	
SP593	Q-4	0.29・0.29・0.32	
SP594	P-4 Q-4	0.33・0.30・0.22	
SP595	Q-4	0.24・0.19・0.21	
SP596	Q-4	0.17・0.14・0.12	
SP597	Q-4	0.22・0.22・—	
SP598	Q-4	0.34・0.33・—	
SP599	Q-4	0.29・0.28・—	
SP600	Q-4	0.42・0.35・0.29	
SP601	Q-4	0.25・0.25・0.26	
SP602	Q-4	0.49・0.27・0.17	
SP603	Q-4	0.40・0.27・0.37	
SP604	Q-4	0.42・0.22・0.23	
SP605	Q-4	0.29・0.27・0.34	

第 27 表 ビット計測値 7

遺構名	位置	規模 (長軸・短軸・深さ)	備考
SP606	Q-4	0.57・0.32・0.23	
SP607	Q-4	0.61・0.50・0.56	
SP608	Q-4	0.21・0.18・0.19	
SP609	P-4 Q-4	0.49・0.48・0.12	
SP610	P-4 Q-4	0.27・0.23・0.14	
SP611	P-5 Q-5	0.23・0.22・0.13	
SP612	P-5	0.37・0.28・0.19	
SP613	P-5 Q-5	0.40・0.39・0.47	
SP614	Q-5	0.29・0.29・-	
SP615	P-6	0.24・0.22・0.15	
SP616	P-6 Q-6	0.34・0.29・0.17	
SP617	P-6	0.25・0.23・0.25	

遺構名	位置	規模 (長軸・短軸・深さ)	備考
SP618	Q-6	0.34・0.34・0.16	
SP619	P-6	0.49・0.33・0.16	
SP620	P-6	0.27・0.24・0.10	
SP621	Q-6	0.27・0.25・0.28	
SP622	Q-6	0.30・0.29・0.31	
SP623	欠番		
SP624	Q-6	0.35・0.30・0.31	
SP625	Q-6	0.38・0.33・0.15	
SP626	欠番		
SP627	Q-6	0.28・0.23・0.17	
SP628	Q-7	0.64・0.47・0.51	
SP629	Q-5	0.34・0.33・0.21	
SP630	R-7	0.45・0.35・-	

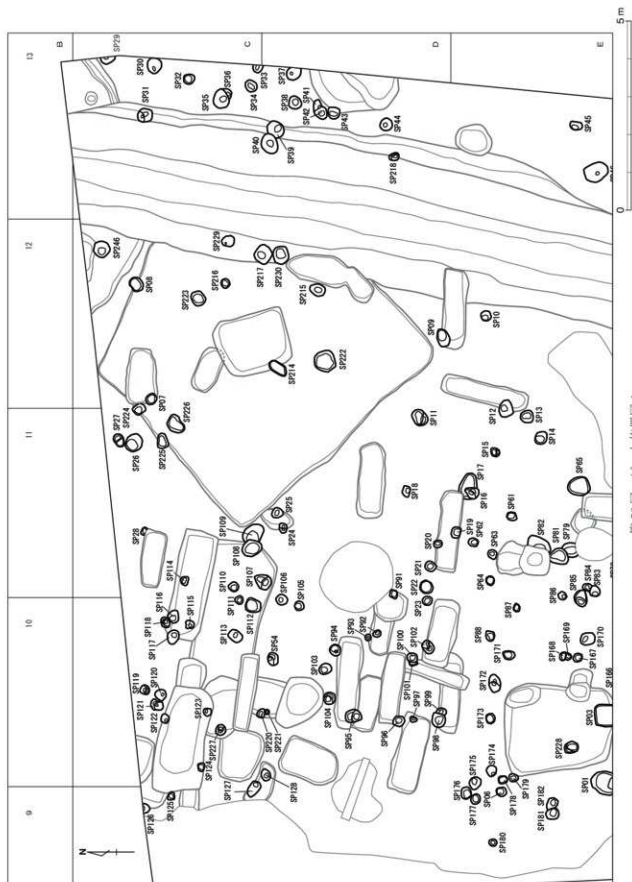
第28表 ビット計測値8



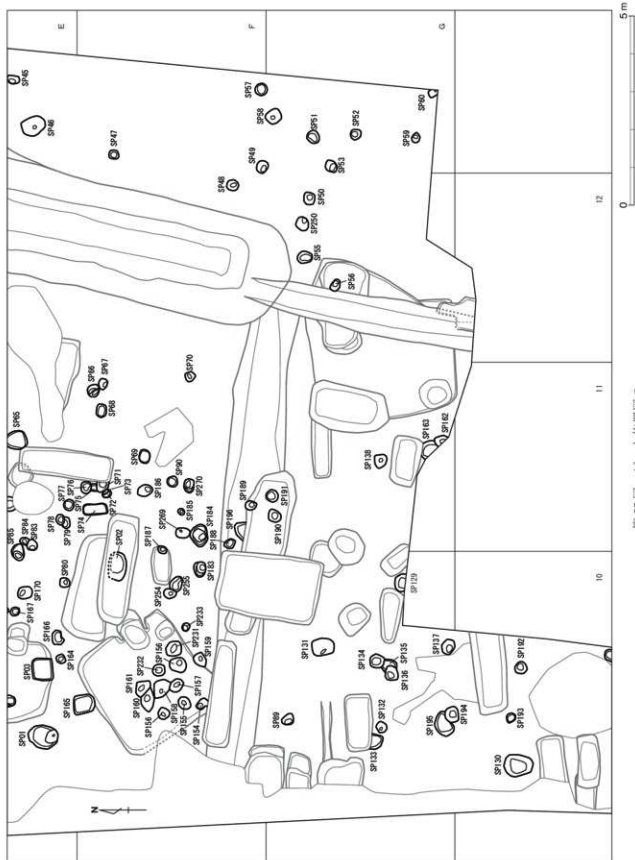
第55図 ビット出土遺物

SP207-1	坏	A. 底部径 (6.8)、器高 (2.6) B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ、底部回転系切り無調整。内面、回転ナデ。D. 黒色粒、白色粒。E. 内外一灰色。F. 口体部下位～底部1/3残存。H. 覆土。
SP214-1	埴	A. 底部径 (6.5)、器高 (2.8) B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ、底部回転系切り後高台貼り付け。内面、回転ナデ。D. 白色粒、石英。E. 内外一灰黄色。F. 底部破片。H. 覆土。
SP228-1	カワラケ	A. 口縁部径 (10.6)、底部径 (6.5)、器高 2.7。B. ロクロ成形。C. 外面、回転ナデ、底部回転系切り無調整。内面、回転ナデ。D. 褐色粒・白色粒。E. 内外一にぶい褐色。F. 口縁部～底部破片。H. 覆土。
SP281-1	甕	B. 粘土組織み上げ。C. 外面、平行タキ後ナデ。内面、同心円状の当て具痕、頸部ナデ。D. 白色粒・黒色鉱物。E. 内外一灰色。F. 胴部破片。H. 覆土。
SP296-1	坏	A. 口縁部径 (11.7)、器高 3.7。B. 粘土組織み上げ。C. 外面、体部ナデ、底部踏ケズリ、口縁部ヨコナデ。内面、ナデ。D. 黒色粒・黒色鉱物。E. 内外一にぶい褐色。F. 2/3残存。H. 覆土。

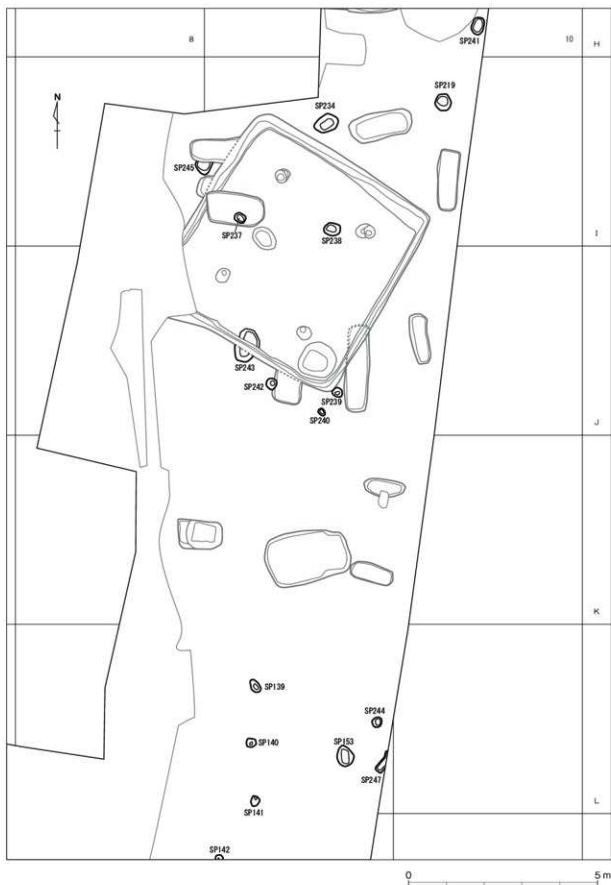
第29表 ビット出土遺物観察表



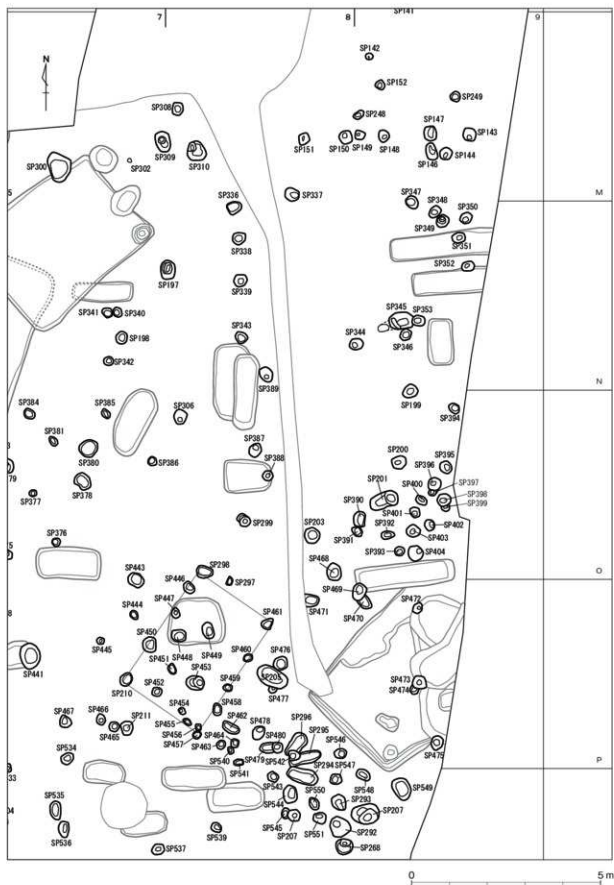
第56図 ピット位置図1



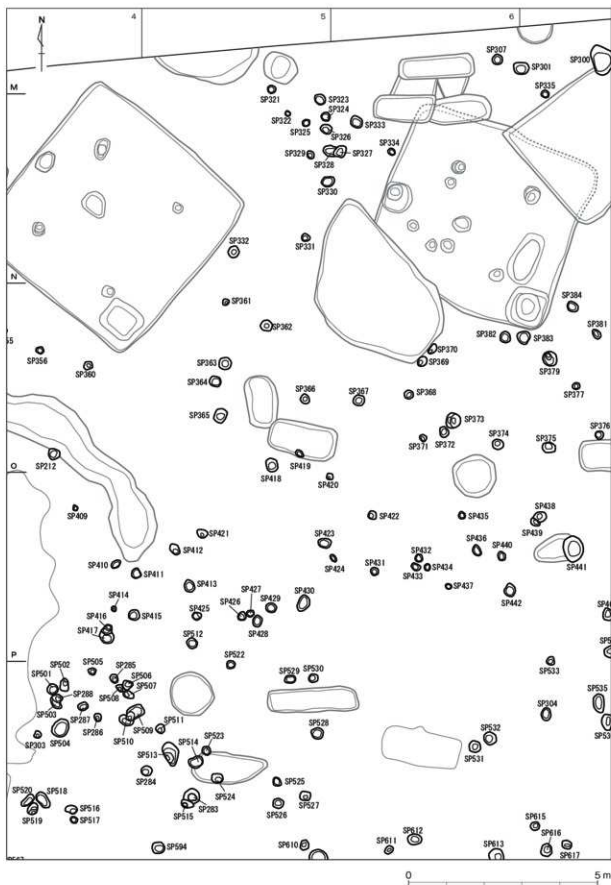
第57図 ビット位置図2



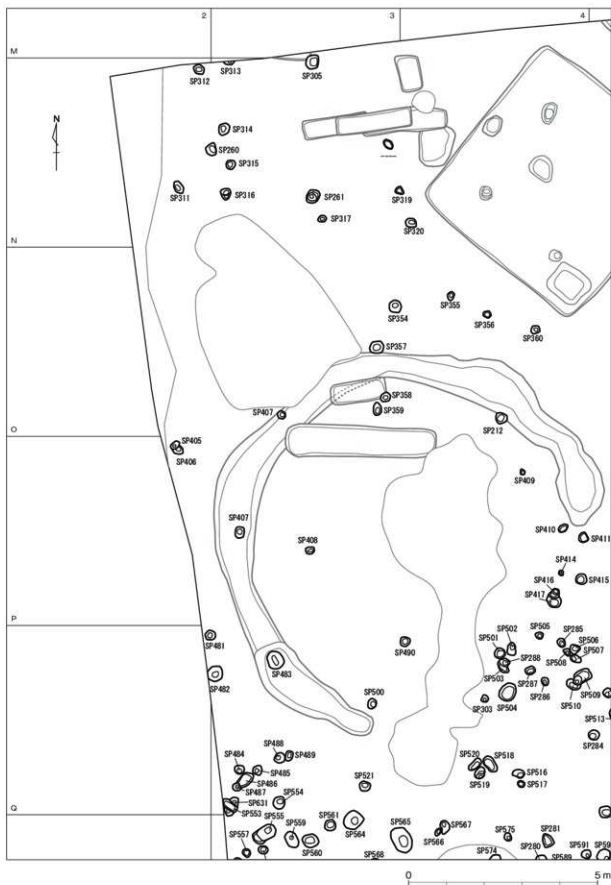
第58図 ピット位置図3



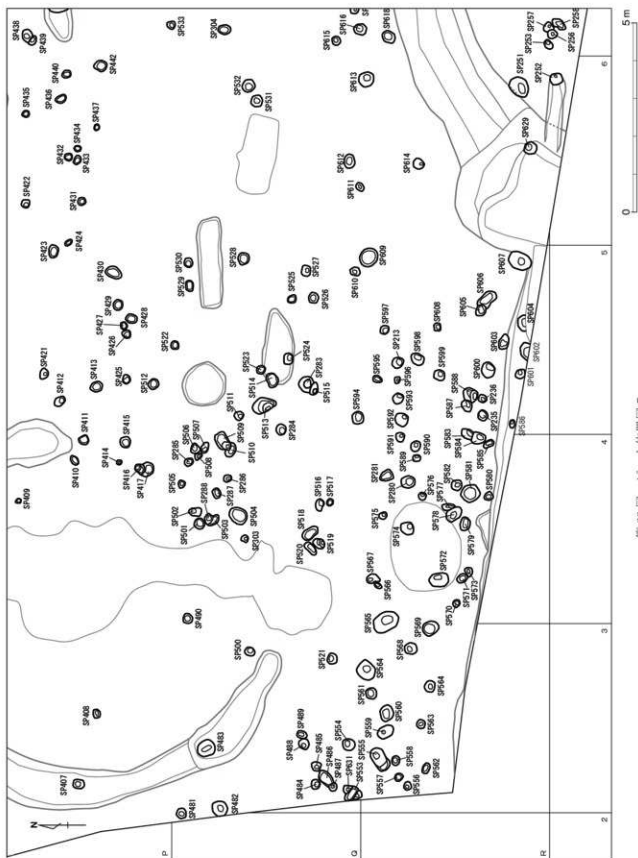
第 59 図 ピット位置図 4

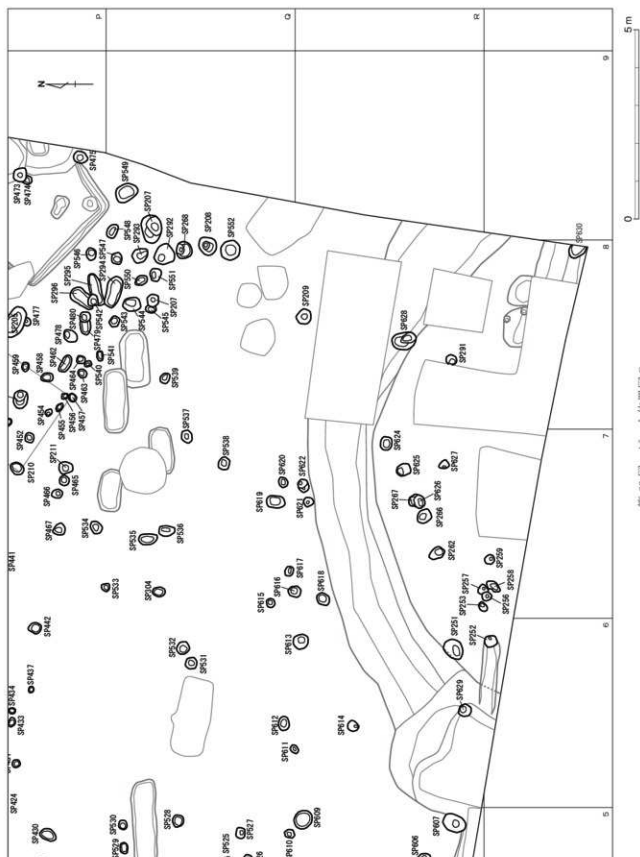


第 60 図 ビット位置図 5



第 61 図 ピット位置図 6



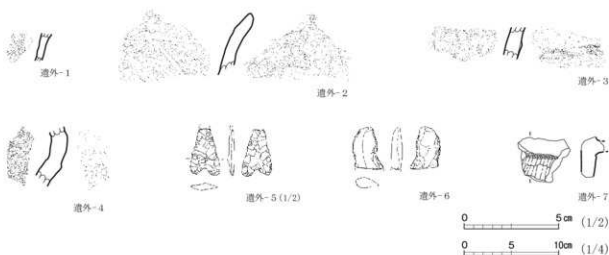


第 63 図 ビット位置図 8

第8節 遺構外出土遺物

(第64図、第30表、図版14)

遺構外出土遺物は5点を図示した。1は縄文時代中期後半の深鉢体部片である。今回の調査で出土した縄文土器片はこの1点のみであった。2～4は埴輪片である。2は朝顔形埴輪の口縁部と考えられる。3・4については種別は不明である。5は滑石製の石鍋の破片である。外面には細かい調整痕が認められ、内面は平滑に仕上げられている。本遺跡地周辺は本庄城の存在が指摘されている。この石鍋については城館跡からの出土例が多く知られていることから、本庄城に関係すると思われる遺物の可能性が考慮される。



第64図 遺構外出土遺物

遺外-1	深鉢	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、単節LR縄紋施紋後、縦位の沈線。内面、ナデ。D. 白色粒・雲母。E. 内外一黄灰色。F. 体部破片。H. SI12。
遺外-2	朝顔形埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ハケ（ハケ本数/2cm: 7本）。内面、ハケ（ハケ本数/2cm: 7本）後線刻。D. 黒色粒・褐色粒。E. 内一にぶい橙色、外一橙色。F. 口縁部破片。H. SK3。
遺外-3	埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、突帯貼り付け。内面、ハケ（ハケ本数/2cm: 7本）後ナデ。D. 黒色鉱物・褐色粒。E. 内外一にぶい橙色。F. 胴部破片。H. SI04。
遺外-4	埴輪	B. 粘土紐積み上げ。C. 外面、ハケ（ハケ本数/2cm: 6本以上）、突帯の剥離痕が認められる。内面、ナデ。D. 黒色鉱物・チャート。E. 内外一にぶい橙色。F. 胴部破片。H. 調査区北側。
遺外-5	石鍋	A. 長さ<2.46>、幅1.6、厚さ0.4、重さ1.20 g。F. 先端部・左脚欠損。G. チャート。H. 凹基無基。H. SI01。
遺外-6	打製石斧	A. 長さ<6.7>、幅<4.8>、厚さ<1.83>、重さ62.80 g。C. 籾皮をもつ剥片の二側縁に直接打撃による両面加工を施す。F. 中央へ刃部欠損。G. ホルンフェルス。H. SI04。
遺外-7	石鍋	A. 長さ<4.7>、幅<5.5>、厚さ2.4、重さ68.84 g。C. 外面、細かいズリ。内面、平滑。E. 内外一灰色。F. 胴部破片。G. 滑石製。H. SI04。

第30表 遺構外出土遺物観察表

第V章 まとめ

第11号竪穴住居跡出土三脚鉢について

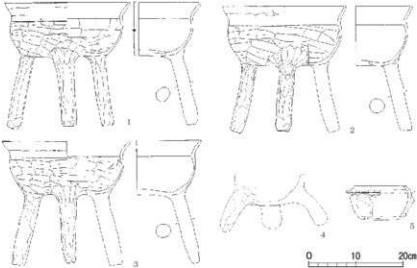
第11号竪穴住居跡から、三脚鉢⁽¹⁾が出土した。本庄市域においては、天神林Ⅱ遺跡、将監塚・古井戸遺跡、秋山大町遺跡などで出土例が知られるが、他地域における出土例は少なく特筆すべき遺物といえる。ここでは、第V章において記した事実記載に補足を加えると共に、他の遺跡における出土事例を本遺跡出土の三脚鉢と比較・検討しまとめた。

出土状態

第11号竪穴住居跡は出土遺物から9世紀に帰属すると考えられる。三脚鉢の脚部は2点とも遺構確認時に出土したものである。残り1点の脚部については発見には至らなかった。底部片はカマド右袖脇の床面からわずかに高い位置からの出土である。出土時にはすでに破損した状態であり、口縁へ体部に至っては全体の2割ほどしか残存していなかった。

本庄市域における出土事例

天神林Ⅱ遺跡 本庄市東台に所在する。第2号住居跡から全体の器形が把握できるものが3点(第64図⁽²⁾)、別個体のものと考えられる脚部が2点、また、第1号溝跡から脚部が34点、体部片が3点、底部片が1点出土している。第2号住居跡及び第1号溝跡は共に伴して出土した遺物から9世紀に帰属するものと考えられる。第2号住居跡出土の三脚鉢は鉢形土器の体部下端から底部にかかる位置に3本の脚を付けるもので、本庄中北原遺跡出土例と似た器形となっている。本遺跡における出土点数から推測すると少なくとも16点以上の



1～3. 天神林Ⅱ遺跡第2号住居跡 4. 将監塚・古井戸遺跡H-103号住居跡
5. 秋山大町遺跡62号土坑

第65図 本庄市域出土の三脚鉢

三脚鉢が存在したことになり、この出土数は他遺跡の事例と比較しても圧倒的な出土量である。

将監塚・古井戸遺跡 本庄市共栄に所在する。H-103号住居跡の床下土坑から出土している(第65図)。住居跡の帰属時期は共に伴して出土した遺物から9世紀代に帰属するものと考えられる。出土した三脚鉢は他遺跡の事例と比較するとかなり小型である。鉢形の体部下端にやや湾曲した脚部を付けるもので、本庄中北原例とは異なる形態となる。その他、H-49・145号住居跡・遺構外から、脚部片がそれぞれ1点ずつ出土している。

秋山大町遺跡 本庄市児玉町秋山に所在する。62号土坑からの出土で、他の伴出物が認められないことから詳細な帰属時期は不明である。将監塚・古井戸例と同様、小型の三脚鉢である。小型の羽釜の体部中位

に脚部の剥離痕が認められる。

他地域における出土事例

埼玉県北部に接する群馬県西毛地域において三脚鉢の出土事例が散見される。群馬県内においてもこの地域に限定して出土例が認められることは特筆されよう。

第66図1は藤岡市株木B遺跡DH-51号住居跡出土例である。共伴した遺物から9世紀代に帰属するものと考えられる。小型甕の器形の土器に3本の脚が取り付けられるもので、脚部の取り付け位置は胴部下端から底部にかかる部分である。2は高崎市熊野堂遺跡98号住居跡出土例である。共伴した遺物から10世紀代に帰属するものと考えられる。羽釜胴部中位からやや湾曲した脚部が取り付けられるものである。3は富岡市中沢平賀界戸遺跡1-3号住居跡出土例である。共伴した遺物から10世紀代に帰属するものと考えられる。秋山大町・熊野堂例と同様、羽釜胴部中位からやや湾曲した脚が取り付けられている。



結び

以上、本庄市域及び周辺地域における出土事例を概観し

1. 群馬県藤岡市株木B遺跡DH-51号住居跡 2. 群馬県高崎市熊野堂遺跡98号住居跡 3. 群馬県富岡市中沢平賀界戸遺跡1-3号住居跡

第66図 他地域における出土事例

た。三脚鉢の出土地域は本庄市域を中心として群馬県藤岡市・富岡市・高崎市といった西毛地域に限定されている点は特筆されよう。また、9世紀代に帰属すると考えられる三脚鉢は鉢や小型甕といった器形に、体部下端から底部にかけて直線的な脚が取り付けられる傾向がある。それに対して後続する10世紀代の三脚鉢は羽釜の胴部中位にやや湾曲した脚が取り付けられるものが認められた。この器形の変化及び脚部の取り付け位置の違いが時代的なものによるものか今後更に検討する必要がある。また、本遺跡出土の三脚鉢の外底部には離れ砂と思われる砂の付着が認められた。これについては他遺跡の事例では同じものが見受けられず成形技法の違いという観点から検討課題となり得る。三脚鉢については、これまでに器形の違いから火舎・火鉢・香炉としての機能、煮炊具としての機能に分類されることが指摘されているほか、獸脚が取り付けられるものもあることから仏教系遺物としての機能も指摘されてきた。限定的な地域における出土を鑑みると特殊性については首肯されるが、その機能についての検討は更なる資料の増加を待つこととした。

(1) 三脚鉢という呼称は、本報告書において当該の土器を示すものとして用いる。

(2) 実測図については、坂井2002より引用した。

※本庄市雷電遺跡においても、ロコロ型形の羽釜に脚が取り付けられた三脚鉢が2点出土しているとの御指摘をいただいた。

【引用・参考文献】

- 坂井元子 2002 『埼玉考古』第37号「埼玉県本庄市天神林Ⅱ遺跡出土の三足鉢形土器」 埼玉考古学会
古川一明 2014 『東北歴史博物館研究機関』15「古代東北地方における特殊な形態の煮炊用土器について」 東北歴史博物館
赤坂浩一ほか 1988 『野間遺跡・古井戸』古墳・歴史時代編Ⅱ (財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
坂井美枝 1996 『中沢平賀界戸遺跡』(財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
関根慎二ほか 1990 『熊野堂遺跡』(2) (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
丸山治雄ほか 1991 『株木B遺跡』藤岡市教育委員会
宮本久子 2010 『秋山大町遺跡』本庄市遺跡調査会

第VI章 本庄中北原遺跡出土中世人骨

大妻女子大学博物館 橋崎修一郎

1. はじめに

本庄中北原遺跡は、埼玉県本庄市中央に位置する。委託を受けた毛野考古学研究所による発掘調査が、2017（平成 29）年 2 月～同年 3 月まで行われた。本遺跡の第 112 号土坑から、中世人骨が出土したので以下に報告する。

2. 第 112 号土坑出土人骨

(1) 人骨の出土状況

人骨は、長軸 1.02m・短軸 0.64m・深さ 0.29m の長方形土坑から出土している。

(2) 被葬者の埋葬状態

被葬者は、頭位を南にした横臥（側）臥屈葬で埋葬されたと推定される。なお、全国的に頭位は北が圧倒的に多く、南は珍しいことを付記しておく。

(3) 副葬品

副葬品は、銭貨 3 点（永樂通宝 2 点・開元通宝 1 点）・小刀 1 点が検出されている。

(4) 人骨の出土部位

人骨の残存状態は悪いが、全身骨格が出土している。

(5) 被葬者の個体数

出土人骨に明らかな重複部位は認められないため、被葬者の個体数は 1 個体であると推定される。

(6) 被葬者の性別

四肢骨は比較的小さく華者である。また、歯冠計測値は比較的中間的である。しかし、下顎骨は比較的大きく頑丈である。総合的に、被葬者の性別は男性であると推定される。小柄な男性であったのであろう。

(7) 被葬者の死亡年齢

歯の咬耗度を観察すると、象牙質が天井に露出する程度のマルティンの 2 度の状態である。したがって、被葬者の死亡年齢は約 30 歳代であると推定される。

表 1. 本庄中北原遺跡出土人骨歯冠計測値及び比較表

歯種	計測項目	遺跡名		中世時代人*		江戸時代人*		現代人**		
		112号土坑		Matsumura, 1995		Matsumura, 1995		権田, 1959		
下顎	M1	右	—	11.3	11.56	11.06	11.72	11.14	11.72	11.32
		左	—	11.1	11.00	10.49	11.15	10.62	10.89	10.55
	M2	右	—	11.1	11.06	10.55	11.39	10.78	11.30	10.89
		左	—	11.1	10.55	9.97	10.75	10.21	10.53	10.20

註1. 計測値の単位は、すべて、mm である。

註2. M1(第1大臼歯)・M2(第2大臼歯)。

註3. 計測項目は、M1(歯冠近遠心径)・M2(歯冠近遠心径)を意味する。

註4. 「*」は、MATSUMURA(1995)より引用。

註5. 「**」は、権田(1959)より引用。



写真1. 第112号土坑出土人骨出土状況（北→）

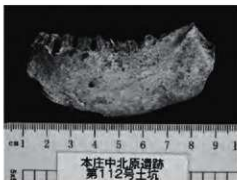


写真2. 第112号土坑下顎骨



写真3. 第112号土坑出土下顎左大臼歯

写真図版



調査区北半全景（上が東）



調査区南半全景（上が東）

図版 2



第1号竪穴住居跡全景（南から）



第1号竪穴住居跡遺物出土状態（南から）



第2号竪穴住居跡全景（南東から）



第3号竪穴住居跡全景（西から）



第3号竪穴住居跡カマド遺物出土状態（西から）



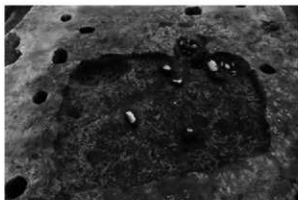
第3号竪穴住居跡遺物出土状態（西から）



第3号竪穴住居跡遺物出土状態近景（南から）



第4・5号竪穴住居跡全景（東から）



第6号竪穴住居跡全景（西から）



第6号竪穴住居跡カマド（西から）



第7号竪穴住居跡全景（上が北）



第7号竪穴住居跡炉跡（南から）



第7号竪穴住居跡遺物出土状態（南から）



第7号竪穴住居跡遺物出土状態近景（南東から）



第7号竪穴住居跡遺物出土状態近景（北から）



第7号竪穴住居跡貯蔵穴遺物出土状態（南から）

図版 4



第8・9号竪穴住居跡全景（南西から）



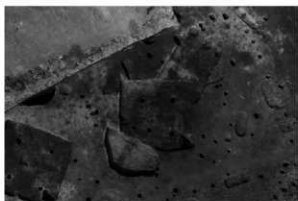
第10号竪穴住居跡全景（上が北東）



第10号竪穴住居跡遺物出土状態（南西から）



第10号竪穴住居跡貯蔵穴（南西から）



第11・12号竪穴住居跡全景（上が北）



第11号竪穴住居跡カマド（南西から）



第11号竪穴住居跡遺物出土状態（南東から）



第12号竪穴住居跡遺物出土状態（南から）



第 12 号堅穴住居跡遺物出土状態（北から）



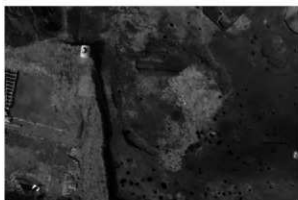
第 12 号堅穴住居跡遺物出土状態（北東から）



第 12 号堅穴住居跡貯蔵穴遺物出土状態（北から）



第 1 号古墳全景（北西から）



第 2 号古墳全景（上が北西）



調査区北西部土坑群（東から）



第 18・30・55 号土坑全景（西から）

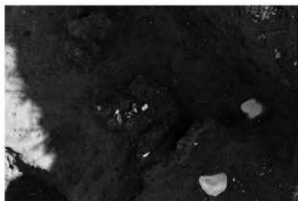


第 20 号土坑全景（東から）

図版 6



第 27 号土坑全景（東から）



第 31 号土坑焼骨出土状態（北西から）



第 31 号土坑礫出土状態（北から）



第 66 号土坑全景（北から）



第 78 号土坑遺物出土状態（西から）



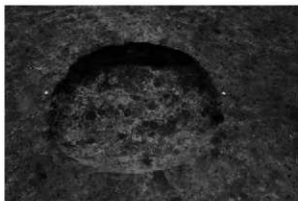
第 79 号土坑全景（北から）



第 80 号土坑土層断面（南西から）



第 87・88 号土坑全景（北から）



第 92 号土坑全景（北から）



第 108・110・111 号土坑全景（南西から）



第 112 号土坑全景（北から）



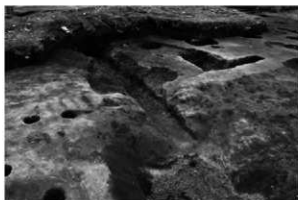
第 1 号溝全景（北から）



第 2 号溝全景（西から）



第 3 号溝全景（西から）

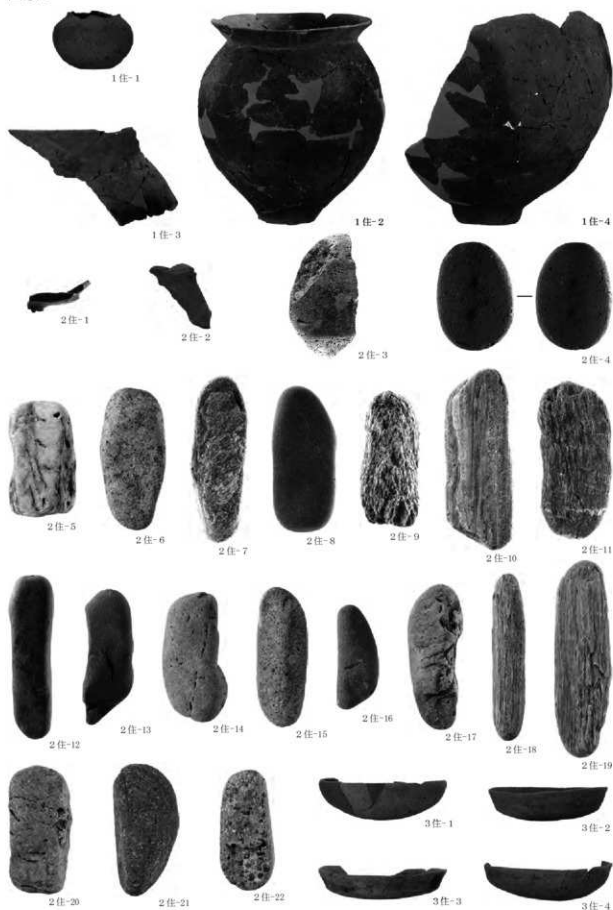


第 4 号溝全景（北東から）

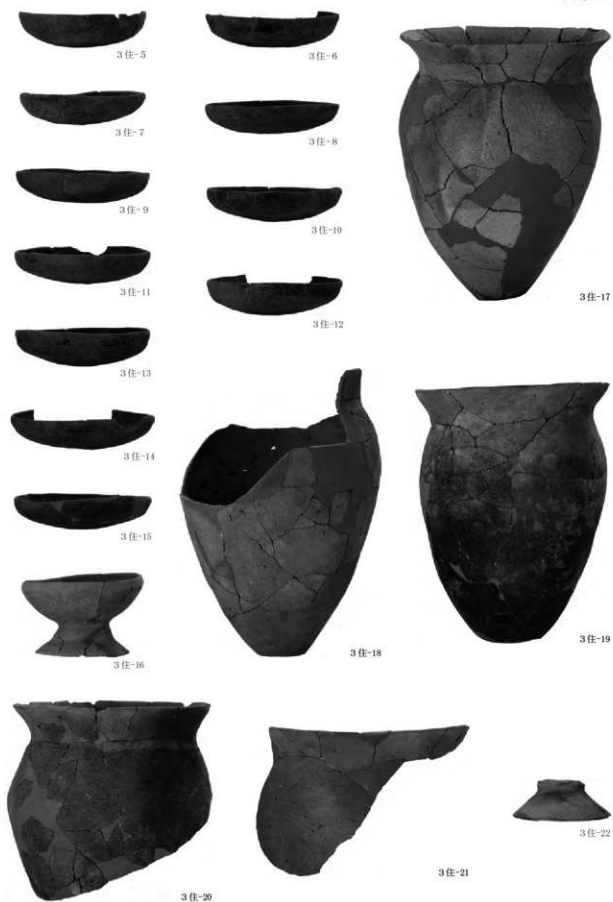


第 5 号溝全景（西から）

図版 8

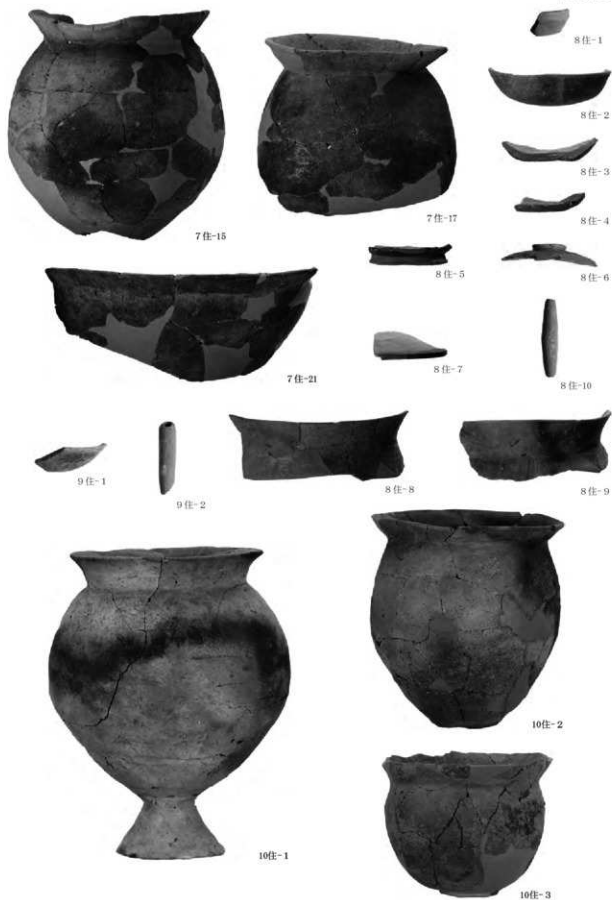


竪穴住居跡出土遺物 1





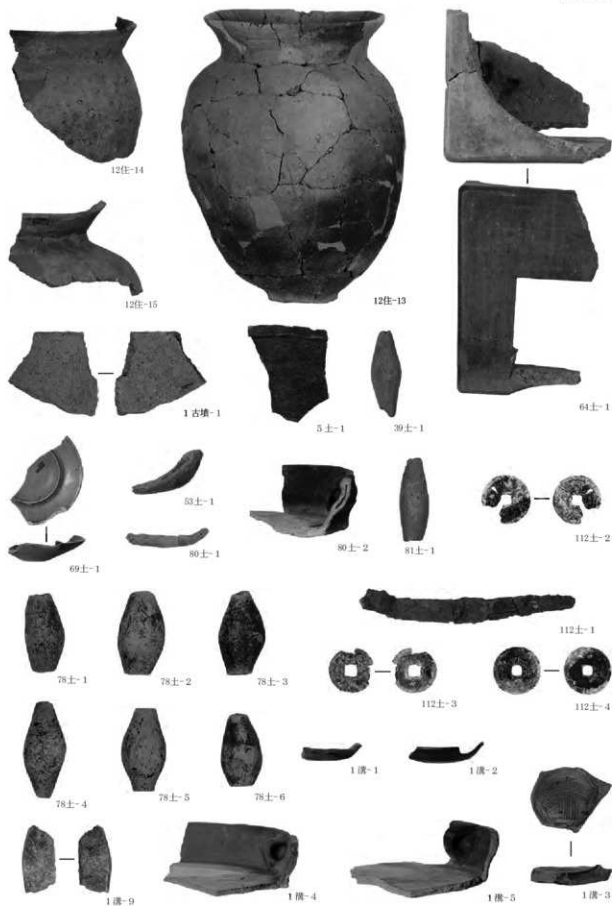
竪穴住居跡出土遺物 3



図版 12

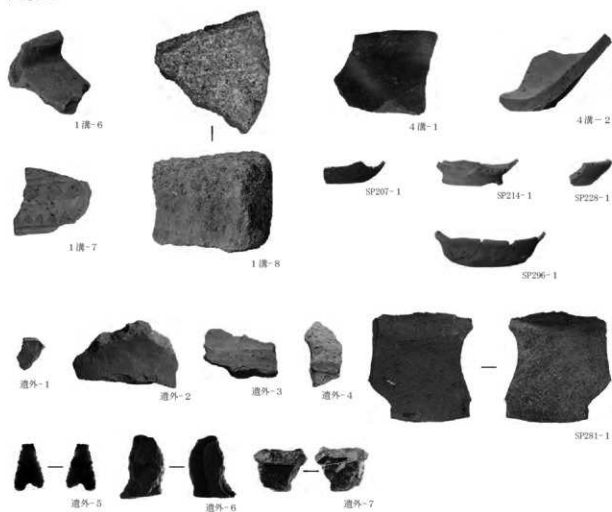


竪穴住居跡出土遺物 5



竪穴住居跡出土遺物 6・土坑出土遺物・溝出土遺物 1

図版 14



溝出土遺物 2・ピット出土遺物・遺構外出土遺物

報告書抄録

フリガナ	ホンジョウナカキタハライセキ		
書名	本庄中北原遺跡		
副書名	店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書		
シリーズ	本庄市埋蔵文化財調査報告書	巻次	第54集
編著者	伊藤順一、棚崎修一郎、南田法正		
編集期間	本庄市教育委員会		
所在地	〒367-8501 埼玉県本庄市本庄3丁目5番地3号 ℡ 0495-25-1185		
発行日	2018（平成30）年3月30日		

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
埼玉県本庄市中央 本庄中北原遺跡 号	埼玉県本庄市中央 二丁目1592番地2 号	112119	53-015	36° 14' 35"	139° 11' 19"	20170227 ～ 20170331	1604 m ²	店舗建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
本庄中北原遺跡		縄文		土器片（加曾利EⅢ式）、 石鏝、打製石斧	
	集落	古墳	堅穴住居跡 5、古墳 2、 土坑、ピット	土師器、土製紡錘車	
	墓域				
	集落	平安時代	堅穴住居跡 7、土坑、 ピット	土師器、須恵器	三脚鉢が出土。
	城館	中世	溝（堀）3、土坑、土壇墓 1、 火葬跡 1、ピット	カワラケ、軟質陶器、石臼	本庄域に関係すると思 われる卑を検出。
	墓域				
	集落	近世以降	溝 2、土坑、ピット		

本庄市埋蔵文化財調査報告書 第54集

本庄中北原遺跡

店舗建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成30年3月26日印刷

平成30年3月30日発行

発行 本庄市教育委員会

〒367-8501

埼玉県本庄市本庄

3丁目5番地3号

☎0495-25-1185

印刷 朝日印刷工業株式会社
